

基本計画書

基本計画画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部の設置							
フリガナ設置者		ガッコウホウジン セイケイガクエン 学校法人 成蹊学園							
フリガナ大学の名称		セイケイダイガク 成蹊大学							
大学本部の位置		東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号							
大学の目的		成蹊大学は、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として学術の理論及び応用を研究教授するとともに、成蹊学園建学の精神に基づき、良識ある人格高き社会の指導的人物を要請することを目的とする。							
新設学部等の目的		日本をはじめとする世界各地の文化や自然・社会環境等をグローバルな視野で理解し、人文学系と自然科学系の両面にわたる複眼的な思考と他者との協働によって、現代社会の様々な課題にチャレンジして解決できる、また、日本と世界をつなぐ人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	国際共創学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	国際共創学科	4	150	—	600	学士 (学術)	文学関係 理学関係	令和8年4月 第1年次	東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号
	計		150	—	600				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		大学の収容定員に係る学則変更認可申請（令和7年3月認可申請済） 国際共創学部 国際共創学科〔定員増〕（ 150）（令和8年4月） 経済学部 現代経済学科[定員増]（ 20）（令和8年4月） 経営学部 総合経営学科[定員増]（ 30）（令和8年4月） 文学部 英語英米文学科[定員減]（△15）（令和8年4月） 国際文化学科[定員減]（△5）（令和8年4月） 法学部 法律学科[定員減]（△6）（令和8年4月） 政治学科[定員減]（△4）（令和8年4月）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計				
	国際共創学部 国際共創学科	250科目	89科目	14科目	353科目	124単位			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	国際共創学部 国際共創学科	9人 (9)	6人 (6)	3人 (3)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	33人 (33)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 10人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	18 (18)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	9 (9)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	18 (18)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	9 (9)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	18 (18)			
	計	9 (9)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	18 (18)			
既存	経済学部 経済数理解学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	16 (16)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	経済学部 現代経済学科	10 (10)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	57 (57)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
	小計（a～b）	10 (10)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	10 (10)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	15 (15)			

経営学部 総合経営学科	26 (26)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	36 (36)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の 数 14人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	26 (26)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	31 (31)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			
小計（a～b）	26 (26)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	32 (32)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	26 (26)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	32 (32)			
理工学部 理工学科	38 (38)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	51 (51)	0 (0)	107 (108)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の 数 18人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	38 (38)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	51 (51)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	38 (38)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	51 (51)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	38 (38)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	51 (51)			
文学部 英語英米文学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	1 (1)	43 (43)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の 数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
文学部 日本文学科	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	44 (45)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の 数 5人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			

文学部 国際文化学科		7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	43 (43)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
文学部 現代社会学科		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	42 (42)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
法学部 法律学科		16 (16)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	41 (41)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		16 (16)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	21 (21)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		16 (16)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	21 (21)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		16 (16)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	21 (21)			
法学部 政治学科		12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	43 (43)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			

分	教養教育	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	304 (304)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)		
	小計（a～b）	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)		
	教職課程	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	41 (41)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	大学共通 大学付属機関等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	38 (39)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計	148 (148)	37 (37)	6 (6)	0 (0)	191 (191)	1 (1)	— (—)
	合 計	157 (157)	43 (43)	9 (9)	0 (0)	209 (209)	1 (1)	— (—)

職 種			専 属		その他		計			
事 務 職 員			130人 (130)		99人 (99)		229人 (229)			
技 術 職 員			1 (1)		1 (1)		2 (2)			
図 書 館 職 員			6 (6)		12 (12)		18 (18)			
そ の 他 の 職 員			0 (0)		40 (40)		40 (40)			
指 導 補 助 者			0 (0)		151 (151)		151 (151)			
計			137 (137)		303 (303)		440 (440)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		成蹊高等学校(収容 定員：966人)と共用 【必要面積】 校舎：5,304㎡ 運動場：8,400㎡ 普通教室：1,499㎡ 成蹊中学校(収容定 員：801人)と共用 【必要面積】 校舎：4,524㎡ 運動場：8,400㎡ 普通教室：1,201.5 ㎡ 成蹊小学校(収容定 員：720人)と共用 【必要面積】 校舎：3,420㎡ 運動場：7,200㎡ 普通教室：1,080㎡	
	校 舎 敷 地	166,397.63㎡	0㎡		51,241.63㎡		217,639.26㎡			
	そ の 他	8,256.21㎡	237,813.30㎡		18,671.01㎡		264,740.52㎡			
	合 計	174,653.84㎡	237,813.30㎡		69,912.64㎡		482,379.78㎡			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
		97,097.64㎡ (97,097.64㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		97,097.64㎡ (97,097.64㎡)			
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	212室		教 員 研 究 室		25室		大学全体	
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	大学等全体での共用分 図書 115,979[10,850] (109,299[10,838])
	国際共創学部 国際共創学科	660,221 [214,817] (642,036 [212,606])	7,819 [4,630] (7,179 [4,470])		138 [16] (129 [15])		90 [90] (84 [84])	126 (126)	0 (0)	
	計	660,221 [214,817] (642,036 [212,606])	7,819 [4,630] (7,179 [4,470])		138 [16] (129 [15])		90 [90] (84 [84])	126 (126)	0 (0)	
スポーツ施設等		スポーツ施設			講堂			厚生補導施設		
		34,177.21㎡			456.36㎡			5,202.01㎡		
経費 の見 積り 及び 維持 方法 の概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体 図書購入費には、電子 ジャーナル、データ ベースの整備費（運用 コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		939千円	939千円	939千円	939千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		856千円	856千円	856千円	856千円	— 千円	— 千円	
		図 書 購 入 費	2,555千円	4,356千円	4,356千円	4,356千円	4,356千円	— 千円	— 千円	
		設 備 購 入 費	59,206千円	12,131千円	13,234千円	13,234千円	13,313千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1,455千円	1,255千円	1,255千円	1,255千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

成蹊高等学校(収容
定員：966人)と共用
【必要面積】
校舎：5,304㎡
運動場：8,400㎡
普通教室：1,499㎡
成蹊中学校(収容定
員：801人)と共用
【必要面積】
校舎：4,524㎡
運動場：8,400㎡
普通教室：1,201.5
㎡
成蹊小学校(収容定
員：720人)と共用
【必要面積】
校舎：3,420㎡
運動場：7,200㎡
普通教室：1,080㎡

大学等全体での共用分
図書
115,979[10,850]
(109,299[10,838])

届出学部全体
図書購入費には、電子
ジャーナル、データ
ベースの整備費(運用
コスト含む)を含む。

	大 学 等 の 名 称	成蹊大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度		所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	経済学部	年	人	年次 人	人		倍		東京都武蔵野市吉祥 寺北町三丁目3番1 号	令和2年より学生募 集停止
	経済経営学科	4	—	—	—	学士（経済学）	—	平成16 年度	同上	
	経済数理学科	4	80	—	320	学士（経済学）	1.08 <<1.05>>	令和2 年度	同上	
	現代経済学科	4	150	—	600	学士（経済学）	1.10 <<1.07>>	令和2 年度	同上	
	経営学部						1.05 <<1.01>>			令和4年より学生募 集停止
	総合経営学科	4	290	—	1,160	学士（経営学）	1.05 <<1.01>>	令和2 年度	同上	
	理工学部						1.03 <<1.01>>			
	物質生命理工学科	4	—	—	—	学士（理工学）	—	平成17 年度	同上	
	情報科学科	4	—	—	—	学士（理工学）	—	平成17 年度	同上	令和4年より学生募 集停止
	システムデザイン学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成17 年度	同上	
	理工学科	4	420	—	1,680	学士（理工学）	1.03 <<1.01>>	令和4 年度	同上	
	文学部						1.07 <<1.04>>			
	英語英米文学科	4	121	—	484	学士（文学）	1.08 <<1.04>>	昭和40 年度	同上	令和4年より学生募 集停止
	日本文学科	4	84	—	336	学士（文学）	1.03 <<1.01>>	昭和40 年度	同上	
	国際文化学科	4	110	—	440	学士（文学）	1.09 <<1.04>>	平成12 年度	同上	
	現代社会学科	4	105	—	420	学士（文学）	1.07 <<1.05>>	平成12 年度	同上	
	法学部						1.06 <<1.02>>			令和4年より学生募 集停止
	法律学科	4	280	—	1,120	学士（法学）	1.07 <<1.03>>	昭和43 年度	同上	
	政治学科	4	160	—	640	学士（政治学）	1.04 <<1.00>>	昭和43 年度	同上	
	理工学研究科 理工学専攻				—					
	博士前期課程	2	70	—	140	修士（理工学） 又は修士（工学）	0.92	平成21 年度	同上	令和4年より学生募 集停止
	博士後期課程	3	10	—	30	博士（理工学） 又は博士（工学）	0.26	平成21 年度	同上	
	経済経営研究科 経済学専攻				—					
	博士前期課程	2	6	—	12	修士（経済学）	0.08	平成19 年度	同上	
	博士後期課程	3	3	—	9	博士（経済学）	0.00	平成19 年度	同上	令和4年より学生募 集停止
	経済経営研究科 経営学専攻				—					
博士前期課程	2	10	—	20	修士（経営学）	0.55	平成19 年度	同上		
博士後期課程	3	3	—	9	博士（経営学）	0.00	平成19 年度	同上		
法学政治学研究科 法律学専攻				—					令和4年より学生募 集停止	
博士前期課程	2	8	—	16	修士（法学）	0.18	昭和45 年度	同上		
博士後期課程	3	4	—	12	博士（法学）	0.00	昭和47 年度	同上		
法学政治学研究科 政治学専攻				—						
博士前期課程	2	4	—	8	修士（政治学）	0.62	昭和47 年度	同上	令和4年より学生募 集停止	
博士後期課程	3	2	—	6	博士（政治学）	0.00	昭和48 年度	同上		

文学研究科 英米文学専攻	博士前期課程	2	8	—	16	修士（文学）	0.00	昭和46年度	同上
	博士後期課程	3	4	—	12	博士（文学）	0.16	平成10年度	同上
	文学研究科 日本文学専攻			—					
	博士前期課程	2	8	—	16	修士（文学）	0.43	昭和46年度	同上
	博士後期課程	3	4	—	12	博士（文学）	0.50	平成3年度	同上
	文学研究科 社会文化論専攻			—					
	博士前期課程	2	8	—	16	修士（学術）	0.37	平成3年度	同上
	博士後期課程	3	4	—	12	博士（学術）	0.16	平成3年度	同上
附属施設の概要		名称：成蹊大学図書館 目的：図書その他の資料の収集及び管理をし、教職員、学生等の利用に供すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：11925.03㎡ 設置年月：昭和42年4月							
		名称：成蹊大学高等教育開発・支援センター 目的：教育の質的向上に資する全学的な学修・教育支援施策の企画及び実施並びに教育活動の継続的な改善の推進及び支援、教育研究環境の整備 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：308.49㎡ 設置年月：平成26年4月							
		名称：成蹊大学アジア太平洋研究センター 目的：アジア太平洋地域に関連する各分野の学際的・国際的共同研究の推進及びその研究成果の社会への還元並びに国際学術交流の促進 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：698.82㎡ 設置年月：昭和56年4月							
		名称：成蹊大学国際教育センター 目的：大学における国際教育を円滑に推進すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：221.33㎡ 設置年月：平成16年4月							
		名称：成蹊大学キャリア支援センター 目的：全学的な見地から全学生に対してキャリア教育の推進を図るとともに、個々の学生の進路、就職等に関する支援を行うこと 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：650.92㎡ 設置年月：平成18年4月							
		名称：成蹊大学ボランティア支援センター 目的：大学における学生及び教職員によるボランティア等の地域・社会貢献並びに地域交流活動に対する意識の高揚を図り、学生及び教職員が行うボランティア活動等について支援すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：118.91㎡ 設置年月：平成26年4月							
		名称：成蹊大学教職課程センター 目的：教職に関係する事項を全学的に統括し、教職を志す学生の履修から教員採用まで一貫した指導体制により支援すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：159.08㎡ 設置年月：平成30年10月							
		名称：成蹊大学サステナビリティ教育研究センター 目的：成蹊学園サステナビリティ教育研究センターと連携して、ESDの普及啓発、地球環境及び地域環境に関わる研究の活性化並びに環境教育及び環境啓発活動を行うこと 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：59.92㎡ 設置年月：平成30年4月							
		名称：成蹊大学Society 5.0研究所 目的：技術革新の進展が社会文化に及ぼす影響を幅広く研究することにより、これからの技術進歩のあり方及び人材育成方法を探求し、その成果を広く社会に還元することを通じて、豊かな社会の構築に貢献すること 所在地：東京都武蔵野市吉祥寺北町三丁目3番1号 規模：698.82㎡ 設置年月：令和2年4月							

学校法人成蹊学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
成蹊大学				成蹊大学				
経済学部				経済学部				
経済数理学科	80	-	320	経済数理学科	80	-	320	
現代経済学科	150	-	600	現代経済学科	170	-	680	定員変更(20)
理工学部				理工学部				
理工学科	420	-	1,680	理工学科	420	-	1,680	
文学部				文学部				
英語英米文学科	121	-	484	英語英米文学科	106	-	424	定員変更(△15)
日本文学科	84	-	336	日本文学科	84	-	336	
国際文化学科	110	-	440	国際文化学科	105	-	420	定員変更(△5)
現代社会学科	105	-	420	現代社会学科	105	-	420	
法学部				法学部				
法律学科	280	-	1,120	法律学科	274	-	1,096	定員変更(△6)
政治学科	160	-	640	政治学科	156	-	624	定員変更(△4)
経営学部				経営学部				
総合経営学科	290	-	1,160	総合経営学科	320	-	1,280	定員変更(30)
				国際共創学部				学部の設置(届出)
				国際共創学科	150	-	600	
計	1,800	-	7,200	計	1,970	-	7,880	
成蹊大学大学院				成蹊大学大学院				
理工学研究科				理工学研究科				
理工学専攻(M)	70	-	140	理工学専攻(M)	70	-	140	
理工学専攻(D)	10	-	30	理工学専攻(D)	10	-	30	
経済経営研究科				経済経営研究科				
経済学専攻(M)	6	-	12	経済学専攻(M)	6	-	12	
経済学専攻(D)	3	-	9	経済学専攻(D)	3	-	9	
経営学専攻(M)	10	-	20	経営学専攻(M)	10	-	20	
経営学専攻(D)	3	-	9	経営学専攻(D)	3	-	9	
法学政治学研究科				法学政治学研究科				
法律学専攻(M)	8	-	16	法律学専攻(M)	8	-	16	
法律学専攻(D)	4	-	12	法律学専攻(D)	4	-	12	
政治学専攻(M)	4	-	8	政治学専攻(M)	4	-	8	
政治学専攻(D)	2	-	6	政治学専攻(D)	2	-	6	
文学研究科				文学研究科				
英米文学専攻(M)	8	-	16	英米文学専攻(M)	8	-	16	
英米文学専攻(D)	4	-	12	英米文学専攻(D)	4	-	12	
日本文学専攻(M)	8	-	16	日本文学専攻(M)	8	-	16	
日本文学専攻(D)	4	-	12	日本文学専攻(D)	4	-	12	
社会文化論専攻(M)	8	-	16	社会文化論専攻(M)	8	-	16	
社会文化論専攻(D)	4	-	12	社会文化論専攻(D)	4	-	12	
計	156	-	346	計	156	-	346	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(国際共創学部国際共創学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（＝教助手を 除く）教員		
全学共通科目	コミュニケーション 外国語科目 英語	College English (Listening & Speaking) I	1前	1			○				1					4	
		College English (Reading & Writing) I	1前	1			○									5	
		College English (Listening & Speaking) II	1後	1			○				1					4	
		College English (Reading & Writing) II	1後	1			○									5	
		English Seminar	2前		2		○									5	
		Academic English Communication	2後		2		○									5	
		TOEFL Preparation Introduction	1前・後		1				○							1	
		TOEFL Preparation Intermediate	1前・後		1				○							3	
		TOEIC Preparation Introduction	1前・後		1				○							3	
		TOEIC Preparation Intermediate	1前・後		1				○							3	
		IELTS Preparation Introduction	1前・後		1				○							2	
		IELTS Preparation Intermediate	1前・後		1				○							2	
		基礎からのコミュニケーション英文法	1前・後		2				○							1	
		自分でデザインする英語学習	1前・後		2				○							1	
		英語発音トレーニング	1前・後		2				○			1					
		英語読解トレーニング	1前・後		2				○							2	
		Presentation Skills Basic	1前・後		2				○							2	
		Discussion Skills Basic	1前・後		2				○							2	
		Writing Skills (Paragraph)	1前		2				○							1	
		Presentation Skills Intermediate	1後		2				○							1	
		Discussion Skills Intermediate	1前・後		2				○							1	
		Writing Skills (Essay)	1前・後		2				○							2	
		短期海外英語研修	1前・後		2						○					1	
		多読で学ぶ英語と文化Ⅰ	2前・後		2				○							4	
		多読で学ぶ英語と文化Ⅱ	2後		2				○							1	
		映画で学ぶ英語と文化	2前・後		2				○							4	
		ドラマで学ぶ英語と文化	2前・後		2				○							2	
		歌で学ぶ英語と文化	2前・後		2				○							2	
		メディアで学ぶ英語と文化	2前・後		2				○							1	
		キャリアのための英語と文化	2前・後		2				○							1	
		TOEFL Preparation AdvancedⅠ	1前		1					○						1	
		TOEFL Preparation AdvancedⅡ	1後		1					○						1	
		IELTS Preparation AdvancedⅠ	1前		1					○						1	
		IELTS Preparation AdvancedⅡ	1後		1					○						1	
		TOEIC Preparation Advanced	1前・後		1					○						1	
		Media English	2後		2					○						1	
		Academic Listening	2前・後		2					○						1	
		Cross Cultural Communication Skills	2前・後		2					○						1	
		Discussion & Presentation	2前		2					○						1	
		English for the Workplace	2前		2					○						1	
		Essay Writing	2前		2					○						1	
		Intensive Reading	2前・後		2					○						1	
		World Englishes	2後		2					○						1	
		Study Abroad Preparation	2前		2					○						1	
		小計（44科目）		—	—	4	69	0		—			0	2	0	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(国際共創学部国際共創学科)																			
科目 区分				授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
							必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（へ 教員手 以外除く） 教員
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	ドイツ語基礎AⅠ	1前			1		○							1		
				ドイツ語基礎BⅠ	1前			1		○							1		
				フランス語基礎AⅠ	1前			1		○							1		
				フランス語基礎BⅠ	1前			1		○							1		
				スペイン語基礎AⅠ	1前			1		○							1		
				スペイン語基礎BⅠ	1前			1		○							1		
				中国語基礎AⅠ	1前			1		○							1		
				中国語基礎BⅠ	1前			1		○							1		
				韓国語基礎AⅠ	1前			1		○							1		
				韓国語基礎BⅠ	1前			1		○							1		
				ドイツ語基礎AⅡ	1後			1		○							1		
				ドイツ語基礎BⅡ	1後			1		○							1		
				フランス語基礎AⅡ	1後			1		○							1		
				フランス語基礎BⅡ	1後			1		○							1		
				スペイン語基礎AⅡ	1後			1		○							1		
				スペイン語基礎BⅡ	1後			1		○							1		
				中国語基礎AⅡ	1後			1		○							1		
				中国語基礎BⅡ	1後			1		○							1		
				韓国語基礎AⅡ	1後			1		○							1		
				韓国語基礎BⅡ	1後			1		○							1		
				ドイツ語演習コミュニケーション基礎Ⅰ	1前			2					○					2	
				ドイツ語演習コミュニケーション基礎Ⅱ	1後			2					○					2	
				ドイツ語演習コミュニケーション	2前・後			2					○					1	
				ドイツ語演習言語と文化	2前・後			2					○					1	
				ドイツ語演習検定対策	2前・後			2					○					1	
				ドイツ語演習プレゼンテーション	2前・後			2					○					1	
				フランス語演習コミュニケーション基礎Ⅰ	1前			2					○					1	
				フランス語演習コミュニケーション基礎Ⅱ	1後			2					○					1	
				フランス語演習コミュニケーション	2前・後			2					○					1	
				フランス語演習言語と文化	2前・後			2					○					2	
				フランス語演習検定対策	2前・後			2					○					1	
				フランス語演習プレゼンテーション	2前・後			2					○					1	
				スペイン語演習コミュニケーション基礎Ⅰ	1前			2					○					1	
				スペイン語演習コミュニケーション基礎Ⅱ	1後			2					○					1	
				スペイン語演習コミュニケーション	2前・後			2					○					1	
				スペイン語演習言語と文化	2前・後			2					○					1	
				スペイン語演習検定対策	2前・後			2					○					1	
				スペイン語演習プレゼンテーション	2前・後			2					○					1	
				中国語演習コミュニケーション基礎Ⅰ	1前			2					○					4	
				中国語演習コミュニケーション基礎Ⅱ	1後			2					○					4	
				中国語演習コミュニケーション	2前・後			2					○					2	
				中国語演習言語と文化	2前・後			2					○					2	
				中国語演習検定対策	2前・後			2					○					2	
				中国語演習プレゼンテーション	2前・後			2					○					1	
				韓国語演習コミュニケーション基礎Ⅰ	1前			2					○					1	
				韓国語演習コミュニケーション基礎Ⅱ	1後			2					○					1	
				韓国語演習コミュニケーション	2前・後			2					○					2	
				韓国語演習言語と文化	2前・後			2					○					2	
				韓国語演習検定対策	2前・後			2					○					2	
				韓国語演習プレゼンテーション	2前・後			2					○					1	
				世界の言語（ロシア語Ⅰ）	1前			1				1	○					1	
				世界の言語（ロシア語Ⅱ）	1後			1				1	○					1	
				世界の言語（タイ語Ⅰ）	1前			1				1	○					1	
				世界の言語（タイ語Ⅱ）	1後			1				1	○					1	
				世界の言語（イタリア語Ⅰ）	1前			1				1	○					1	
				世界の言語（イタリア語Ⅱ）	1後			1				1	○					1	
				世界の言語（ルーマニア語Ⅰ）	1前			1				1	○					1	
				世界の言語（ルーマニア語Ⅱ）	1後			1			○							1	
小計（58科目）				—	—	0	88	0	—			0	0	0	0	0	28		

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(国際共創学部国際共創学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（ 助手以外を除く） 教員
全学共通科目	コミュニケーション	日本語力科目	実践日本語表現	1前・後		2			○								5	
			実践話し方入門	1前・後		2			○								1	
			日本語表現講義	1前・後		2			○								1	
			古典に学ぶ日本語表現	1前・後		2			○								2	
			実践漢字講座	1前		2			○								1	
			語彙・読解講座	1前・後		2			○								1	
			文章表現を磨く	2前・後		2				○							1	
			話し方を磨く	2前		2				○							1	
			実用文書の作り方・情報の伝え方	2前・後		2				○							1	
			創作実践A	2前		2					○						1	
			創作実践B	2後		2					○						1	
			文学作品の表現	2後		2				○							1	
			小計（12科目）	—	—	0	24	0	—		0	0	0	0	0	13		
	情報	情報リテラシー	情報基礎B	1前		2			○								1	
			情報技術活用概論	1後		2			○								1	
			Python 入門	1前		2			○								1	
			オフィスソフトの活用と実践	1後		2			○								1	
			Web サイト作成入門	1後		2			○								1	
			Excel VBA 入門	1後		2			○								1	
			Java入門	1後		2			○								1	
			小計（7科目）	—	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	6		
		データサイエンス	データサイエンス入門	1後		2			○								2	
			データサイエンスのための基礎数学	1前		2			○								1	
			Excelによるデータ分析入門	1前		2			○								1	
			データベース入門	1前		2			○								1	
			A I 入門	1後		2			○								1	
	統計分析入門	1後		2			○								1			
	小計（6科目）	—	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	3				
	ライフデザイン	キャリア教育科目	キャリアプランニング	1前・後		2			○								4	
			桃李キャリア入門	1前		2			○								1	
			イノベーション人材	1前		2			○								1	
			ビジネストレーニングセミナー	1後		2					○						1	
			キャリアセミナー	1後		2					○						1	
			実践キャリアセミナー	2前		2					○						3	
			キャリア発展講義	2前		2				○							1	
			日本企業の現状と展望	2前		2				○							2	
			丸の内ビジネス研修準備講座	2前		2				○							1	
			インターンシップ準備セミナー	2後		2					○						1	
			丸の内ビジネス研修	3前		4						○					1	
			実践キャリアデザイン	3前		2				○							1	
			事業課題演習	2前		2					○						1	
			事業創造演習	3前		2					○						1	
			事業企画入門	2前		2				○							1	
			起業実務入門	2前		2				○							1	
			マネジメント戦略入門	2前		2				○							1	
			SEP発展講義	2前		2				○							1	
	小計（18科目）	—	—	0	38	0	—		0	0	0	0	0	10				

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(国際共創学部国際共創学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 (教 員 以 外 除 く) 教 員
全学共通科目	ライフデザイン	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習 A	1前			2			○							15	
		健康・スポーツ演習 B	1後			2			○								15	
		スポーツと科学	1前			2		○									1	
		スポーツと文化	1後			2		○									1	
		スポーツと社会	1前			2		○									1	
		健康と科学	1前			2		○									1	
		健康心理学	1後			2		○									1	
		小計 (7科目)	—	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	16		
	人文学	哲学の基礎	1前・後			2		○									2	
		倫理学の基礎	1前・後			2		○									2	
		現代社会と哲学	1後			2		○									1	
		現代社会と倫理学	1後			2		○									1	
		文学への招待	1前・後			2		○									3	
		芸術への招待	1前・後			2		○									2	
		カルチュラル・スタディーズ	1前・後			2		○									3	
		心理学の基礎	1前・後			2		○									2	
		自己理解の心理学	1前・後			2		○									3	
		近現代日本史 (明治・大正)	1前			2		○									1	
		近現代日本史 (昭和以降)	1後			2		○									1	
		小計 (11科目)	—	—	0	22	0	—		0	0	0	0	0	0	18		
	社会科学	政治学の基礎	1前・後			2		○									1	
		経済学の基礎	1前・後			2		○									2	
		社会学と現代	1前・後			2		○									1	
		日本国憲法	1前・後			2		○									1	
		市民生活と法A	1前			2		○									1	
		市民生活と法B	1後			2		○									1	
		現代のマスメディア	1前			2		○									1	
		社会心理学入門	1前・後			2		○									1	
		企業と社会	1後			2		○									1	
		現代社会の地理	1前・後			2		○									1	
		小計 (10科目)	—	—	0	20	0	—		0	0	0	0	0	0	11		
	自然科学	物質の究極像	1後			2		○									1	
		人間と進化	1後			2		○									1	
		脳科学と心	1前・後			2		○									1	
		天文学入門	1前			2		○									2	
		薬はなぜ効くか	1後			2		○									1	
		身の回りの科学	1後			2		○									1	
		科学史	1前			2		○									1	
		科学技術の発展と歴史	1後			2		○									1	
		サイエンス・トピックス (熱と光の科学)	1後			2		○									1	
		サイエンス・トピックス (物質の科学)	1前			2		○									1	
		サイエンス・トピックス (数の世界)	1前			2		○			1						1	
		サイエンス・トピックス (生命の科学)	1前			2		○									1	
		小計 (12科目)	—	—	0	24	0	—		1	0	0	0	0	0	12		

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(国際共創学部国際共創学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手以外を除く）教員
全学共通科目	教養基礎	総合	成蹊を知る	1後			2			○							1	
			大学生生活と相互理解	1前			2			○							2	
			武蔵野市寄附講座	1後			2			○							1	
			総合セミナーA	1前・後			2				○						1	
			総合トビックス	1前・後			2			○							1	
			海外言語文化研修A	1前・後			4					○					1	
			海外言語文化研修B	1前・後			2						○				1	
			海外言語文化研修C	1前・後			4						○				1	
			短期海外研修	1前・後			2							○			1	
			総合セミナーB	2前・後			2				○						1	
			小計（10科目）	—	—	0	24	0		—		0	0	0	0	0	7	
	環境・地域		地球と環境	1前			2			○			1					
			気象と地球環境	1後			2			○			1					
			エネルギーと環境	1前			2			○			1					
			日本列島の歴史と災害	1前			2			○							1	
			日本の国土と社会	1前・後			2			○							1	
			自然環境と文明	2前			2			○							1	
			外国の自然と社会（欧米）	2前			2			○							1	
			外国の自然と社会（アジア）	2前			2			○				1			1	
			地域づくり論	2前			2			○								
			環境科学トビックス（生命と環境）	2前			2			○							1	
			環境科学トビックス（食料と環境）	2後			2			○							1	
			環境科学トビックス（環境保全と住環境の現在・未来）	2後			2			○			1					
			小計（12科目）	—	—	0	24	0		—		3	1	0	0	0	7	
	国際理解		戦後の日本と世界	1後			2			○							1	
			近現代のアジア	1前・後			2			○							1	
			近現代のヨーロッパ	1前			2			○							1	
			近現代のアメリカ	1後			2			○							1	
			中東地域史	1後			2			○							1	
			近現代のアフリカ	1前			2			○							1	
			現代の国際政治	1前			2			○							1	
			グローバル経済論	2後			2			○							1	
			国際文化交流論	2前			2			○							1	
			異文化理解トビックス	1前・後			2			○							10	
			小計（10科目）	—	—	0	20	0		—		0	0	0	0	0	18	
	人権・共生		裁判と社会	1後			2			○							1	
			人権とジェンダー	1後			2			○							1	
			福祉社会に生きる	1後			2			○							1	
			教育学概論	1前			2			○							1	
			身体と教育	1後			2			○							1	
			イノベーションの歴史と現代	1前			2			○							1	
			生命倫理と法	2前			2			○							1	
			地域福祉論	2前			2			○							1	
			高齢者福祉論	2前			2			○							1	
			こころの健康と臨床	2前・後			2			○							2	
			共生社会トビックス（アートと社会）	2前			2			○							1	
			共生社会トビックス（日本女性史）	2後			2			○							1	
			小計（12科目）	—	—	0	24	0		—		0	0	0	0	0	11	
	実践		情報保障とボランティア	1前			2			○							1	
			野外自然教育論	1後			2			○							1	
			地元学実践演習	1後			2				○			1				
			武蔵野地域研究	1前			2			○							1	
			成蹊グローバルセミナーA	1前			2			○							1	
			成蹊グローバルセミナーB	1後			2			○							1	
			Global Seminar I	2前			2				○						1	
			Global Seminar II	2後			2				○						2	
			Global Seminar III	3前			2				○						1	
			小計（9科目）	—	—	0	18	0		—		0	1	0	0	0	8	
小計（238科目）			—	—	4	435	0		—		4	3	0	0	0	165		

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際共創学部国際共創学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を 除く） 教員	
ゼミナール科目	アカデミック・スキルズⅠ	1前	○	2				○		4	4					
	アカデミック・スキルズⅡ	1後	○	2				○		3	5					
	英語文献講読	2後	○	2				○		3		3				
	演習Ⅰ	3前	○	2				○		8	3	3				
	演習Ⅱ	3後	○	2				○		8	3	3				
	卒業研究Ⅰ	4前	○	2				○		8	3	3				
	卒業研究Ⅱ	4後	○	2				○		8	3	3				
	小計（7科目）	—	—	14	0	0		—		9	5	3	0	0	0	
基盤科目	共通文理	国際共創入門	1前	○	2			○		8	3	3				オムニバス、メディア
		Intercultural Communication	1前	○	2			○			2				1	
		データサイエンス基礎	1前	○	2			○		2					1	
		統計学基礎	1後	○	2			○		1					1	
		サステナビリティ概論	1後	○	2			○		1						
		東京・武蔵野論	1後		2			○		1						
		プログラミングの基礎	1後		2			○							1	
		コンテンツ・デザイン	2前		2			○							1	
		小計（8科目）	—	—	10	6	0	—		9	5	3	0	0	5	
	人文学系	現代文化論	1前		2			○				1				
		グローバル・ヒストリーと日本	1前		2			○			1					
		地域と暮らし	1前		2			○				1				
		人文地理学	1後		2			○								
		日本語学入門A	1前		2			○							1	
		日本語学入門B	1後		2			○				1				
		ことばと文化	1後		2			○				1				
		現代社会とアート	1後		2			○		1						
		国際社会学	1後		2			○		1						
		現代地域論	2後		2			○		1						
		小計（10科目）	—	—	0	20	0	—		3	4	2	0	0	1	
	自然科学系	環境科学基礎	1前		2			○		1						
		自然科学基礎A（物理学・化学）	1前		2			○		1						
		自然科学基礎B（地球・宇宙科学）	1後		2			○							1	
		自然科学基礎C（数理科学）	1後		2			○		1						
		自然科学基礎D（地球生命科学）	2前		2			○							1	
		数学基礎	1前		2			○		2						
		線形代数学	1後		2			○		1						
		微分積分学	2前		2			○		1						
		自然地理学	1後		2			○		1						
		環境史	1後		2			○		1						
		熱力学基礎	2前		2			○							1	
		統計学発展	2後		2			○		1						
		データサイエンス発展	3前		2			○							1	
		小計（13科目）	—	—	0	26	0	—		5	0	0	0	0	4	
グローバル科目	Japanese Art	2前			2			○		1						
	Japanese Contemporary Issues	2前			2			○							1	
	Japanese Economy	2前			2			○							1	
	Global Career Design	2前			2			○							1	
	Topics in Political Studies	2前			2			○							1	
	Geography	2前			2			○								
	Japanese Popular Culture	2後			2			○				1				
	Japanese Linguistics	2後			2			○			1					
	Phonetics and Phonology	2後			2			○			1					
	Topics in Business	2後			2			○							1	
	Law in Society	2後			2			○							1	
	Science and Technology	2後			2			○							1	
	Climate and Nature	2後			2			○		1						
	Topics in Japanese Culture	2前・後			2			○				1			1	
	Topics in History	2前・後			2			○				1			2	
	Language and Literature	2前・後			2			○				1			3	
	Regional Studies	2前・後			2			○							1	
	Special Seminar	2前・後			2			○		2	1	2			1	
	小計（18科目）	—	—	0	36	0		—		3	4	3	0	0	13	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(国際共創学部国際共創学科)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	発展科目	文化	国際日本文化論	2前		2		○				1	1				
			日本の美学・美術史	2前		2		○				1					
			メディアと日本文化	2前		2		○					1				
			多文化共生論	2前		2		○				1					
			生活文化論	2前		2		○								1	
			ことばと認知	2前		2		○								1	
			異文化交流論	2後		2		○					1				
			比較美術	2後		2		○				1					
			映像文化論	2後		2		○					1				
			マンガ文化論	2後		2		○								1	
			ファッション文化論	2後		2		○						1			
			多文化社会と言語政策	2後		2		○								1	
			国際日本文化特殊講義	3前		2		○					1				
		小計 (13科目)	—	—	0	26	0	—			2	2	2	0	0	4	
	地理・地域	経済地理学	2前		2		○				1		1				
		観光地理学	2前		2		○					1					
		歴史地理学	2前		2		○				1						
		海外地域研究	2前		2		○						1				
		国内地域研究	2前		2		○						1				
		地域創生論	2後		2		○									1	
		地域資源論	2後		2		○				1						
		地理情報科学	2前		2			○		○	1						
		水文学	2前		2		○									1	
		地形学	2前		2		○				1						
		都市防災学	2後		2		○				1						
		地理学・地域学特殊講義 (持続観光開発論)	3前		2		○					1					
		小計 (12科目)	—	—	0	24	0	—			4	1	1	0	0	2	
	環境	環境学	2前		2		○						1				
		地球資源科学	2前		2		○									1	
		地球環境保全学	2前		2		○				1						
		環境問題と国際社会	2前		2		○									1	
		企業行動とサステナビリティ	2後		2		○									1	
		気象学	2後		2		○				1						
		気候変動論	2後		2		○				1						
		環境数理科学	2後		2		○				1						
		環境データ解析	3前		2		○									1	
		科学シミュレーション	3前		2		○									1	
		複雑系科学	3後		2		○									1	
		情報セキュリティの理論	3後		2		○				1						
		地球環境学特殊講義 (グローバル気候学)	3前		2		○				1						
		地球環境学特殊講義 (地球・宇宙環境学)	3後		2		○				1						
	小計 (14科目)	—	—	0	28	0	—			5	0	1	0	0	4		
	フィールド・実践科目	フィールドワーク入門	1前	○	2					○	2	1	1				
		国内フィールドスタディ	1前			2				○	2	1					
		共創プロジェクト	2前・後			2				○			1			1	
		海外フィールドスタディ	2前・後			2				○			1			1	
		人文フィールド調査法	2前			2			○		1						
		自然環境フィールド調査法	2後			2				○	1						
		理学基礎実験	1前			2				○	1					1	
		環境科学実験	1後			2				○						1	
		国際協力論	1後			2		○								1	
		小計 (9科目)	—	—	2	16	0	—			5	1	2	0	0	4	
	日本語教員養成コース科目	日本語教育概論	1前			2		○				1				1	
		日本語教育事情	1前			2		○								1	
		言語学講義 (言語と社会)	1後			2		○								1	
		日本語の学習と習得	1前			2		○				1					
		日本語教授法	1後			2		○								1	
		日本語教育理解と実践	1後			2		○								1	
		日本語教育演習	2後			2			○							1	
		日本語教育方法論	1後			2		○								1	
		言語の構造	1後			2		○								1	
		対照言語学	1前			2		○								1	
		日本語教育実習	3前・後			1				○		1					
		小計 (11科目)	—	—	0	21	0	—			0	1	0	0	0	3	
小計 (115科目)			—	—	26	203	0	—			9	6	3	0	0	33	
合計 (353科目)			—	—	30	638	0	—			9	6	3	0	0	189	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(国際共創学部国際共創学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手以外を除く）教員			
学位又は称号		学士（学術）		学位又は学科の分野						文学関係、理学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等										
4年以上在学し、かつ、次のすべての要件を満たした上で、124単位以上を修得すること。 (1) 全学共通科目にあっては、次の要件を満たした上で34単位修得すること。 ①コミュニケーション 外国語科目の英語から、必修4単位、選択4単位以上 ②情報 情報リテラシーから2単位以上 ③持続社会探究 2単位以上 (2) 専門科目にあっては、次の要件を満たした上で70単位修得すること。 ①ゼミナール科目 必修14単位 ②基 盤 科 目 共通文理から必修10単位、専攻ごとの選択必修14単位を含め24単位以上。 国際日本学専攻 人文学系から10単位、自然科学系から4単位 環境サステナビリティ学専攻 人文学系から4単位、自然科学系から10単位 ③グローバル科目 4単位以上 ④発 展 科 目 専攻ごとに選択必修14単位以上。 国際日本学専攻 文化及び地理・地域からあわせて10単位、環境から4単位 環境サステナビリティ学専攻 文化から4単位、地理・地域及び環境からあわせて10単位 ⑤フィールド・実践科目 必修2単位、選択4単位以上 (3) 上記に加え、全学共通科目及び専門科目の選択科目から20単位を修得すること。 (4) (1) から (3) の単位には、以下のいずれかに該当する科目の単位16単位を含めること。 ①全学共通科目・コミュニケーション・外国語科目・英語の選択科目のうち、上記 (1) ①を超える科目の単位 ②全学共通科目・コミュニケーション・外国語科目・初修外国語の選択科目 ③全学共通科目・教養基礎・総合の区分中、「海外言語文化研修A」、「海外言語文化研修B」、「海外言語文化研修C」及び「短期海外研修」 ④全学共通科目・持続社会探究・実践の区分中、「Global SeminarⅠ」、「Global SeminarⅡ」及び「Global SeminarⅢ」 ⑤専門科目・グローバル科目の選択科目のうち、上記 (2) ③を超える科目の単位 (履修科目の登録の上限：46単位（年間）。1つの学期については26単位。)								1 学年の学期区分				2期						
								1 学期の授業期間				14週						
								1 時限の授業の標準時間				100分						

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(文学部国際文化学科)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	外国語	英語科目	College English (Listening & Speaking) I	1前	1			○								兼 3	
			College English (Reading & Writing) I	1前	1			○								兼 4	
			College English (Listening & Speaking) II	1後	1			○								兼 3	
			College English (Reading & Writing) II	1後	1			○								兼 4	
			College English (Integrated Skills) I	2前	1			○								兼 4	
			College English (Integrated Skills) II	2後	1			○								兼 4	
			Intensive English I	1前	1			○								兼 2	
			Intensive English II	1後	1			○								兼 2	
			TOEFL Preparation Introduction	1前・後		1			○							兼 2	
			TOEFL Preparation Intermediate	1前・後		1			○							兼 3	
			TOEIC Preparation Introduction	1前・後		1			○							兼 4	
			TOEIC Preparation Intermediate	1前・後		1			○							兼 4	
			IELTS Preparation Introduction	1前・後		1			○							兼 2	
			IELTS Preparation Intermediate	1前・後		1			○							兼 2	
			基礎からのコミュニケーション英文法	1前・後		2			○							兼 1	
			自分でデザインする英語学習	1前・後		2			○							兼 1	
			英語発音トレーニング	1前・後		2			○							兼 1	
			英語読解トレーニング	1前・後		2			○							兼 2	
			Presentation Skills Basic	1前・後		2			○							兼 2	
			Discussion Skills Basic	1前・後		2			○							兼 2	
			Writing Skills (Paragraph)	1前		2			○							兼 1	
			Presentation Skills Intermediate	1後		2			○							兼 1	
			Discussion Skills Intermediate	1前・後		2			○							兼 2	
			Writing Skills (Essay)	1前・後		2			○							兼 2	
			多読で学ぶ英語と文化 I	2前・後		2			○							兼 4	
			多読で学ぶ英語と文化 II	2後		2			○							兼 1	
			映画で学ぶ英語と文化	2前・後		2			○							兼 6	
			ドラマで学ぶ英語と文化	2前・後		2			○							兼 5	
			歌で学ぶ英語と文化	2前・後		2			○							兼 3	
			メディアで学ぶ英語と文化	2前・後		2			○							兼 3	
			キャリアのための英語と文化	2前・後		2			○							兼 3	
			TOEFL Preparartion Advanced I	1前		1				○						兼 1	
			TOEFL Preparation Advanced II	1後		1				○						兼 1	
			IELTS Preparation Advanced I	1前		1				○						兼 1	
			IELTS Preparation Advanced II	1後		1				○						兼 1	
			TOEIC Preparartion Advanced	1前・後		1				○						兼 1	
			Media English	2後		2				○						兼 2	
			Academic Listening	2前・後		2				○						兼 1	
			Cross Cultural Communication Skills	2前・後		2				○						兼 1	
			Discussion & Presentation	2前		2				○						兼 1	
			English for the Workplace	2前		2				○						兼 1	
			Essay Writing	2前・後		2				○						兼 2	
			Intensive Reading	2前・後		2				○						兼 2	
			World Englishes	2後		2				○						兼 1	
	小計 (44科目)			—	8	61	0	—			0	0	0	0	0	兼 36	
	初修外国語科目	ドイツ語基礎A I	1後		1			○								兼 2	
		ドイツ語基礎B I	1後		1			○								兼 2	
		フランス語基礎A I	1後		1			○								兼 2	
		フランス語基礎B I	1後		1			○								兼 1	
		スペイン語基礎A I	1後		1			○								兼 4	
		スペイン語基礎B I	1後		1			○								兼 3	
		中国語基礎A I	1前		2			○								兼 4	
		中国語基礎B I	1後		2			○								兼 4	
		韓国語基礎A I	2前		2			○								兼 3	
	韓国語基礎B I	2後		2			○								兼 4		

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(文学部国際文化学科)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語基礎AⅡ	2前		2		○								兼 2	
			ドイツ語基礎BⅡ	1前		2		○								兼 2	
			フランス語基礎AⅡ	1後		2		○								兼 2	
			フランス語基礎BⅡ	2前		2		○								兼 1	
			スペイン語基礎AⅡ	2後		2		○								兼 4	
			スペイン語基礎BⅡ	2後		2		○								兼 3	
			中国語基礎AⅡ	1前		2		○								兼 4	
			中国語基礎BⅡ	1後		2		○								兼 4	
			韓国語基礎AⅡ	2前		2		○								兼 3	
			韓国語基礎BⅡ	2後		2		○								兼 4	
			ドイツ語演習コミュニケーションⅠ	2前		2			○							兼 2	
			ドイツ語演習コミュニケーションⅡ	1前		2			○							兼 2	
			ドイツ語演習コミュニケーションⅢ	1後		2			○							兼 1	
			ドイツ語演習コミュニケーションⅣ	2前		2			○							兼 1	
			ドイツ語演習コミュニケーションⅤ	2後		2			○							兼 1	
			フランス語演習コミュニケーションⅠ	2前		2			○							兼 1	
			フランス語演習コミュニケーションⅡ	1前		2			○							兼 1	
			フランス語演習コミュニケーションⅢ	1後		2			○							兼 1	
			フランス語演習コミュニケーションⅣ	2前		2			○							兼 1	
			フランス語演習コミュニケーションⅤ	2後		2			○							兼 1	
			スペイン語演習コミュニケーションⅠ	2前		2			○							兼 2	
			スペイン語演習コミュニケーションⅡ	2前		2			○							兼 2	
			スペイン語演習コミュニケーションⅢ	2後		2			○							兼 1	
			スペイン語演習コミュニケーションⅣ	2前		2			○							兼 1	
			スペイン語演習コミュニケーションⅤ	2後		2			○							兼 1	
			中国語演習コミュニケーションⅠ	2前		2			○							兼 5	
			中国語演習コミュニケーションⅡ	2後		2			○							兼 5	
			中国語演習コミュニケーションⅢ	2前		2			○							兼 2	
			中国語演習コミュニケーションⅣ	2後		2			○							兼 2	
			中国語演習コミュニケーションⅤ	2前		2			○							兼 1	
			韓国語演習コミュニケーションⅠ	2後		2			○							兼 2	
			韓国語演習コミュニケーションⅡ	2前		2			○							兼 2	
			韓国語演習コミュニケーションⅢ	2後		2			○							兼 1	
			韓国語演習コミュニケーションⅣ	2前		2			○							兼 1	
			韓国語演習コミュニケーションⅤ	2後		2			○							兼 1	
			ドイツ語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○							兼 1	
			ドイツ語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○							兼 1	
			ドイツ語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○							兼 1	
			ドイツ語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○							兼 1	
			フランス語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○							兼 1	
			フランス語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○							兼 1	
			フランス語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○							兼 1	
			フランス語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○							兼 1	
			スペイン語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○							兼 2	
			スペイン語演習言語と文化Ⅱ	2前		2			○							兼 1	
			スペイン語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○							兼 1	
			スペイン語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○							兼 1	
			中国語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○							兼 2	
			中国語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○							兼 2	
			中国語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○							兼 1	
			中国語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○							兼 1	
			韓国語演習言語と文化Ⅰ	2前		2			○							兼 1	
			韓国語演習言語と文化Ⅱ	2後		2			○							兼 1	
			韓国語演習言語と文化Ⅲ	2前		2			○							兼 1	
			韓国語演習言語と文化Ⅳ	2後		2			○							兼 1	

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(文学部国際文化学科)																			
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考			
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
全学共通科目	外国語	初修外国語科目	ドイツ語演習検定対策Ⅰ	2前		2				○							兼 1		
			ドイツ語演習検定対策Ⅱ	2後		2					○							兼 1	
			ドイツ語演習検定対策Ⅲ	2前		2					○							兼 1	
			ドイツ語演習検定対策Ⅳ	2後		2					○							兼 1	
			フランス語演習検定対策Ⅰ	2前		2					○							兼 1	
			フランス語演習検定対策Ⅱ	2後		2					○							兼 1	
			フランス語演習検定対策Ⅲ	2前		2					○							兼 1	
			フランス語演習検定対策Ⅳ	2後		2					○							兼 1	
			スペイン語演習検定対策Ⅰ	2前		2					○							兼 2	
			スペイン語演習検定対策Ⅱ	2後		2					○							兼 1	
			スペイン語演習検定対策Ⅲ	2前		2					○							兼 1	
			スペイン語演習検定対策Ⅳ	2後		2					○							兼 1	
			中国語演習検定対策Ⅰ	2前		2					○							兼 1	
			中国語演習検定対策Ⅱ	2後		2					○							兼 1	
			中国語演習検定対策Ⅲ	2前		2					○							兼 1	
			中国語演習検定対策Ⅳ	2後		2					○							兼 1	
			韓国語演習検定対策Ⅰ	1前		1					○							兼 1	
			韓国語演習検定対策Ⅱ	1後		1					○							兼 1	
			韓国語演習検定対策Ⅲ	1前		1					○							兼 1	
			韓国語演習検定対策Ⅳ	1後		1					○							兼 1	
			ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ	1前		1					○							兼 1	
			ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ	1後		1					○							兼 1	
			フランス語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2					○							兼 1	
			フランス語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2					○							兼 1	
			スペイン語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2					○							兼 1	
			スペイン語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2					○							兼 1	
			中国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2					○							兼 1	
			中国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2					○							兼 1	
			韓国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2					○							兼 1	
			韓国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2					○							兼 1	
			世界の言語(ロシア語Ⅰ)	1前		1				○								兼 1	
			世界の言語(ロシア語Ⅱ)	1後		1				○								兼 1	
			世界の言語(タイ語Ⅰ)	1前		1				○								兼 1	
			世界の言語(タイ語Ⅱ)	1後		1				○								兼 1	
			世界の言語(イタリア語Ⅰ)	1前		1				○								兼 1	
			世界の言語(イタリア語Ⅱ)	1後		1				○								兼 1	
			小計 (101科目)			—	0	184	0	—			0	0	0	0	0	0	兼 46
	技能	日本語力科目	実践日本語表現	1前・後		2			○									兼 5	
			実践話し方入門	1前・後		2			○									兼 1	
			日本語表現講義	1前・後		2			○									兼 1	
			実践漢字講座	1前・後		2			○									兼 1	
			語彙・読解講座	1前・後		2			○									兼 1	
			古典に学ぶ日本語表現	1前・後		2			○									兼 2	
			実用文書の作り方・情報の伝え方	2前・後		2			○									兼 2	
			テーマ別日本語表現(文芸をたのしむ)	2後		2			○									兼 1	
			テーマ別日本語表現(俳句作りをたのしむ)	2前		2			○									兼 1	
			テーマ別日本語表現(源氏物語を読む)	2後		2			○									兼 1	
			テーマ別日本語表現(文章表現を磨く)	2前・後		2			○									兼 1	
			テーマ別日本語表現(話し方を磨く)	2前		2			○									兼 1	
			小計 (12科目)			—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	0	兼 14
		キャリア教育科目	キャリアプランニング	1前・後		2			○									兼 5	
			ビジネストレーニングセミナー	1後		2				○								兼 1	
			キャリアセミナー	2前・後		2				○								兼 6	
			グローバルキャリアセミナー	2前		2				○								兼 1	
			キャリア発展講義	2前・後		2			○									兼 2	
			日本企業の現状と展望	2後		2			○									兼 2	共同

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(文学部国際文化学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通 科目	技能	キャリア 教育科目	インターンシップ準備講座	3前		2		○								兼 1		
			インターンシップ実習	3後		2			○							兼 1		
			発展インターンシップ準備講座	3前		2		○			1					兼 6		
			発展インターンシップ実習	3後		2			○							兼 1		
			Global Career Design	3後		2			○							兼 1		
			小計（11科目）	—	0	22	0	—			0	1	0	0	0	兼 14		
		情報基 盤科目	情報基礎	1前		2		○										兼 2
			情報活用A	1後		2		○										兼 1
			情報活用B	1後		2		○										兼 1
			情報活用C	1後		2		○										兼 1
			情報活用D	1後		2		○										兼 1
			情報活用E	1後		2		○										兼 1
	情報活用F		1後		2			○								兼 1		
	Python入門		1後		2				○							兼 2		
	データサイエンス入門		1後		2			○								兼 2		
	Excelによるデータ分析入門		1後		2			○								兼 1		
	小計（10科目）	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼 9				
	健康・ スポー ツ科目	健康・スポーツ演習A	1前		2				○							兼 19		
		健康・スポーツ演習B	1後		2				○							兼 19		
		スポーツと科学	1前		2			○								兼 1		
		スポーツと文化	1後		2			○								兼 1		
		スポーツと社会	1前		2			○								兼 1		
		健康と科学	1前		2			○								兼 1		
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼 19				
	教養 基礎	人文学	哲学の基礎	1前・後		2		○									兼 3	
			倫理学の基礎	1前・後		2		○									兼 2	
			現代社会と哲学	1後		2		○									兼 1	
			現代社会と倫理学	1後		2		○									兼 1	
			文学への招待	1前・後		2		○									兼 3	
			芸術への招待	1前・後		2		○									兼 2	
			カルチュラル・スタディーズ	1前・後		2		○									兼 4	
			心理学の基礎	1前・後		2		○									兼 3	
			自己理解の心理学	1前・後		2		○									兼 3	
			教育原理	1前・後		2		○									兼 2	
			教育心理学	1前・後		2		○									兼 2	
小計（11科目）			—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	兼 24			
社会科学		政治学の基礎	1前・後		2		○									兼 1		
		経済学の基礎	1前・後		2		○									兼 2		
		社会学と現代	1前・後		2		○									兼 2		
		日本国憲法	1前・後		2		○									兼 1		
		市民生活と法A	1後		2		○									兼 1		
		市民生活と法B	1後		2		○									兼 1		
		現代のマスメディア	1前		2		○									兼 1		
		社会心理学入門	1前・後		2		○									兼 1		
		企業と社会	1後		2		○									兼 1		
		学校と社会	1前・後		2		○									兼 2		
		近現代日本史A	1前		2		○									兼 3		
		近現代日本史B	1後		2		○									兼 3		
		現代社会の地理	1前・後		2		○									兼 2		
		小計（13科目）	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	兼 18			
自然科学	物質の究極像	1後		2		○									兼 1			
	人間と進化	1後		2		○									兼 1			
	脳科学と心	1前・後		2		○									兼 1			
	天文学入門	1前		2		○									兼 2			
	薬はなぜ効くか	1後		2		○									兼 2			

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(文学部国際文化学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学 共通科目	教養 基礎	自然 科学	身の回りの科学	1後		2		○								兼 1		
			科学史	1前		2		○								兼 1		
			科学技術の発展と歴史	1後		2		○								兼 1		
			サイエンス・トピックス(熱と光の科学)	1後		2		○								兼 1		
			サイエンス・トピックス(物質の科学)	1前		2		○								兼 1		
			サイエンス・トピックス(数の世界)	1前		2		○								兼 1		
			サイエンス・トピックス(生命の科学)	1前		2		○								兼 1		
			サイエンス・トピックス(文系のための数学)	1後		2		○								兼 1		
			サイエンス・トピックス(文系のための科学実験)	1後		2		○								兼 2		
			データサイエンスのための基礎数学	1前		2		○								兼 1		
			AI入門	1前		2		○								兼 1		
			統計分析入門	1後		2		○								兼 1		
			小計 (17科目)			—	0	34	0	—			0	0	0	0	0	兼 19
	持続 社会 探究	環境・ 地域	地球と環境	2後		2		○								兼 1		
			気象と地球環境	2前		2		○								兼 1		
			自然環境と文明	2前		2		○								兼 1		
			日本列島の歴史と災害	2前		2		○								兼 1		
			日本の国土と社会	2前・後		2		○								兼 1		
			外国の自然と社会A	2前		2		○								兼 1		
			外国の自然と社会B	2前		2		○								兼 1		
			地域づくり論	2前		2		○								兼 1		
			環境科学トピックス(生命と環境)	2前		2		○								兼 1		
			環境科学トピックス(食料と環境)	2後		2		○								兼 1		
			環境科学トピックス(エネルギーと環境)	2前		2		○								兼 1		
			環境科学トピックス(環境保全と住環境の現在・未来)	2後		2		○								兼 1		
			小計 (12科目)			—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼 12
		国際 理解	戦後の日本と世界	2後		2		○									兼 2	
			近現代のアジアA	2前		2		○							1			
			近現代のアジアB	2後		2		○							1			
			近現代の欧米A	2前		2		○									兼 2	
			近現代の欧米B	2後		2		○									兼 2	
			中東地域史	2後		2		○									兼 1	
			現代の国際政治	2前		2		○									兼 1	
			グローバル経済論	2後		2		○									兼 1	
			国際文化交流論	2前		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(ドイツ語圏)	2前		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(フランス語圏)	2後		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(スペイン語圏)	2後		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(中国語圏)	2前		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(韓国語圏)	2前		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(イスラーム世界)	2前		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(フランス語で学ぶ世界)	2後		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(スペイン語で学ぶ世界)	2後		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(中国語で学ぶ世界)	2後		2		○									兼 1	
			異文化理解トピックス(韓国語で学ぶ世界)	2後		2		○									兼 1	
			小計 (19科目)			—	0	38	0	—			0	0	0	1	0	兼 18
		人権・ 共生	裁判と社会	2後		2		○						1			兼 1	
	生命倫理と法		2前		2		○									兼 1		
	地域福祉論		2前		2		○									兼 1		
	人権とジェンダー		2後		2		○											
	こころの健康と臨床		2前・後		2		○									兼 2		
	高齢者福祉論		2前		2		○									兼 1		
	福祉社会に生きる		2後		2		○									兼 1		
	特別支援教育概論		2前		2		○									兼 1		
	共生社会トピックス(日本女性史)		2後		2		○									兼 1		
	共生社会トピックス(アートと社会)		2前		2		○									兼 1		
	共生社会トピックス(イノベーションの歴史と現代)		2前		2		○									兼 1		

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(文学部国際文化学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
全学共通科目	人権・共生	共生社会トピックス(アジア太平洋地域の国際協力と開発援助)	2後		2		○									兼 1		
		共生社会トピックス(三菱寄附講座 データサイエンスの最前線)	2前		2		○								兼 1			
		共生社会トピックス(江戸社会と浮世絵)	2後		2		○								兼 1			
		小計 (14科目)	—	0	28	0	—		1	0	0	0	0	兼 12				
	実践	成蹊を知る	1後		2		○									兼 1	共同	
		情報保障とボランティア	1前		2		○									兼 1		
		野外自然教育論	1後		2		○									兼 1		
		地元学実践演習	1後		2			○								兼 1		
		武蔵野地域研究	1前		2		○									兼 1		
		武蔵野市寄附講座	1後		2		○									兼 1		
		大学生活と相互理解	1前		2		○									兼 2		
		成蹊グローバルセミナーA	1前		2			○								兼 1		
		成蹊グローバルセミナーB	1後		2			○								兼 1		
		武蔵野地域連携セミナー	1前・後		2			○								兼 3		
		Global Studies Seminar I	1前		2			○								兼 1		
		Global Studies Seminar II	1後		2			○								兼 2		
		Global Studies Seminar III	2前		2			○								兼 3		
		小計 (13科目)	—	0	26	0	—		0	0	0	0	0	0	兼 18			
		全学共通科目 小計 (283科目)			—	8	521	0	—		1	1	0	1	0	兼 233		
		専門科目	必修科目	演習系科目	基礎演習Ⅰ	1前	2				○		4	2				
基礎演習Ⅱ	1後				2				○		4	2						
基礎演習Ⅲ	2前				2				○		3	1		1				
基礎演習Ⅳ	2後				2				○		3	1		1				
国際文化英語演習	2前				2				○		5	1						
演習Ⅰ	3前				2				○		7	3						
演習Ⅱ	3後				2				○		7	3						
演習Ⅲ	4前				2				○		7	3						
演習Ⅳ	4後				2				○		7	3						
卒業論文	4通				8					○	1							
小計 (10科目)	—				26	0	0	—		7	3	0	1	0	兼 2			
選択必修科目	国際関係科目		国際関係論入門	1前		2		○			1						兼 1 兼 1 兼 1 兼 1 兼 1 兼 1 兼 1 兼 1 兼 1 兼 3	
			平和学入門	1前		2		○			1							
			国際文化論	1後		2		○			1							
			国際政治経済学	1後		2		○										
			国際協力論	1後		2		○										
			国際関係論特講A	2前		2		○										
			国際関係論特講B	2後		2		○										
			平和学特講A	2前		2		○										
			平和学特講B	2前		2		○										
			グローバル・イシューズ	2後		2		○										
			小計 (10科目)	—	0	20	0	—		2	0	0	0	0	兼 7			
	文化人類学科目		文化人類学入門Ⅰ	1前		2		○			1							
			文化人類学入門Ⅱ	1後		2		○			1							
			民族文化論	1前		2		○			1							
			フィールドワーク論	1後		2		○			1							
			文化人類学特講Ⅰ	2前		2		○								兼 1		
			文化人類学特講Ⅱ	2後		2		○								兼 1		
			グローバル化の人類学	2前		2		○								兼 1		
			現代人類学	2後		2		○			1							
小計 (8科目)	—	0	16	0	—		2	0	0	0	0	兼 3						
歴史・文化研究科目	歴史学入門	1前		2		○									兼 1			
	比較文化研究A	1前		2		○									兼 1			
	比較文化研究B	1後		2		○				1								
	ヨーロッパの歴史と文化A	1前		2		○				1								
	ヨーロッパの歴史と文化B	1後		2		○				1								
	ヨーロッパの歴史と文化C	1前		2		○				1								
	ヨーロッパの歴史と文化D	1後		2		○								兼 1				

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(文学部国際文化学科)																			
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考			
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
専門科目	選択必修科目	歴史・文化研究科目	アメリカの歴史と文化A	1前		2		○			1								
			アメリカの歴史と文化B	1後		2		○			1								
			日本の歴史と文化A	1前		2		○			1								
			日本の歴史と文化B	1後		2		○				1							
			アジア・太平洋の歴史と文化A	1前		2		○				1							
			アジア・太平洋の歴史と文化B	1後		2		○			1								
			アジア・アフリカの歴史と文化A	1前		2		○			1								
			アジア・アフリカの歴史と文化B	1後		2		○			1								
			古典文化研究A	1後		2		○			1								
			古典文化研究B	1後		2		○			1								
			地域文化研究A	1後		2		○									兼 1		
			地域文化研究B	1前		2		○									兼 1		
			地域文化研究C	1後		2		○									兼 1		
			地域文化研究D	1後		2		○									兼 1		
			ヨーロッパ文化・文化史特講A	2後		2		○				1							
			ヨーロッパ文化・文化史特講B	2後		2		○											
			ヨーロッパ文化・文化史特講C	2後		2		○									兼 1		
			ヨーロッパ文化・文化史特講D	2後		2		○									兼 1		
			アメリカ文化・文化史特講A	2前		2		○									兼 1		
			アメリカ文化・文化史特講B	2前		2		○									兼 1		
			日本文化・文化史特講A	2前		2		○									兼 1		
			日本文化・文化史特講B	2前		2		○			1								
			アジア文化・文化史特講A	2前		2		○									兼 1		
			アジア文化・文化史特講B	2前		2		○									兼 1		
			アジア文化・文化史特講C	2後		2		○									兼 1		
			アジア文化・文化史特講D	2後		2		○			1								
			小計 (33科目)			—	0	66	0	—			3	3	0	0	0	兼 13	
			選択科目	広域科目	世界の言語文化	1後		2		○									兼 1
					世界の宗教文化	1後		2		○									兼 1
					国際文化研究A	1後		2		○			1						
					国際文化研究B	1後		2		○			1						
					国際文化研究C	1後		2		○				1					
					国際文化研究D	1後		2		○									兼 1
	世界美術史A	1後				2		○									兼 1		
	世界美術史B	1後				2		○									兼 1		
	日本美術史A	1後				2		○									兼 1		
	社会学入門	1後				2		○									兼 1		
	小計 (10科目)			—	0	20	0	—			2	1	0	0	0	兼 7			
	広域基礎科目	日本史概論Ⅰ		2前		2		○										兼 1	
		日本史概論Ⅱ		2後		2		○										兼 1	
		世界史概論Ⅰ		2前		2		○										兼 1	
		世界史概論Ⅱ	2後		2		○										兼 1		
		人文地理学	2前		2		○										兼 1		
		自然地理学	2前		2		○										兼 1		
		地誌学	2後		2		○										兼 1		
		現代の政治学	2後		2		○										兼 1		
	小計 (8科目)			—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼 6			
専門科目 小計 (79科目)			—	26	138	0	—			7	3	0	1	0	兼 37				
自由設計科目	文学部共通科目	トピック・セミナー	トピック・セミナーA	1前		2		○									兼 1		
			トピック・セミナーB	1後		2		○									兼 1		
			トピック・セミナーC	1前		2		○									兼 1		
			トピック・セミナーD	1後		2		○									兼 1		
			トピック・セミナーE	1後		2		○									兼 1		
			トピック・セミナーF	1前		2		○									兼 1		
			小計 (6科目)			—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼 3	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(文学部国際文化学科)																		
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
自由設計科目	文学部共通科目	こ 世 と 界 の	ラテン語	1後		2		○									兼 1	
			古典ギリシア語	1後		2		○									兼 1	
			小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼 2		
		東洋文庫 連携科目	展示から探る歴史・文化	1後		2		○									兼 1	
			小計 (1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼 1		
		芸 術 文 化 行 政 コ ー ス 開 設 科 目	文化政策学	1前		2		○										兼 1
			アート・アドミニストレーション	1後		2		○										兼 1
			地方自治体の文化行政	1後		2		○										兼 1
			文化政策と法	1前		2		○										兼 1
			舞踊論	1後		2		○										兼 1
			アート・ジャーナリズム	1前		2		○										兼 1
			上演芸術論	1前		2		○										兼 1
			芸術文化行政特講A	1後		2		○										兼 1
			芸術文化行政特講B	1後		2		○										兼 1
			写真論	1前		2		○										兼 1
			制作演習A	2後		2				○								兼 1
			制作演習B	2後		2				○								兼 1
			制作演習C	2前		2				○								兼 1
			制作演習D	2前		2				○								兼 1
			制作演習E	2後		2				○								兼 1
	制作演習F	2前		2				○								兼 1		
	小計 (16科目)	—	0	32	0	—			0	0	0	0	0	0	兼 8			
	日 本 語 教 員 養 成 コ ー ス 開 設 科 目	日本語教育概論	1前		2		○										兼 1	
		日本語教育方法論	1後		2		○										兼 1	
		日本語教育理解と実践	1後		2		○										兼 1	
		日本語教育事情	1前		2		○										兼 1	
		言語学講義(言語と社会)	1後		2		○										兼 1	
		日本語の学習と習得	1後		2		○										兼 1	
		言語の構造	1後		2		○										兼 1	
		対照言語学	1前		2		○										兼 1	
		日本語教授法	1後		2		○										兼 1	
		日本語教育演習	2後		2				○								兼 1	
		日本語教育実習	3前・後		1					○							兼 1	
	小計 (11科目)	—	0	21	0	—			0	0	0	0	0	0	兼 3			
	文 学 部 総 合 講 義	文学部総合講義A	1前		2		○										兼 1	
		文学部総合講義B	1後		2		○										兼 1	
		文学部総合講義C	1前		2		○										兼 1	
		文学部総合講義D	1後		2		○										兼 1	
		文学部総合講義E	1前		2		○										兼 1	
		文学部総合講義F	1後		2		○										兼 1	
		小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼 1		
	複 合 ・ 学 際 科 目	E A G L E 科 目	International Business	2前		2		○									兼 1	
			Japanese Economy	2後		2		○										兼 1
			Current Topics in Business and Economics	2前・後		2		○										兼 2
			International Relations	2前		2		○										兼 1
			Regional Studies	2前・後		2		○										兼 3
			Current Topics in Global Issues	2前・後		2		○										兼 3
			Japanese Contemporary Issues	2前		2		○			1							兼 1
			Japanese Traditional Culture	2後		2		○										兼 1
			Current Topics in World Affairs	2前・後		2		○										兼 4
		小計 (9科目)	—	0	18	0	—			1	0	0	0	0	0	兼 12		
自由設計科目 小計 (51科目)					0	101	0				1	0	0	0	0	兼 27		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部国際文化学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教 職 課 程 の 大 学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目	教職特論演習Ⅰ	3後			2		○							兼 1
	教職特論演習Ⅱ	4前			2		○							兼 1
	学校経営と学校図書館	2前			2	○								兼 1
	学校図書館メディアの構成	2前			2	○								兼 1
	学習指導と学校図書館	2後			2	○								兼 1
	読書と豊かな人間性	2前			2	○								兼 1
	情報メディアの活用	2後			2	○								兼 1
	小計 (7科目)	—	0	0	14	—			0	0	0	0	0	兼 4
教 科 及 び 教 職 に 関 す る 科 目	教職論	1後			2	○								兼 1
	教育課程論	2後			2	○								兼 1
	道徳教育の指導法	3前・後			2	○								兼 3
	総合的な学習の時間の指導法	3前・後			2	○								兼 1
	特別活動の指導法	3後			2	○								兼 1
	教育の方法と技術	2前・後			2	○								兼 4
	ICT活用の理論と方法	2前			1	○								兼 1
	生徒指導論	1後			2	○								兼 1
	教育相談	2前・後			2	○								兼 2
	進路指導論	1前・後			2	○								兼 1
	教育実習論	3後			1	○								兼 3
	教育実習 (中・高)	4通			5			○						兼 4
	教育実習 (高)	4通			3			○						兼 4
	教職実践演習 (中・高)	4後			2		○							兼 4 オムニバス
小計 (14科目)	—	0	0	30	—			0	0	0	0	0	兼 15	
教 法 に 及 ぶ 関 す る 科 目 の 指 導	社会科教育法A	3前			2	○								兼 1
	社会科教育法B	3前			2	○								兼 1
	社会科・地理歴史科教育法	2後			2	○								兼 1
	社会科・公民科教育法	2後			2	○								兼 1
	地理歴史科教育法	3後			2	○								兼 1
	公民科教育法	3後			2	○								兼 1
	小計 (6科目)	—	0	0	12	—			0	0	0	0	0	兼 2
教職課程関係科目 小計 (27科目)			0	0	56	—			0	0	0	0	0	兼 18
総合計 (440科目)		—	34	760	56	—			7	3	0	1	0	兼 295
学位又は称号		学士 (文学)			学位又は学科の分野				文学関係					
卒業要件及び履修方法										授業期間等				
(1) 4年以上在学し、かつ、次のすべての要件を満たした上で、124単位以上を修得すること。 (1) 全学共通科目にあっては、次の要件を満たした上で28単位以上修得すること。 ①「外国語 (英語科目、初修外国語科目)」 「技能 (日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目)」から16単位以上 (このうち英語科目を必修4単位を含め6単位以上を含む。) ②「教養基礎」「持続社会探究」から8単位以上 (2) 国際文化学科専門科目および自由設計科目にあっては、次の要件を満たした上で96単位以上修得すること。 ①必修科目26単位 ②選択必修科目の「国際関係科目」「文化人類学科目」「歴史・文化研究科目」の各区分の単位を各6単位以上 ③選択必修科目および選択科目の広域科目の合計が40単位以上 (3) 自由設計科目については、自由設計科目に配置された授業科目の単位、(1)において規定単位数を超えた分のうち外国語科目の単位および(2)において規定単位数以上を修得した科目の単位を合計する。										1 学年の学期区分		2期		
										1 学期の授業期間		14週		
										1 時限の授業時間		100分		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部理工学科)															
科目 区分	授業科目の名称		配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
全 学 共 通 科 目	外 国 語	英 語 科 目	College English (Listening & Speaking) I	1前	1		○								兼 16
			College English (Reading & Writing) I	1前	1		○				1				兼 16
			College English (Listening & Speaking) II	1後	1		○								兼 16
			College English (Reading & Writing) II	1後	1		○				1				兼 16
			College English (Integrated Skills) I	2前	1		○								兼 16
			College English (Integrated Skills) II	2後	1		○								兼 16
			TOEFL Preparation Introduction	1前・後		1		○							兼 2
			TOEFL Preparation Intermediate	1前・後		1		○		1					兼 2
			TOEIC Preparation Introduction	1前・後		1		○		1					兼 3
			TOEIC Preparation Intermediate	1前・後		1		○							兼 4
			IELTS Preparation Introduction	1前・後		1		○		1					兼 1
			IELTS Preparation Intermediate	1前・後		1		○		1					兼 1
			基礎からのコミュニケーション英文法	1前・後		2		○							兼 1
			自分でデザインする英語学習	1前・後		2		○							兼 1
			英語発音トレーニング	1前・後		2		○			1				兼 2
			英語読解トレーニング	1前・後		2		○							兼 2
			Presentation Skills Basic	1前・後		2		○							兼 2
			Discussion Skills Basic	1前・後		2		○							兼 2
			Writing Skills (Paragraph)	1前		2		○							兼 1
			Presentation Skills Intermediate	1後		2		○							兼 1
			Discussion Skills Intermediate	1前・後		2		○							兼 2
			Writing Skills (Essay)	1前・後		2		○							兼 2
			多読で学ぶ英語と文化 I	2前・後		2		○							兼 4
			多読で学ぶ英語と文化 II	2後		2		○							兼 1
			映画で学ぶ英語と文化	2前・後		2		○		1					兼 5
			ドラマで学ぶ英語と文化	2前・後		2		○		1					兼 4
			歌で学ぶ英語と文化	2前・後		2		○		1					兼 2
			メディアで学ぶ英語と文化	2前・後		2		○		1	1				兼 1
			キャリアのための英語と文化	2前・後		2		○							兼 3
			TOEFL Preparation Advanced I	1前		1		○							兼 1
			TOEFL Preparation Advanced II	1後		1		○							兼 1
			IELTS Preparation Advanced I	1前		1		○							兼 1
			IELTS Preparation Advanced II	1後		1		○							兼 1
			TOEIC Preparation Advanced	1前・後		1		○							兼 1
			Media English	2後		2		○							兼 2
			Academic Listening	2前・後		2		○							兼 1
			Cross Cultural Communication Skills	2前・後		2		○							兼 1
			Discussion & Presentation	2前		2		○							兼 1
			English for the Workplace	2前		2		○							兼 1
			Essay Writing	2前・後		2		○							兼 2
			Intensive Reading	2前・後		2		○							兼 2
			World Englishes	2後		2		○							兼 1
			小計 (42科目)	—	6	61	0	—		1	1	0	0	0	兼 60
	初 修 外 国 語 科 目		ドイツ語基礎A I	1前		1		○							兼 3
			ドイツ語基礎B I	1前		1		○							兼 4
			フランス語基礎A I	1前		1		○							兼 4
			フランス語基礎B I	1前		1		○							兼 4
			スペイン語基礎A I	1前		1		○							兼 5
			スペイン語基礎B I	1前		1		○							兼 5
			中国語基礎A I	1前		1		○							兼 6
			中国語基礎B I	1前		1		○							兼 10
			韓国語基礎A I	1前		1		○							兼 6
			韓国語基礎B I	1前		1		○							兼 6
			ドイツ語基礎A II	1後		1		○							兼 3
			ドイツ語基礎B II	1後		1		○							兼 4
			フランス語基礎A II	1後		1		○							兼 4
			フランス語基礎B II	1後		1		○							兼 4
			スペイン語基礎A II	1後		1		○							兼 5
			スペイン語基礎B II	1後		1		○							兼 5

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部理工学科)															
科目 区分	授業科目の名称		配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
全 学 共 通 科 目	外 国 語	初 修 外 国 語 科 目	中国語基礎AⅡ	1後	1		○								兼 6
			中国語基礎BⅡ	1後	1		○								兼 10
			韓国語基礎AⅡ	1後	1		○								兼 6
			韓国語基礎BⅡ	1後	1		○								兼 6
			ドイツ語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○							兼 2
			ドイツ語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○							兼 2
			ドイツ語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○							兼 1
			ドイツ語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○							兼 1
			ドイツ語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○							兼 1
			フランス語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○							兼 1
			フランス語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○							兼 1
			フランス語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○							兼 1
			フランス語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○							兼 1
			フランス語演習コミュニケーションⅤ	2後	2			○							兼 1
			スペイン語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○							兼 2
			スペイン語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○							兼 2
			スペイン語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○							兼 1
			スペイン語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○							兼 1
			スペイン語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○							兼 1
			中国語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○							兼 5
			中国語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○							兼 5
			中国語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○							兼 2
			中国語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○							兼 2
			中国語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○							兼 1
			韓国語演習コミュニケーションⅠ	1前	2			○							兼 2
			韓国語演習コミュニケーションⅡ	1後	2			○							兼 2
			韓国語演習コミュニケーションⅢ	2前	2			○							兼 1
			韓国語演習コミュニケーションⅣ	2後	2			○							兼 1
			韓国語演習コミュニケーションⅤ	2前	2			○							兼 1
			ドイツ語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○							兼 1
			ドイツ語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○							兼 1
			ドイツ語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○							兼 1
			ドイツ語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○							兼 1
			フランス語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○							兼 1
			フランス語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○							兼 1
			フランス語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○							兼 1
			フランス語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○							兼 1
			スペイン語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○							兼 2
			スペイン語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○							兼 1
			スペイン語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○							兼 1
			スペイン語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○							兼 1
			中国語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○							兼 2
			中国語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○							兼 2
			中国語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○							兼 1
			中国語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○							兼 1
			韓国語演習言語と文化Ⅰ	2前	2			○							兼 1
			韓国語演習言語と文化Ⅱ	2後	2			○							兼 1
			韓国語演習言語と文化Ⅲ	2前	2			○							兼 1
			韓国語演習言語と文化Ⅳ	2後	2			○							兼 1
			ドイツ語演習検定対策Ⅰ	2前	2			○							兼 1
			ドイツ語演習検定対策Ⅱ	2後	2			○							兼 1
			ドイツ語演習検定対策Ⅲ	2前	2			○							兼 1
			ドイツ語演習検定対策Ⅳ	2前	2			○							兼 1
			フランス語演習検定対策Ⅰ	2前	2			○							兼 1
			フランス語演習検定対策Ⅱ	2後	2			○							兼 1
			フランス語演習検定対策Ⅲ	2前	2			○							兼 1
			フランス語演習検定対策Ⅳ	2後	2			○							兼 1
			スペイン語演習検定対策Ⅰ	2前	2			○							兼 2
			スペイン語演習検定対策Ⅱ	2後	2			○							兼 1

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部理工学科)																
科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
外国語	初修外国語科目		スペイン語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○							兼 1
			スペイン語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○							兼 1
			中国語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○							兼 1
			中国語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○							兼 1
			中国語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○							兼 1
			中国語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○							兼 1
			韓国語演習検定対策Ⅰ	2前		2			○							兼 1
			韓国語演習検定対策Ⅱ	2後		2			○							兼 1
			韓国語演習検定対策Ⅲ	2前		2			○							兼 1
			韓国語演習検定対策Ⅳ	2後		2			○							兼 1
			ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○							兼 1
			ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○							兼 1
			フランス語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○							兼 1
			フランス語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○							兼 1
			スペイン語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○							兼 1
			スペイン語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○							兼 1
			中国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○							兼 1
			中国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○							兼 1
			韓国語演習プレゼンテーションⅠ	2前		2			○							兼 1
			韓国語演習プレゼンテーションⅡ	2後		2			○							兼 1
			世界の言語(ロシア語Ⅰ)	1前		1		○								兼 1
			世界の言語(ロシア語Ⅱ)	1後		1		○								兼 1
			世界の言語(タイ語Ⅰ)	1前		1		○								兼 1
			世界の言語(タイ語Ⅱ)	1後		1		○								兼 1
			世界の言語(イタリア語Ⅰ)	1前		1		○								兼 1
			世界の言語(イタリア語Ⅱ)	1後		1		○								兼 1
			小計(101科目)	—	0	176	0	—			0	0	0	0	0	兼 55
全学共通科目	日本語力科目		実践日本語表現	1前・後		2		○								兼 5
			実践話し方入門	1前・後		2		○								兼 1
			日本語表現講義	1前・後		2		○								兼 1
			実践漢字講座	1前・後		2		○								兼 1
			語彙・読解講座	1前・後		2		○								兼 1
			古典に学ぶ日本語表現	1前・後		2		○								兼 2
			実用文書の作り方・情報の伝え方	2前・後		2		○								兼 2
			テーマ別日本語表現(文芸をたのしむ)	2後		2		○								兼 1
			テーマ別日本語表現(俳句作りをたのしむ)	2前		2		○								兼 1
			テーマ別日本語表現(源氏物語を読む)	2後		2		○								兼 1
			テーマ別日本語表現(文章表現を磨く)	2前・後		2		○								兼 1
			テーマ別日本語表現(話し方を磨く)	2前		2		○								兼 1
			小計(12科目)	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼 14
	技能	キャリア教育科目	キャリアプランニング	1前・後		2		○								兼 5
			ビジネストレーニングセミナー	1後		2			○							兼 1
			キャリアセミナー	2前・後		2			○							兼 6
			グローバルキャリアセミナー	2前		2			○							兼 1
			キャリア発展講義	2前・後		2		○								兼 2
			日本企業の現状と展望	2後		2		○			1					兼 1
			インターンシップ準備講座	3前		2		○								兼 1
			インターンシップ実習	3後		2			○							兼 1
			理工系インターンシップ実習	3後		2			○		3	4				兼 5
			発展インターンシップ準備講座	3前		2		○			1	1				兼 1
			発展インターンシップ実習	3後		2			○		1					兼 1
			小計(11科目)	—	0	22	0	—			4	4	0	0	0	兼 12
	情報基盤科目		情報基礎	1前	2			○			1	1		3		兼 3
			情報活用A	1後		2		○								兼 1
			情報活用B	1後		2		○								兼 1
			情報活用C	1後		2		○								兼 1
			情報活用D	1後		2		○								兼 1
			情報活用E	1後		2		○								兼 1
			情報活用F	1後		2			○							兼 1

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(理工学部理工学科)																			
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通科目	技能	情報 基盤 科目	データサイエンス入門	1後		2		○				1				兼	1		
			Excelによるデータ分析入門	1後		2		○								兼	1		
			小計 (9科目)	—	2	16	0	—		1	2	0	3	0	兼	8			
		健康・ ス ポ ー ツ 科 目	健康・スポーツ演習A	1前		2			○							兼	19		
			健康・スポーツ演習B	1後		2			○							兼	19		
			スポーツと科学	1前		2		○								兼	1		
			スポーツと文化	1後		2		○								兼	1		
			スポーツと社会	1前		2		○								兼	1		
			健康と科学	1前		2		○								兼	1		
		小計 (6科目)	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	兼	19				
	教養基礎	人文学	哲学の基礎	1前・後		2		○								兼	3		
			倫理学の基礎	1前・後		2		○								兼	2		
			現代社会と哲学	1後		2		○								兼	1		
			現代社会と倫理学	1後		2		○								兼	1		
			文学への招待	1前・後		2		○								兼	3		
			芸術への招待	1前・後		2		○								兼	2		
			カルチュラル・スタディーズ	1前・後		2		○								兼	4		
			心理学の基礎	1前・後		2		○								兼	3		
			自己理解の心理学	1前・後		2		○								兼	3		
			教育原理	1前・後		2		○								兼	2		
			教育心理学	1前・後		2		○								兼	2		
			小計 (11科目)	—	0	22	0	—		0	0	0	0	0	兼	24			
		社会科学	政治学の基礎	1前・後		2		○								兼	1		
			経済学の基礎	1前・後		2		○								兼	2		
			社会学と現代	1前・後		2		○								兼	2		
			日本国憲法	1前・後		2		○								兼	1		
			市民生活と法A	1後		2		○								兼	1		
			市民生活と法B	1後		2		○								兼	1		
			現代のマスメディア	1前		2		○								兼	1		
			社会心理学入門	1前・後		2		○								兼	1		
			企業と社会	1後		2		○								兼	1		
			学校と社会	1前・後		2		○								兼	2		
			近現代日本史A	1前		2		○								兼	3		
			近現代日本史B	1後		2		○								兼	3		
			現代社会の地理	1前・後		2		○								兼	2		
		小計 (13科目)	—	0	26	0	—		0	0	0	0	0	兼	18				
		自然科学	物質の究極像	1後		2		○					1				兼	1	共同
			人間と進化	1後		2		○									兼	1	
			脳科学と心	1前・後		2		○								兼	2		
			天文学入門	1前		2		○								兼	2		
			薬はなぜ効くか	1後		2		○								兼	2		
			身の回りの科学	1後		2		○								兼	1		
			科学史	1前		2		○								兼	1		
			科学技術の発展と歴史	1後		2		○								兼	1		
			サイエンス・トピックス(熱と光の科学)	1後		2		○				1				兼	1		
			サイエンス・トピックス(物質の科学)	1前		2		○				1				兼	1		
			サイエンス・トピックス(数の世界)	1前		2		○								兼	1		
			サイエンス・トピックス(生命の科学)	1前		2		○								兼	1		
			AI入門	1前		2		○					1						
			統計分析入門	1後		2		○					1						
			小計 (14科目)	—	0	28	0	—		2	2	0	0	0	兼	11			
	持続社会探究	環境・地域	地球と環境	2後		2		○								兼	1		
			気象と地球環境	2前		2		○								兼	1		
			自然環境と文明	2前		2		○								兼	1		
			日本列島の歴史と災害	2前		2		○								兼	1		
			日本の国土と社会	2前・後		2		○								兼	1		
			外国の自然と社会A	2前		2		○								兼	1		
			外国の自然と社会B	2前		2		○								兼	1		
			地域づくり論	2前		2		○								兼	1		

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(理工学部理工学科)																			
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考			
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	環境科学トビックス(生命と環境)	2前		2		○								兼	1		
			環境科学トビックス(食料と環境)	2後		2		○				1					兼	1	
			環境科学トビックス(エネルギーと環境)	2前		2		○											
			環境科学トビックス(環境保全と住環境の現在・未来)	2後		2		○				1							
			小計 (12科目)	—	0	24	0	—	—	2	0	0	0	0	0	兼	10		
		国際理解	戦後の日本と世界	2後		2		○									兼	2	
			近現代のアジアA	2前		2		○									兼	1	
			近現代のアジアB	2後		2		○									兼	1	
			近現代の欧米A	2前		2		○									兼	2	
			近現代の欧米B	2後		2		○									兼	2	
			中東地域史	2後		2		○									兼	1	
			現代の国際政治	2前		2		○									兼	1	
			グローバル経済論	2後		2		○									兼	1	
			国際文化交流論	2前		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(ドイツ語圏)	2前		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(フランス語圏)	2後		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(スペイン語圏)	2後		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(中国語圏)	2前		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(韓国語圏)	2前		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(イスラーム世界)	2前		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(フランス語で学ぶ世界)	2後		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(スペイン語で学ぶ世界)	2後		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(中国語で学ぶ世界)	2後		2		○									兼	1	
			異文化理解トビックス(韓国語で学ぶ世界)	2後		2		○									兼	1	
			小計 (19科目)	—	0	38	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼	19		
		人権・共生	裁判と社会	2後		2		○									兼	1	
			生命倫理と法	2前		2		○									兼	1	
			地域福祉論	2前		2		○									兼	1	
			人権とジェンダー	2後		2		○									兼	1	
			こころの健康と臨床	2前・後		2		○									兼	2	
			高齢者福祉論	2前		2		○									兼	1	
			福祉社会に生きる	2後		2		○									兼	1	
			特別支援教育概論	2前		2		○									兼	1	
			共生社会トビックス(アートと社会)	2後		2		○									兼	1	
			共生社会トビックス(日本女性史)	2前		2		○									兼	1	
			共生社会トビックス(イノベーションの歴史と現代)	2前		2		○									兼	1	
			共生社会トビックス(アジア太平洋地域の国際協力と開発援助)	2後		2		○									兼	1	
			共生社会トビックス(三菱寄附講座 データサイエンスの最前線)	2前		2		○				1							
			共生社会トビックス(江戸社会と浮世絵)	2後		2		○									兼	1	
			小計 (14科目)	—	0	28	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼	12		
		実践	成蹊を知る	1後		2		○									兼	1	
			情報保障とボランティア	1前		2		○									兼	1	共同
			野外自然教育論	1後		2		○									兼	1	
			地元学実践演習	1後		2			○								兼	1	
			武蔵野地域研究	1前		2		○									兼	1	
			武蔵野市寄附講座	1後		2		○									兼	1	
			大学生活と相互理解	1前		2		○									兼	2	共同
			成蹊グローバルセミナーA	1前		2			○								兼	1	
			成蹊グローバルセミナーB	1後		2			○								兼	1	
			武蔵野地域連携セミナー	1前・後		2			○								兼	3	
			小計 (10科目)	—	0	20	0	—	—	0	0	0	0	0	0	兼	12		
全学共通科目 小計 (274科目)				—	8	497	0	—	—	10	8	0	3	0	兼	254			

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(理工学部理工学科)																				
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考				
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手					
専門科目	社会人基礎力科目	必修	アカデミックスキルズⅠ	1前	1				○		5	3	1	3		兼	2	共同		
			アカデミックスキルズⅡ	2前	1				○		6	2	1	6		兼	1			
			PBLⅠ	3前	1					○	24	8	1	8		兼				
			PBLⅡ	3後	1					○	31	9	1	19		兼				
		小計(4科目)		—	4	0	0	—			35	11	2	20	0	兼	3			
		選択	理工ビジネススキルズ	3後		2		○			1						兼	3		
			情報社会倫理	1後		2		○									兼	1		
			起業と特許	3後		2		○									兼	1		
	小計(3科目)		—	0	6	0	—			1	0	0	0	0	兼	5				
	専攻融合科目	選択	連携プロジェクトⅠ	2後		2		○			6	2								
			連携プロジェクトⅡ	3前		2		○			4	2								
			科学技術者倫理	3前		2		○			2						兼	6		
			科学技術の最前線	3前		2		○			1						兼	7		
			特別プログラム演習	3前		2		○			1	1	1				兼	1		
	小計(5科目)		—	0	10	0	—			13	4	1	0	0	兼	14				
	ICT基礎科目	必修	プログラミング基礎	1前	1				○		7	1			6		兼	3	メディア	
			コンピュータ基礎	1後	2			○			6				1		兼			
			小計(2科目)		—	3	0	0	—			11	1	0	7	0	兼	3		
		選択A群	コンピュータ科学の基礎数学	1後		2		○							1				メディア	
			インターネットの基礎知識	1後		2		○											メディア	
			情報処理の基礎理論	1後		2		○							1				メディア	
			実践データモデリング	2前		2		○									兼	1		
			データサイエンス応用	2後		2		○					1				兼			
			基本情報処理概論	2後		2		○												
			Javaプログラミング	2後		2		○			1									
			IoTプログラミング	3後		2		○			1									
			関数型プログラミング	3前		2		○				1								
		小計(9科目)		—	0	18	0	—			2	2	1	1	0	兼	2			
		選択B群	基礎化学のデータ解析	1前		2		○			1	1			1					
			データベース	2後		2		○				1								
			情報理論	2前		2		○												
			数値計算	3前		2		○					1							
			人工知能	3前		2		○			1									
			データマイニング	3前		2		○			1									
		小計(6科目)		—	0	12	0	—			4	3	0	1	0	兼	0			
	理工学基礎科目	必修	微分積分学Ⅰ	1前・後	2			○			2						兼	8		
			線形代数学Ⅰ	1前	2			○			2						兼	8		
			小計(2科目)		—	4	0	0	—			2	0	0	0	0	兼	9		
		選択A群	数学演習Ⅰ	1前		1				○								兼	6	
			数学演習Ⅱ	1後		1				○								兼	4	
物理学演習Ⅰ			1前		1				○		1	1	1				兼	4		
物理学演習Ⅱ			1後		1				○		1	1					兼	4		
生物学概論			1後		2		○			1										
地学概論			2前		2		○			1										
生物学実験			3通		1					1										
地学実験			3通		1					1										
工業概論			3通		2		○									兼				
科学英語			2後		1		○					1								
物理学概論			1後		2		○			1										
量子力学			3前		2		○				1									
小計(12科目)			—	0	17	0	—			3	2	1	0	0	兼	14				
選択B群		物理学Ⅰ	1前		2		○			2		1				兼	4			
		化学数学	1後		2		○			2										
		物理学実験	1前		1				○	1	1					兼	1			
		化学概論	1前		2		○			1										
	化学実験	1前		1					1				2							
	微分積分学Ⅱ	1後		2		○			3						兼	5				
	線形代数学Ⅱ	1後		2		○			3						兼	5				
	物理学Ⅱ	1後		2		○			1	1					兼	4				
	確率統計基礎	1後		2		○			1								メディア			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部理工学科)																
科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	理 工 学 基 礎 科 目	選 択 B 群	応用フーリエ解析	2前		2		○			1					
			微分方程式	2前・後		2		○			2					兼 1
			代数学	2前・後		2		○			1					
			幾何学	2前・後		2		○			1					
			小計 (13科目)	—	0	24	0	—			9	1	1	2	0	兼 12
		自 由	数学入門	1前			2	○			1					
			物理学入門	1前			2	○			1					
			化学入門	1前			2	○			1					メディア
			生物学入門	1前			2	○			1					メディア
			小計 (4科目)	—	0	0	8	—			4	0	0	0	0	兼 0
	専 攻 コ ア 科 目	0 群 必 修	輪講	4前	1				○		31	9	1	13		
			卒業研究 I	4前	3				○		31	9	1			
			卒業研究 II	4後	3				○		31	9	1			
			小計 (3科目)	—	7	0	0	—			31	9	1	13	0	兼 0
		1 群 ・ 2 群 共 通	C++プログラミング I	1後		2		○			5	1		4		
			C++プログラミング II	2前		2		○			2	1		4		兼 3
			C++プログラミング III	2後		2		○			2			3		
			離散数学	1前		2		○				2		2		兼 2
			C++プログラミング実験 I	1後		1				○	4			7		兼 2
			数理計画法	2前		2		○			1					
			C++プログラミング実験 II	2前		1				○	1			6		兼 4
			アルゴリズムとデータ構造	2前		2		○			1	1				
			確率統計	1後		2		○			2	1		3		
			小計 (9科目)	—	0	16	0	—			10	4	0	7	0	兼 6
		3 群	機械力学 I	2前		2		○			1					
			インダストリアル・エンジニアリング	1後		2		○								兼 1
			CAD/CAM I	1後		2		○				1		1		兼 1
			材料力学 I	2前		2		○			1					
			機械工学実験	2後		2				○	5	3		4		共同
			流体力学 I	2前		2		○			1					
			人間工学	1後		2		○				1		1		
			小計 (7科目)	—	0	14	0	—			5	3	0	4	0	兼 2
		4 群	電気回路 I	1後		2		○			1					
			電気電子工学概論	1後		1		○			6	1				
			電子回路 I	2後		2		○			2					
			プログラミング C I	2前		2		○				1		1		
			制御工学 I	2後		2		○			1			1		兼 1
			電気電子工学実験	2後		2				○	5	1		3		兼 1 共同
			小計 (6科目)	—	0	11	0	—			6	1	0	3	0	兼 2
		5 群	物理化学基礎	1後		2		○			1					
			有機化学基礎	1後		2		○			1					
			無機化学基礎	1前		2		○			1					
			生物化学基礎	2前		2		○			1					
			分析化学基礎	2前		2		○			1					
			応用化学実験 I	1後		2				○	1	1		3		共同
			応用化学演習 I	1後		1			○		2	1		1		
			応用化学実験 II	2前		2				○	2			2		共同
			応用化学実験 III	2後		2				○	2			1		兼 1 共同
			応用化学演習 II	2前		1			○		2			2		
			応用化学演習 III	2後		1			○		2			1		兼 1
			小計 (11科目)	—	0	19	0	—			7	1	0	6	0	兼 1
	専 攻 応 用 科 目	1 群	確率論	2前		2		○			1					
			組合せ論	2後		2		○				1				
			形式言語とオートマトン	3前		2		○			1					
			データ解析法	2後		2		○			1					
			最適化モデリング	2後		2		○								
			アルゴリズムデザイン	2後		2		○				1				
			機械学習	2後		2		○				1				
			熱・統計力学 I	2後		2		○					1			
			最適化理論	3前		2		○				1				

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部理工学科)																
科目 区分			授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	専 攻 応 用 科 目	1 群	メカニズムデザイン	3前		2		○			1					
			多変量データ解析	3前		2		○				1				
			応用機械学習	3前		2		○				1				
			オペレーションズリサーチ	3後		2		○			1					
			計算理論	3後		2		○			1					
			ビッグデータ解析	3後		2		○			1					
			統計モデリング	3後		2		○			1					
			小計 (16科目)	—	0	32	0	—			4	3	1	0	0	兼 0
		2 群	IPネットワーク	3前		2		○			1					
			デジタルシステム	2前		2		○			1					
			ユーザインタフェース	2前		2		○			1					
			メディア技術概論	2前		2		○			1					
			音声処理	2後		2		○			1					
			画像処理	2前		2		○			1					
			コンピュータシステム	2前		2		○			1					
			Web技術	2後		2		○			1					
			オペレーティングシステム	2後		2		○			1					
			CG技術	2後		2		○			1					
			パターン認識	3前		2		○			1					
			情報セキュリティ	3後		2		○			1					
			プログラミング言語	2後		2		○				1				
			情報通信	2前		2		○			1					
			自然言語処理	3後		2		○			1					
			ニューラルネットワーク	3後		2		○			1					
			ソフトウェア設計	3前		2		○			1					
			並列分散処理	3後		2		○			1					
			小計 (18科目)	—	0	36	0	—			8	1	0	0	0	兼 0
		3 群	熱力学Ⅰ	1後		2		○				1				
			ヒューマンファクターズ	2前		2		○				1				
			設計工学	2前		2		○			1					
			応用Pythonプログラミング	2前		2		○			1					兼 1
			シミュレーション基礎	3前		2		○			1					
			ヒューマンインタフェース	2後		2		○			1					
			経済性工学Ⅰ	2後		2		○				1				兼 1
			機械力学Ⅱ	2後		2		○			1					
			機械加工学	2後		2		○								兼 1
			人工知能基礎	3前		2		○			1					
			生産システム工学	3前		2		○								兼 1
			熱力学Ⅱ	2前		2		○				1				
		4 群	CAD/CAMⅡ	2後		2		○						1		兼 1
			材料力学Ⅱ	2後		2		○			1					
			流体力学Ⅱ	2後		2		○			1					
			小計 (15科目)	—	0	30	0	—			5	3	0	1	0	兼 4
			電気数学	2前		2		○			1					
			電気回路Ⅱ	2前		2		○			1					
			電磁気学Ⅰ	2前		2		○			1					
			ロボット工学	2前		2		○			1					
			電子回路Ⅱ	3前		2		○			1					
			電子固体物性	2前		2		○			1					
			半導体基礎	2後		2		○			1					
			プログラミングCⅡ	2後		2		○			2					
			電気電子計測	2後		2		○			1					
			電気回路Ⅲ	2後		2		○								兼 1
			電磁気学Ⅱ	2後		2		○								兼 1
			小計 (11科目)	—	0	22	0	—			5	0	0	0	0	兼 2
		5 群	応用化学特別講義Ⅰ	1前		2		○			8	1			4	
			化学工学基礎	2前		2		○			1					兼 1
			化学熱力学	2前		2		○						1		
			有機反応機構	2前		2		○			1					
			錯体化学	2前		2		○								兼 1

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理工学部理工学科)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	専 攻 応 用 科 目	5 群	応用化学特別講義Ⅱ	2後		2		○			7					兼 8	
			サイエンスプログラミング	2後		2		○			1			2			
			反応速度論	2後		2		○						1			
			有機立体化学	2後		2		○			1						
			固体化学	2後		2		○			1						
			細胞生化学	2後		2		○			1						
			機器分析	2後		2		○						1			
			マテリアルズインフォマティクス	3前		2		○						1			
			バイオインフォマティクス	3後		2		○								兼 1	
			小計（14科目）	—	0	28	0	—			8	1	0	6	0	兼 11	
	専 攻 発 展 科 目		量子情報科学概論	2後		2		○			1						
			熱・統計力学Ⅱ	3後		2		○					1				
			計測工学	3前		2		○			1						
			計算力学	3後		2		○				1					
			信頼性工学	3前		2		○				1					
			認知工学	3前		2		○				1					
			電力システム	3前		2		○			1						
			パワーエレクトロニクス	3前		2		○				1					
			プラズマ理工学	3前		2		○			1						
			半導体工学	3前		2		○			1						
			電気電子材料	3前		2		○			1						
			デジタル信号処理	3前		2		○			1						
			電気制御シミュレーション	3前		2		○				1					
			量子化学	3前		2		○			1						
			有機合成化学	3後		2		○			1						
			材料化学	3前		2		○				1					
			生物有機化学	3前		2		○				1					
			移動速度論	2後		2		○			1						
			金属材料工学	3後		2		○			1						
			音響工学	3後		2		○			1						
			会計情報基礎	3後		2		○								兼 1	
			実験計画法	3前		2		○			1						
			感性工学	3後		2		○				1					
			センサデータ処理	3後		2		○			1						
			電気機器	3後		2		○				1					
			モーションコントロール	3後		2		○			1						
			集積回路	3後		2		○			1						
			電気化学	3前		2		○			1						
			高分子化学	3前		2		○			1						
			触媒化学	3後		2		○			1						
			生物資源工学	3後		2		○			1						
			分離工学	3前		2		○			1						
			界面化学	3後		2		○					1				
			生物医薬工学	3前		2		○			1						
			反応工学	3後		2		○			1						
			食品化学	3後		2		○				1					
			環境工学	3後		2		○								兼 1	
経済性工学Ⅱ	3前		2		○								兼 1				
制御工学Ⅱ	3前		2		○			1									
小計（39科目）	—	0	78	0	—			17	5	1	1	0	兼 3				
専門科目 小計（209科目）				—	18	373	8	—			37	12	2	23	0	兼 71	
自 由 設 計 科 目	Global Studies 科目	International Business	2前		2		○								兼 1		
		Japanese Economy	2後		2		○								兼 1		
		Current Topics in Business and Economics	2前・後		2		○								兼 2		
		International Relations	2前		2		○								兼 1		
		Regional Studies	2前・後		2		○								兼 3		
		Current Topics in Global Issues	2前・後		2		○								兼 3		
		Japanese Contemporary Issues	2前		2		○								兼 1		

教 育 課 程 等 の 概 要																																			
(理工学部理工学科)																																			
科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考																				
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手																					
自由設計 科目	Global Studies 科目	Japanese Traditional Culture	2後		2		○								兼 1	4																			
		Current Topics in World Affairs	2前・後		2		○								兼 4																				
小計 (9科目)			—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼 13																				
自由設計科目 小計 (9科目)				0	18	0				0	0	0	0	0	兼 13																				
に教 関職 連の す教 る科 目	職業指導	理工教材開発法	1後			2	○			1					兼 1																				
		情報と職業	3後			2	○							兼 2																					
		小計 (3科目)	1前			2	○							兼 3																					
		小計 (3科目)			—	0	0	6	—			1	0	0	0		0	兼 3																	
教 職 課 程 に 設 定 す る 科 目	教職特論演習Ⅰ	教職特論演習Ⅱ	3後			2		○								兼 1																			
		学校経営と学校図書館	4前			2		○									兼 1																		
		学校図書館メディアの構成	2前			2	○										兼 1																		
		学習指導と学校図書館	2前			2	○										兼 1																		
		読書と豊かな人間性	2後			2	○										兼 1																		
		情報メディアの活用	2前			2	○										兼 1																		
		小計 (7科目)	2後			2	○										兼 1																		
		小計 (7科目)			—	0	0	14	—								0	0	0	0	0	兼 4													
教科及び 教職に 関する 科目	教職論	教育課程論	1後			2	○			1						兼 1																			
		道徳教育の指導法	2後			2	○										兼 1																		
		総合的な学習の時間の指導法	3前・後			2	○										兼 3																		
		特別活動の指導法	3前・後			2	○										兼 1																		
		教育の方法と技術	3後			2	○										兼 1																		
		ICT活用の理論と方法	2前・後			2	○										兼 3																		
		進路指導論	2前			1	○										1					兼 1													
		生徒指導論	1後			2	○																兼 2												
		教育相談	2前・後			2	○																兼 1												
		教育実習論	1前・後			2	○																兼 2												
		教育実習(中・高)	3後			1	○										1						兼 4												
		教育実習(高)	4通			5			○															兼 4											
		教職実践演習(中・高)	4通			3			○															兼 4											
		小計 (14科目)	4後			2		○																0	1	1	0	0	0	兼 13					
教科及び 教科の 指導法に 関する 科目	数学科教育法Ⅰ	数学科教育法Ⅱ	2後			2	○									兼 1																			
		数学科教育法Ⅲ	3前			2	○										1						兼 1												
		数学科教育法Ⅳ	3後			2	○																	1					兼 1						
		理科教育法Ⅰ	3前			2	○																							1					兼 1
		理科教育法Ⅱ	2後			2	○																												
		理科教育法Ⅲ	3前			2	○										1					兼 1													
		理科教育法Ⅳ	3前			2	○																1					兼 1							
		工業科教育法Ⅰ	3後			2	○																						1					兼 1	
		工業科教育法Ⅱ	2前			2	○																												1
		情報科教育法Ⅰ	2後			2	○										1					兼 1													
		情報科教育法Ⅱ	2前			2	○																1					兼 1							
		小計 (12科目)	2後			2	○																						0	0	1	0	0	0	
教職課程関係科目 小計 (36科目)				0	0	74			1	1	1	0	0	兼 23																					
総合計 (528科目)			—	26	888	82	—			38	12	2	23	0	兼 345																				
学位又は称号		学士 (理工学)		学位又は学科の分野						理学関係、工学関係																									
卒業要件及び履修方法										授業期間等																									
(1) 4年以上在学し、かつ、次のすべての要件を満たした上で、124単位以上を修得すること。 (1) 全学共通科目にあっては、次の要件を満たした上で24単位以上修得すること。 ①「外国語(英語科目、初修外国語科目)」 「技能(日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目)」から12単位以上(このうち英語科目を必修4単位を含め6単位以上。また、「情報基礎」2単位を含む。) ②「教養基礎」「持続社会探究」から8単位以上 (2) 理工学科専門科目にあっては、次の要件を満たした上で90単位以上修得すること。 ①「社会人基礎力科目」「専攻融合科目」「ICT基礎科目」「理工学基礎科目」から20単位以上 ②「専攻コア科目」「専攻応用科目」から40単位以上 また、上記①、②を満たしたうえで、専攻ごとに定められた必修科目と選択必修科目の規定単位を修得すること。 (3) 卒業に必要な単位124単位のうち、(1)(2)から規定単位数を差し引いた残り10単位については、(1)(2)において規定単位数以上を修得した科目の単位を合計する。										1 学年の学期区分		2期																							
										1 学期の授業期間		14週																							
										1 時限の授業時間		100分																							

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	College English (Listening & Speaking) I		この授業科目は、会話相手と円滑なコミュニケーションを取るために、相手の言うことを正確に聞き取って理解する力、そして相手の言うことを踏まえて自分が伝えたいことを伝えられるようになる力（発信する力）を鍛えることを目的とする。まずは、日常会話を正確に聞き取れるようになるために、ボキャブラリー増強を含むリスニングの訓練を集中的に行う。その後、習熟度に応じて、より高度なリスニングのスキルを身につけることを目指す。さらに、徐々に話す練習も取り入れていき、日常会話で用いる言い回しなどを学ぶ。	
				College English (Reading & Writing) I		この授業科目は、英文を読む・書くことの楽しさを感じることができるようになるために、英文読解力を身につけ、自分の意見などを英語で表現できるようになることを目標とする。リーディングでは易しいと感じられるレベルの英文をたくさん読むことに加え、さまざまなトピックに関する英文にもチャレンジすることで、英文を読むことは必ずしも逐語訳をすることではないことを理解し、英文読解力を段階的に伸ばす。さらにインプットした英語を定着させるために、読んだ内容に対する自分の考えや感じたことを英語で書くなど、習熟度に応じてさまざまなライティングのアクティビティを行う。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	College English (Listening & Speaking) II		この授業科目は、College English Listening & Speaking I である程度英語の音に慣れていることを前提に、より高度で、かつ多岐にわたるトピックを扱い、円滑なコミュニケーションが取れるようにリスニング力、およびスピーキング力（発信力）を養うことを目的とする。まずは特定の場面を想定した練習を行うことで、場面に応じた適切なスピーキングスキルを身につける。さらに、習熟度に応じて、様々なシチュエーションに対応し、より自由に話せるような表現力とボキャブラリーの増強を図る。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	College English (Reading & Writing) II		この授業科目は、英文を読む・書くことの楽しさを感じることができるようになるために、College English Reading and Writing I で養ったリーディング力及びライティング力をさらに伸ばすことを目標とする。リーディングでは、より多岐にわたるジャンルやトピックの英文にチャレンジし、目的に応じた読み方を身につけながらボキャブラリーの増強も図る。さらにインプットした英語を自分でも使いこなせるようになるために、テキストの要約などさまざまなテーマ・形式のライティングを通して表現の幅をさらに広げていく。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	English Seminar		この授業科目は、College Englishで身につけた4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を基礎として活用しながら、幅広い教養を身につけることを目指す。社会・文化・歴史・教育・自然科学など多岐にわたるトピックについて英語を使いながら理解を深め、得た知識をもとにしながら英語で議論を行うことを目標とする。また、議論においては意義ある問いを投げかけ、発展的なやり取りを行うことで主体的に学び、多角的な視点を養うことを目指す。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Academic English Communication		この授業科目は、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能統合型授業であり、特にプロダクションスキルであるアカデミックライティングとアカデミックスピーキングを鍛えることを目標とする。1年次の必修科目College EnglishのReading & Writing I, IIおよびListening & Speaking I, IIで身につけた英語力をベースに、様々なトピックについて学び、自分の考えを英語で発表し、作文することで、より洗練されたEnglish for academic purposesの運用能力を身に付けることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	外国語 科目	英語	TOEFL Preparation Introduction		この授業科目は、将来留学を希望する学生や英語力を向上させたい学生のためのTOEFLの入門授業である。原則としてTOEIC400点以上（または英検準2級・3級）程度の英語力がある学生を対象とする。TOEFLのテスト形式を理解し、それに則って、各セクション（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の実践的な指導を行いながら、アカデミックな内容を英語で理解し、発信できる基礎力、それを支える語彙力をつけ、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	外国語 科目	英語	TOEFL Preparation Intermediate		この授業科目は、将来留学を希望する学生や、高度な英語力を身につけたい学生のためのTOEFL受験対策の授業である。原則としてTOEIC470点以上（または英検準2級・2級）程度の英語力がある学生を対象とする。TOEFLのテスト形式に則り、各セクション（リスニング、文法、リーディング）の実践的な指導を行いながら、Introductionより高度でアカデミックな内容を英語で理解できるようにすることを目指して、語彙力強化も行い、総合的な英語力の向上に努める。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	外国語 科目	英語	TOEIC Preparation Introduction		この授業科目は、主にTOEIC400点以上の学生を対象として、英語の基礎力をつけ、TOEICスコアの向上を図る科目である。TOEICのテスト形式に慣れることを第一に、各セクション（リスニングおよびリーディング）の実践的指導を、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した指導を交えて行う。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	外国語 科目	英語	TOEIC Preparation Intermediate		この授業科目は、主にTOEIC470点以上の学生を対象とする。TOEICスコアを向上させより高い英語力を身につけたい学生のために、TOEICのテスト形式を理解していることをふまえて、各セクション（リスニングおよびリーディング）の指導を、Introductionよりも実践的に、コンピュータや情報通信ネットワークを活用した指導を交えて行う。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	外国語 科目	英語	IELTS Preparation Introduction		この授業科目は、英語力を身につけ、将来留学を希望する学生のためのIELTS受験にあたっての入門科目である。原則としてTOEIC400点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされるIELTSスコアを取得するための学習に習熟することを目指し、履修終了後も自学自修ができるスキルを身につけることを目指す。IELTSの問題に合わせて作成された教材を利用する。授業内でリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの活動をバランス良く取り入れながら、IELTSの問題の性質を理解するとともに、履修者同士の会話のセッションなどを通じて実用的な英語運用力の向上（特に、留学時や海外渡航時に役立つ英語力の向上）を目指す。今後の英語学習方法についても指導を行う。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	外国語 科目	英語	IELTS Preparation Intermediate		この授業科目は、留学を希望する学生や、高度な英語力を身につけたい学生のためのIELTS受験準備、および会話力をはじめとする英語力向上のための授業である。原則としてTOEIC470点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされるIELTSスコアを取得し、履修終了後も自学自修ができるスキルを身につけることを目指す。IELTSの問題に合わせて作成された教材を利用する。授業内でリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの活動をバランス良く取り入れながら、Introductionにおいて理解したIELTSの問題の性質をふまえ、より高いスコアが取れるようになることを目指すとともに、履修者同士の会話のセッションなども取り入れて、留学先で役立つ実用的な英語運用力向上を目指す。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	基礎からのコミュニケーション英文法		この授業科目は、自分が伝えたいことを確実に伝えられるようになる為に、英語のルールにかなった表現を効果的に用いる力(ちから)、つまり「文法を使える力」の習得を目的とする。文法書を片手に文法を学ぶのではなく、コミュニケーションの場面で必要となる英語のルールを、実践を通じて学ぶ。これまでに学んだ文法事項の知識を最大限に活用しながらグループワークやペアワークに挑戦し、基礎的な文法の知識を定着させるとともに「聴く・話す・読む・書く」の4技能を伸ばし、自信を持ってコミュニケーションに臨める姿勢を養う。	
				自分でデザインする英語学習		この授業科目は、様々な英語学習方法を実践し、その学習効果を理解しながら自分の学習スタイルに適した学習方法を探求することを目的とする。また、段階的目標（短期・中期・長期）を設定し、実績に応じて計画の見直しや軌道修正を行うことも学ぶ。学生一人ひとりが今までの自分の学習スタイルを見つめ直し、より効果的なスタイルを考え、英語学習を継続するコツを見つける。授業外でも楽しみながら英語に触れる時間をできるだけ多く持たせ、自主的な取り組みを促す。	
				英語発音トレーニング		この授業科目は、英語の発音をより良くしたい、留学前に発音を良くしておきたい、あるいは英語を使った仕事に就きたいのでよりよい発音を身につけたい、というような学生の要望に対応する授業である。単純な反復練習のみを繰り返す行う訓練をするだけでなく、日本語と比較しながら英語の発音について体系的に学び、「なぜ難しいのか」「何をどうすれば発音がより良くなるのか」について考えながら、英語発音の習得と上達を目指す。	
				英語読解トレーニング		この授業科目は、アカデミックな英文の精読演習(Intensive Reading)を通じて、高度な英文読解力を養うことを目的とし、特に大学生が自らの知的関心の対象についてより深く学ぶために必要となる学術性や専門性の高い英文を読む力を伸ばしていく。英語圏の高校生・大学1,2年生が使用する教科書や、知的関心の高い一般読者向けの読み物などから、大学生の好奇心を刺激する様々なトピックを選び、文構造やテキスト構成の解析を通して、英語による高度な議論の内容を正解に把握する力を養う。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Presentation Skills Basic		この授業科目は、学生のプレゼンテーションスキルを伸ばし、効果的にコミュニケーションを取れる（特に英語による）ようになることを目指す。プレゼンテーションに便利な語彙や言い回しを学び、流暢に使えるようにすると共に、グループでプレゼンテーションの練習をして自信をつけていく。また、グループメンバーのサポートを得てクラスの前で発表する機会も多く設ける。扱うトピックはインフォーマルなものを主とし、学生自身が各自の興味に沿って選ぶものとする。	
				Discussion Skills Basic		この授業科目は、ディスカッションスキルを学ぶことで、より効果的な（特に英語による）コミュニケーション力を養うことを目的とする。具体的には、ディスカッションに必要な語彙や句を学習し、自分のものとして使えるように練習を行う。学生は、自信を持って話せるトピックを自ら選び、堅苦しくない雰囲気の中でディスカッションを行う。本科目の履修を通して、学生は自分の意見を自信を持って主張し、議論に参加することを目標とする。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Writing Skills (Paragraph)		この授業科目は、与えられたテーマについてまとまりのあるわかりやすいパラグラフ（段落）が書けるようになることが目標である。論理的なパラグラフを書くためには、モデルとなるパラグラフを読むことでパラグラフの構成を理解し、ライティングのルールや効果的な表現方法を学ぶことも大切である。書く前のアウトライン、原稿の作成に加え、教員からのフィードバックとピアレビューを繰り返し、それを基に推敲を重ねることでより良いパラグラフの書き方のプロセスも習得する。	
				Presentation Skills Intermediate		この授業科目は、学生のプレゼンテーションスキルを伸ばし、効果的にコミュニケーションを取れる（特に英語による）ようになることを目指す。学生はより高度なプレゼンのストラテジー（例：視覚資料を効果的に使用する、計画通りに時間を守る、内容を聴衆に合わせる）を学ぶ。プレゼンテーションは個人で行うが、クラスメイトからのサポートやフィードバックも受ける。また、プレゼンのトピックはビジネス、アカデミック、ニュースのような時事的なものまで幅広く扱う。	
全学 共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Discussion Skills Intermediate		この授業科目は、ディスカッションスキルを学ぶことで、より効果的な（特に英語による）コミュニケーション力を養うことを目的とする。具体的には、ディスカッションに必要なテクニックやストラテジーを学習し、中断、反論、小グループのディスカッションのリードの仕方などを適切に行う方法を学ぶ。トピックは、ビジネス会議、アカデミックセミナー、政治討議など様々なコンテキストを含むものから選ぶ。本科目の履修を通して、学生は様々なコンテキストやトピックにおけるディスカッションに参加し、リードできるようになることを目標とする。	
全学 共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Writing Skills (Essay)		この授業科目は、Writing Skills (Paragraph)で学んだパラグラフライティングの基礎を基に、論理的なエッセイが書けるようになることが目標である。論理的なエッセイを書くためには、モデルとなるエッセイを読むことで効果的な文章構成を学び、引用の仕方や自分の意見を明確に且つ説得力を持たせるための手法など、より高度なライティングスキルを身につけることが大切である。Writing Skills (Paragraph)同様、書く前のアウトライン、原稿の作成に加え、教員からのフィードバックとクラスメイトとのピアレビューを繰り返し、それを基に推敲を重ねることでより良いエッセイの書き方のプロセスも習得する。	
全学 共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	短期海外英語研修		この授業科目は、本学が指定する海外の教育機関が提供する英語プログラムの参加者を対象に、事前学習、現地研修、事後学習を通じ、英語によるコミュニケーション能力の向上をはかることを主たる目的とする。 まず学内での事前学習では、海外研修に参加するにあたっての必要な準備や危機に対する心構え、安全対策、異文化理解の基礎的な概念などの準備学習を行う。 続く現地研修では、異なる言語、文化背景、価値観等を持つ人々に対して、自分の意見や考えを的確に発信できる言語運用能力、実践的なコミュニケーション能力を身につける。 そして、留学による学習効果を最大限に高めるために、帰国後の事後学習で、現地研修で得た学びを振り返る作業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容
全学共通科目	外国語科目	英語	英語	多読で学ぶ英語と文化 I		この科目は、今よりも英語力を大きく伸ばすことを強く願 い、それにじっくり時間をかけて取り組む意欲のある人のた めのものである。英語を、日本語を介することなく自然に英 語のまま理解できるようになることを目指す。最初はスラス ラと読める易しい絵本から始め、そのスピードを保ったまま 徐々にレベルの高い本を読んでいくことで、その目標を楽しく 無理なく達成できる学習法が多読である。さらに、さまざま なジャンルの本を読むことによって、例えばその本が書かれ た時代の背景や社会構造といった英語圏の文化や社会に関 する知識も増え、英語だけではなく文化に対する理解も深ま ることになる。もはや英語を学習しているという意識もなく なり、英語に慣れ親しんで日常的に英語に触れることが習慣 となるのが最終目標である。
				多読で学ぶ英語と文化 II		この科目は、既に多読をある程度実践してきた人のための ものである。この授業では自分が本当に面白いと思い、夢中 になって、あるいはワクワクしながら読める本を見つけて、授 業中はもちろん授業外でも継続して読み続ける習慣を身に つけることを目指す。このように自ら求めて楽しみのために 読むようになれば、英語力も自ずと磨かれていく。また、さ まざまなジャンルの本を読むことにより、ストーリーを介し て歴史や社会構造といった文化的な側面も同時に学ぶことが でき、異文化に対する理解が深まることも期待できる。授業 中には、面白かった本の情報を他の人と共有して、さらに読 む楽しみを増やしていただいたい。
				映画で学ぶ英語と文化		この授業科目は、映画を通じて英語とともに映画の中で体験 できる英語圏の文化やものの考え方、ならびに文化としての 様々なジャンルの映画自体について学ぶことを目標とする。 映画を原語で学ぶことは、学生にとっては未体験の部分が 大きい、俗語から専門語まで様々な世代や立場の人が様々 なシチュエーションで話すよりリアルな英語を学ぶためにも、 映画は大変良い教材である。映画を素材に英語を学ぶこと で、リスニング力・語彙力が鍛えられるだけでなく、授業内 で様々な話題を取り上げてのプレゼンテーションやディスカ ッションを展開することで、映画作品に反映された文化的・ 歴史的・社会的な問題を学ぶ機会とする。
				ドラマで学ぶ英語と文 化		この授業科目は、テレビドラマを通じて英語とともにドラマ の中で体験できる英語圏の文化やものの考え方、ならびに 文化としての様々なジャンルのドラマ自体について学ぶこと を目標とする。ドラマを原語で学ぶことは、学生にとっては 未体験の部分が大きい、俗語から専門語まで様々な世代や 立場の人が様々なシチュエーションで話すよりリアルな英 語を学ぶためにも、ドラマは大変良い教材である。テレビ ドラマを素材に英語を学ぶことで、リスニング力・語彙力 が鍛えられるだけでなく、授業内で様々な話題を取り上げ てのプレゼンテーションやディスカッションを展開するこ とで、ドラマ作品に反映された文化的・歴史的・社会的な 問題を学ぶ機会とする。
全学共通科目	外国語科目	英語	英語	歌で学ぶ英語と文化		この授業科目は、英語の歌を通して英語とともに歌詞やそ のメッセージに映し出された英語圏の文化や思想、ならび に文化としての様々なジャンルの洋楽について学ぶことを 目標とする。洋楽と称される広いジャンルを含む英語の歌 は、英語の音やリズム、英語の語彙や英語圏の人々のもの の考え方など、英語圏の言語や文化に関しての優れた教 材である。さまざまなジャンルの英語の歌を取り上げ、実 際に歌詞を聞き取りながらその意味や背景を考え、歌詞 に出てくる英語の表現の意味やニュアンスに対する理解 を深めるとともに、英語のリズムや音声に対する理解も 深める。また、授業内で様々な話題を取り上げての プレゼンテーションやディスカッションを展開することで、 歌にこめられた文化的・歴史的・社会的な問題を学ぶ 機会とする。

授 業 科 目 の 概 要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	メディアで学ぶ英語と文化		この授業科目は、国内外の様々な英語メディアで発信される、幅広い種類のメッセージを扱うことで、英語とともに英語圏の文化的・社会的側面について学ぶことを目標とする。メディアが多様化する現在、英語での情報収集や英語で表現されたメッセージを読み解く力はますます重要となっている。新聞、テレビといった従来のメディアのみならず、インターネット上のニュース、さらにはSNSのような媒体で発信される情報を読み解く力を育成し、教科書には出てこない、今の時代を映し出す旬の話題やそれを表現する言い回しなどを学ぶ。また、そうした情報を通じて、国際関係（世界各国のつながりやかけひき）、および日本の政治・経済の仕組みや問題点などを理解し、さらにインターネットを含むメディアにあふれる情報の中から正しい情報を選別する力を養い、将来も役立つメディアリテラシーを高める機会ともする。	
			英語	キャリアのための英語と文化		この授業科目は、社会人として必要とされる英語のスキルを幅広く扱うものである。職場ではどのような英語のスキルが必要か、想像することが難しい学生たちに対し、英文メールの書き方、英文履歴書の書き方、英語でのビジネスプレゼンテーションやディスカッション、図表の書き方／説明の仕方、関心のある業種・企業の事業内容の英語での説明など、多岐にわたるビジネス関連の英語の具体的な例と文化的背景を学ぶ機会を提供することで、学生への就職への意欲と成功にもつなげることを目指す。	
			英語	TOEFL Preparation Advanced I		この授業科目は、TOEFL Preparation Introduction, Intermediateのレベルより高いスコアの取得、高度な英語力を身につけたい学生のためのTOEFL受験準備のための授業である。原則としてTOEIC550点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされるTOEFLスコアを取得することを目指す。TOEFLのテスト形式に則って、各セクション（リスニング、文法、リーディング）の実践的な指導を行い、スキル向上を図る。また、ハイレベルな文献等を理解できるようにすることを目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
			英語	TOEFL Preparation Advanced II		この授業科目は、TOEFL Preparation Advanced Iに引き続き、さらに高度な英語力を身につけたい学生のためのTOEFL受験準備のための授業である。原則としてTOEIC550点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学に十分なTOEFLスコアを取得することを目指す。TOEFLのテスト形式に則って、各セクション（リスニング、文法、リーディング）の実践的な指導を行い、スキル向上に努める。また、高度でアカデミックな内容を英語で正しく理解できるようにすることを目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、4技能の総合的な英語力の向上に努める。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	IELTS Preparation Advanced I		この授業科目は、IELTS Preparation Introduction, Intermediateのレベルより高いスコアの取得、高度な英語力を身につけたい学生のためのIELTS受験準備と英語力向上のための授業である。原則としてTOEIC550点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学で必要とされるIELTSスコアを取得することを目指す。IELTSのテスト形式に則って、各セクション（リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング）の実践的な指導を行い、各スキルの向上を図る。特に、留学先での日常生活・学生生活・授業参加に必要なコミュニケーション能力の向上を目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、実用的な英語運用力の向上に努める。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	IELTS Preparation Advanced II		この授業科目は、IELTS Preparation Advanced Iに引き続き、さらに高度な英語力を身につけたい学生のためのIELTS受験準備と英語力向上のための授業である。原則としてTOEIC550点以上相当の英語力がある学生を対象とし、学部留学に十分なIELTSスコアを取得することを目指す。IELTSのテスト形式に則って、各セクションの実践的な指導を行い、各スキルのさらなる向上を図る。特に、留学先での日常生活・学生生活・授業参加に必要な(理解力も含めた)コミュニケーション能力の向上を目指して、さらなる語彙力強化も行いながら、実用的な英語運用力の向上に努める。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	TOEIC Preparation Advanced		この授業科目は、主にTOEIC550点以上の学生を対象とする。更に高度な英語力を身につけたい学生のために、TOEICのテスト形式を理解していることを前提に、正確な英語の理解に重点をおきながら、各セクション（リスニングおよびリーディング）の指導を実践的に行う。コンピュータや情報通信ネットワークの活用を交えながら指導する。ただし、スコアアップのみならず、受講者それぞれが自律した英語学習法を確立し、受講後も英語力を伸ばせるよう指導する	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Media English		この授業科目では、時事問題ニュースを主な題材として、国内外の現況や社会的テーマについて英語で理解し、発信できる能力を養う。米国ABC World News, TIME, Newsweekなど海外の主要なメディアが発信するニュースを聞き、または読み、メディアで使用される特徴的な英語に慣れる訓練を行う。またこのような情報源から得られた内容について客観的な批評ができるようにメディアリテラシーを身につけ、批判的能力を養う。そして、自らも口頭または文章で時事問題に関する意見が述べられるようになることを目指す。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Academic Listening		この授業科目は、英語4技能のうち、リスニング力を鍛える授業である。リスニングのコツを学び、様々な英語を聞いてその要旨や必要な情報を聴き取るスキルを身につける。特に留学先で講義を受けることを見据え、アカデミックな講義内容を聴き取るためのストラテジーや効果的なノートの取り方などについて実践的に学んでいく。さらには、TEDなどを適宜活用して、世界トップレベルの優れた講義に実際に触れることで、教養知識を深めることがねらいである。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Cross Cultural Communication Skills		この授業科目では、異なる文化を有する人々とのコミュニケーションを円滑に行うスキルを学ぶ。ステレオタイプ、アイデンティティ・価値観の相違、言語・非言語コミュニケーション、カルチャーショックといった異文化交流の主要なテーマや問題点を学び、自文化と他文化を客観的に見つめる術を身につける。さらにはロールプレイなど実践的なアクティビティを通して異文化適応能力を高める。また、世界における多様な文化に関する知識を深めることもこの科目のねらいである。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	Discussion & Presentation		この授業科目は、英語4技能のうち、スピーキング力を鍛える授業である。とりわけ英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力を伸ばすことを目的とする。ディスカッションでは、アカデミックな議論において頻繁に使われる定型表現などを学び、実際にディスカッションをこなして実践力をつけていく。プレゼンテーションについては、基本構造、頻出表現、効果的なプレゼンテーションの仕方を学びつつ、自らもプレゼンテーションを行うことで発表力を養っていく。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	英語	English for the Workplace		この授業科目は、グローバル化が進む世界の中で将来のキャリアにおいても役に立つ実践的なスキルを取得することを目的とする。メールを書く、アポをとる、履歴書やカバーレターを書く、面接を受ける、などといったフォーマルな場面やビジネスの場で必要とされる英語を学びながら、受講者が各自の強みや弱点について振り返り、今後のキャリアについて考える契機とする。その際、特に国際的なキャリアにはどのようなものがあるかについても考えていく。	
				Essay Writing		この授業科目は、英語4技能のうち、ライティング力を鍛える授業である。英語のエッセイ（小論文）の書き方を学び、自分の考えを英語で論理的に提示できるようにすることを目的とする。パラグラフの基本構造や書き方を復習しつつ、より長い小論文に取り組み、適切なトピックの選び方、アウトラインの作成、目的に合ったパラグラフの構成（比較、例示、説得、原因と結果など）や内容に合う文体（スタイル）、校正の仕方などを学ぶ。	
				Intensive Reading		この授業科目は、英語4技能のうち、リーディング力を鍛える授業である。様々なリーディングのストラテジーなどを学び、アカデミックな内容の英文を読み込む力を身につける。論文や専門書など、実際に高度な内容の英文に取り組むと同時に、様々なジャンルの特徴をつかんだり、大量のリーディング課題を読みこなすコツを学ぶ。自分の専門分野の文献を実際に読んで、専門分野の語彙表現を身につけるだけでなく、英語で専門知識を増やしていくことも、この科目のねらいである。	
				World Englishes		この授業科目は、グローバル社会における英語の多様性を理解し、アメリカ英語またはイギリス英語のみを基準とするのではなく、世界で使われている様々な英語に適応できる力を身につけることを目的とする。具体的には、イギリス、アメリカに加えアジア、ヨーロッパの国々をいくつか取り上げ、各英語方言の特徴について文献や映像音声資料などから学ぶと同時に、各国の言語事情や社会文化的背景についても理解を深めていく。さらには他国の事情を学ぶことで日本における英語学習についても理解を深める。なお、実践的に英語の多様性に親しむため、可能な範囲でゲストスピーカーを迎え、生の交流を体験する。	
				Study Abroad Preparation		この授業科目は、短期留学に参加する学生向けの準備講座であると同時に、大学生として国内外で必要となる基礎的な学習スキルを身につける役割を持つ。講義を受ける際の注意点、ディスカッションに参加する意義など海外の大学で大学生に求められる基本的な心構えについても学んでいく。さらに留学先の文化（歴史・社会事情、習慣など）から、教育制度、安全管理や生活上注意すべき点まで、現地の事情についての知識を身につけることで、外国での生活、学習に対する不安を払拭するとともに、留学による学習効果を最大限にすることを旨とする。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	ドイツ語基礎A I		この授業科目は、初学者を対象に、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）のさまざまな文化や多様な価値観に触れるために、初級ドイツ文法の基礎知識（話す・聞く・読む・書く）の習得および基本的な運用能力の養成を目的とする。このドイツ語基礎AIの授業では、主に文法の基礎的な内容に関する知識の修得し、発音やアクセントのルール、格変化、動詞の人称変化などを中心にドイツ語に特有の文法的特徴を押さえ、文の構造を理解できるようになることを目指す。また、ドイツ語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「ドイツ語基礎BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「ドイツ語基礎AII」に向けて発音や語形変化に慣れ親しむ。	
				ドイツ語基礎B I		この授業科目は、ドイツ語での会話・筆記・読解練習に重点を置き、「ドイツ語基礎AI」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、様々な日常生活のテーマを中心に、平易なドイツ語を聞く、読む、書く、話す練習を行い、基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。口頭練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。それに平行して一つのヨーロッパの異文化を知り、新しい世界や考え方に出会い、その面白さ楽しさを味わいながら手紙やメール等の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
				フランス語基礎A I		この授業科目は、初学者を対象に、主にフランス語の文法の修得を通してフランス語圏の基本文化や価値観に触れること目的とする。日本語と異なる発音に留意しながら、ほぼ厳格に定められた発音の規則にまず慣れることから始めて、日常生活でも頻度の高い基本的な文法に関する知識の修得を目指しながら、フランス語圏の対人関係における基本的な約束事や独自の生活習慣に触れるための、基礎的な語彙を身に付けて表現力を養う。同時に履修する「フランス語基礎BI」でのより実践的な場面を想定した表現練習に対応できるように文法構造の正確な理解に基づく言語運用能力を高めるとともに、次学期に履修する「フランス語基礎AII」での学習に備えて、言語の文法的な特徴を理解する。	
				フランス語基礎B I		この授業科目は、日常生活でよく使用されるフランス語の表現を修得するための科目である。主に口頭による練習や、場面を設定しての役割に基づいて対話力を深めることを目指す。基本的な表現を学ぼううえでも、「フランス語基礎AI」で学習した基本的な文法事項の習熟とそれを具体的に運用する力を伸ばすことを目指す。コミュニケーション能力の修得には、その文化の特殊性や日常生活での具体的な対人関係を考慮することが重要であり、それぞれの言語表現の文化的・社会的な背景についての知識も必要となる。そのうえで話す・聞く・書く・読むの四技能を相乗的に伸ばすことを目指す。日常的によく目にするような簡単な文章の読解や、利用頻度の高い単語や表現を使った会話練習を実際におこなうことで、対話能力を高めていく。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語基礎A I		この授業科目は、初学者を対象に、スペイン語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音やアクセントの仕組み、文字と発音の関係、名詞等の性数変化や直説法現在形の活用を中心にスペイン語に特有の文法的特徴を押さえ、文の構造を理解できるようになることを目指す。また、スペイン語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「スペイン語基礎BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「スペイン語基礎AII」に向けて発音や語形変化に慣れ親しむ。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語基礎B I		この授業科目は、スペイン語での会話・筆記・読解練習に重点を置き、「スペイン語基礎AI」で学習した基本的な文法事項(名詞等の性数変化、現在形の活用)の習熟と定着化を図るとともに、あいさつや自己紹介を始めとした基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。口頭練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。手紙やメール等の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
				中国語基礎A I		この授業科目は、初学者を対象に、中国語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。中国語の発音の仕組み、ピンインと四声、簡体字、基本語順などを押さえ、声調感覚の養成と文の構造を理解できるようになることを目指す。また、中国語圏の文化や生活習慣に触れながら基礎的な語彙や表現を身に付ける。並行して履修する「中国語基礎BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、次学期に履修する「中国語基礎AII」に向けて発音の基礎を徹底的に身に付けていく。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	中国語基礎B I		この授業科目は、中国語での会話練習に重点を置き、「中国語基礎AI」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とする。大量な発音練習を通してより自然な発音を身に付け、日常生活の様々な場面で必要な表現や、言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。基本文型に沿った短文の作成や、ペアやグループでの会話を実際におこなうことで、実践的な力を高めていく。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	韓国語基礎A I		この授業科目は、初学者を対象にする。韓国語の文字と発音の仕組み、基本的な文法と文章の仕組みを学習することを目標とする。「韓国語基礎BI」と並行して行う授業で、「韓国語基礎BI」での実践練習に対応できる言語運用能力を養う。また、韓国語への理解を深めるために日本語と韓国語を比較するとともに、韓国語圏の文化・歴史・社会などの知識にも触れる。次学期に履修する「韓国語基礎AII」での学習に備えて、韓国語の基礎的な特徴を概観的に理解する。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	韓国語基礎B I		この授業科目は、韓国語の基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基礎的な韓国語の語学力の養成することを目標とする。「韓国語基礎AI」で学習した基本的な文法事項と語彙を用いて練習する。具体的には、簡単な文章読解や作文、学習した単語を使った会話を練習することで、コミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学びながら話す・聞く・書く・読むという四技能をバランスよく伸ばすことを目指し、韓国語への理解を深めていく。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	ドイツ語基礎A II		この授業科目は、「ドイツ語基礎AI」に引き続き、動詞の直説法過去、完了形、受動態、接続法を中心にドイツ語の基礎的語学力の養成を目的とする。「ドイツ語基礎AI」で学んだ発音の仕組み、格変化、動詞の人称変化等を復習しながら、未習の文法事項や日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「ドイツ語基礎BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通してドイツ語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	

授 業 科 目 の 概 要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	ドイツ語基礎BⅡ		この授業科目は、「ドイツ語基礎BI」に引き続き、ドイツ語の基本文法をベースに会話・筆記・読解練習をおこなうことで、ドイツ語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「ドイツ語基礎AII」で学習した動詞を中心とする基本的な文法事項の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材やインターネットのニュースなどの時事的な情報等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	
				フランス語基礎AⅡ		この授業科目は、「フランス語基礎AI」に引き続き、文法の観点からみたフランス語の基礎的語学力の養成を目的とする。「フランス語基礎AI」で学んだ発音の規則や、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「フランス語基礎BII」でのコミュニケーション能力の実践的な活用に対応できるように、正確な文法の理解をさらに深めていくとともに、フランス語圏の文化や社会に対する理解を、他の文化との比較対象なども交えながら深めていき、より高度な語学力を修得するための基本的なステップとしての重要な科目と位置付けられる。	
全学 共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	フランス語基礎BⅡ		この授業科目は、「フランス語基礎BI」に引き続き、日常生活での表現能力や対話能力を高めるためにフランス語の口頭練習を中心としながら基本的なフランス語の表現を修得することを目指す。「フランス語基礎AII」で学習した基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力に加えて、自己の意見表明や、他者の表現に対する様々なリアクションの取り方なども含めて、対人関係を豊かにするための会話能力を育成する。コミュニケーションに欠かせない文化的、社会的な背景についても学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能を相互に高めていくことを目指す。日常生活での会話の基礎をなす主要メディアの文章表現などにもある程度親しみながら、より知的な文章の読解能力も習得しつつ、豊富な会話練習を通して言語と文化に慣れ親しみ、次のステップの学習につなげる。	
全学 共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語基礎AⅡ		この授業科目は、「スペイン語基礎AI」に引き続き、動詞の直説法現在形を中心にスペイン語の基礎的語学力の養成を目的とする。「スペイン語基礎AI」で学んだ発音の仕組み、名詞等の性数変化、ser / estar動詞の用法、規則活用等を復習しながら、未習の文法事項、特に不規則活用の動詞やgustar型動詞、再帰動詞、日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「スペイン語基礎BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通してスペイン語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。	
全学 共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語基礎BⅡ		この授業科目は、「スペイン語基礎BI」に引き続き、スペイン語の基本文法をベースに会話・筆記・読解練習をおこなうことで、スペイン語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「スペイン語基礎AII」で学習した動詞の現在形および様々な応用表現（gustar型動詞、再帰動詞等）を中心とする基本的な文法事項の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚資料の活用を通して言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目
				講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	中国語基礎AⅡ	この授業科目は、「中国語基礎AI」に引き続き、声調感覚の養成と基本文型の習得を目的とする。「中国語基礎AI」で学んだピンインと声調、動詞述語文、形容詞述語文、助動詞「想」、数詞、助数詞等を復習しながら、未習の文法事項、「有」／「在」、完了と変化の「了」、前置詞等日常生活に必要な基本的語彙および表現を修得することを目指す。並行して履修する「中国語基礎BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養うとともに、学習を通して中国語圏の文化や社会に対する関心を深め、次の段階の学習につなげる。
				中国語基礎BⅡ	この授業科目は、「中国語基礎BI」に引き続き、中国語の基本文法をベースに会話練習をおこなうことで、中国語の自然な表現を身に付けることを目的とする。「中国語基礎AII」で学習した基本文型の習熟を図るとともに、日常生活に必要な語彙・表現を用いてコミュニケーション能力に磨きをかける。視聴覚教材等を通じて言語の背景的な知識も学びながら、話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばすことを目指す。ペアやグループでの練習を通して言語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。
				韓国語基礎AⅡ	この授業科目は、「韓国語基礎AI」に引き続き、韓国語の文法と文章の仕組み、より自然な韓国語の表現を学習することを目標とする。並行して履修する「韓国語基礎BII」での実践練習に対応できる言語運用能力を養う。具体的には、韓国語の語尾変化と不規則変化を作文と会話の練習を通じて定着させる。より自然な表現を身につけるために、視聴覚教材を用いて韓国語圏の文化や社会に対する理解を深める。次の段階として用意されている演習科目での継続学習につなげる。
				韓国語基礎BⅡ	この授業科目は、「韓国語基礎BI」に引き続き、「韓国語基礎AII」で学習した文法事項と語彙を用いてより自然な表現を身につけることを目標とする。基本的な文法事項の習熟と定着化を図るとともに、基本的なコミュニケーション能力を養成する。具体的には、韓国で使われている表現を中心に学習するとともに、視聴覚教材を用いて表現の差異を学び、韓国語への理解も深めていく。ある程度まとまった文章読解や作文、会話練習を通して韓国語に慣れ親しみ、次の段階の学習につなげる。
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	ドイツ語演習コミュニケーション基礎Ⅰ	この授業科目は、ドイツ語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。格変化や人称変化の活用練習を中心に、ヨーロッパ共通言語参照枠のA1～A2レベルの名詞、形容詞等の基本語彙を用いて様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。家庭、交友、学校、余暇、旅行等、場面ごとに必要な表現を実際に使えるようにペアやグループで練習をおこない、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	ドイツ語演習コミュニケーション基礎Ⅱ	この授業科目は、「ドイツ語演習コミュニケーション基礎Ⅰ」の継続科目として、ドイツ語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、格変化や人称変化の活用練習を中心に、様々な場面を想定してペアやグループで練習をおこなう。正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、ドイツ語圏の文化に触れるとともに、少しずつ自然なドイツ語のスピードにも慣れる機会とする。

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	ドイツ語演習コミュニケーション		この授業科目は、「ドイツ語演習コミュニケーション基礎II」の継続科目として、ドイツ語のヨーロッパ共通言語参照枠のA2～B1レベルの会話能力の養成を目指す。学習する文法の範囲としては、直説法過去、完了形、受動態、接続法までとし、日常生活に必要な表現力や語彙力を修得する。また発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。さらに、インターネットや視聴覚教材の視聴を通して、政治・経済に関するテーマや文化に関するテーマ、あるいはドイツの地域的な違いなどにも関心を向ける。	
				ドイツ語演習言語と文化		この授業科目は、初修外国語コア科目の「ドイツ語基礎AI」「ドイツ語基礎AII」「ドイツ語基礎BI」「ドイツ語基礎BII」での学習をもとに、ドイツ語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。現在形を中心とした基礎文法を復習しながら、未習の文法事項（特に直説法の過去時制、複合時制等）を体系的に学ぶ。ドイツ語圏を扱ったコラムや、手紙、日記等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通してドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
				ドイツ語演習検定対策		この授業科目は、ドイツ語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。ドイツ語技能検定およびGoethe zertifikatを範囲とするが、特にドイツ語技能検定4級、Goethe zertifikat A1程度のレベルの復習から始め、各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
				ドイツ語演習プレゼンテーション		この授業科目は、初級～中級ドイツ語の運用能力をもとに、プレゼンテーションができるようになることを目指す。長期留学等での異文化交流も視野に入れ、日本の文化や社会について正確な表現で紹介する能力および、ドイツ語圏の文化や社会について客観的に分析し、発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	フランス語演習コミュニケーション基礎Ⅰ		この授業科目は、フランス語の初学者を対象に、ごく入門程度の会話能力の養成を目指す。初歩の日常会話でよく使われる基本的な表現に重点をおき、実際に使えるようにペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜視聴覚教材の活用を通して理解を深める。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	フランス語演習コミュニケーション基礎Ⅱ		この授業科目は、「フランス語演習コミュニケーション基礎Ⅰ」の継続科目として、フランス語の初級程度の会話能力の養成を目指す。旅行等で使える基本的な表現に重点をおき、基礎会話を復習しつつペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜視聴覚教材の活用を通して理解を深める。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	フランス語演習コミュニケーション		この授業科目は、「フランス語演習コミュニケーション基礎II」の継続科目として、フランス語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。ペアやグループで練習しながら、日常生活で不自由しない程度の表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回し、特定の場面における定型の会話表現の運用を身に付ける。同時に、フランス語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、適宜視聴覚教材の活用を通して理解を深める。	
				フランス語演習言語と文化		この授業科目は、初修外国語コア科目の「フランス語基礎AI」「フランス語基礎AII」「フランス語基礎BI」「フランス語基礎BII」での学習を受け、フランス語の初級～中級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。簡単な文章の読み書きやディスカッションを通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚教材の活用を通してフランス語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	フランス語演習検定対策		この授業科目は、フランス語のこれまでの学習を踏まえて、初級～中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	フランス語演習プレゼンテーション		この授業科目は、これまでに身に付けたフランス語の運用能力（学習歴2年以上）をもとに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、それを正確に表現する能力とともに発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語演習コミュニケーション基礎Ⅰ		この授業科目は、スペイン語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。動詞ser / estar、規則活用の直説法現在形を中心に、名詞、形容詞等の基本語彙を用いて様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。家庭、交友、学校、余暇、旅行等、場面ごとに必要な表現を実際に使えるようにペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、視聴覚資料の活用を通してスペイン語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語演習コミュニケーション基礎Ⅱ		この授業科目は、「スペイン語演習コミュニケーション基礎Ⅰ」の継続科目として、スペイン語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、直説法現在形の練習を中心に基本語彙を身に付けながら、様々な場面を想定してペアやグループで練習をおこなう。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようになる。視聴覚資料の活用を通してスペイン語圏の文化に触れるとともに、少しずつ自然なスペイン語のスピードにも慣れる機会とする。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語演習コミュニケーション		この授業科目は、「スペイン語演習コミュニケーション基礎II」の継続科目として、スペイン語の初級～中上級レベルの会話能力の養成を目指す。未習文法もカバーしつつ、ペアやグループで会話練習しながら日常生活で不自由しない程度の表現力や語彙力を修得する。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。また、視聴覚資料の活用を通してスペイン語圏の文化およびスペイン語の地理的バリエーション（特に語彙や発音の違い）にも関心を向ける。	
				スペイン語演習言語と文化		この授業科目は、初修外国語コア科目の「スペイン語基礎AI」「スペイン語基礎AII」「スペイン語基礎BI」「スペイン語基礎BII」での学習をもとに、スペイン語の初級～中上級レベルの文法の修得および総合的な運用力の向上を目標とする。基礎文法を復習しながら、未習の文法事項を体系的に学ぶ。ある程度まとまった文章の読み書きや発表・討論等を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙を身に付ける。同時に、講読や視聴覚資料の活用を通してスペイン語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な分析を加えることも目指す。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語演習検定対策		この授業科目は、スペイン語のこれまでの学習を踏まえて、初級～中上級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。そのために前提となる文法を復習しながら、過去に出題された問題等を解いて出題傾向に慣れていく。長文読解、聞き取り、面接等に対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	スペイン語演習プレゼンテーション		この授業科目は、これまでのスペイン語学習（学習歴2～3年）を総合的に活用し、プレゼンテーションができるようになることを目指す。留学等での異文化交流も視野に入れ、日本の文化や社会について正確な表現で紹介する能力および、スペイン語圏の文化や社会について客観的に分析し、発展的・生産的に対話する能力を養成する。そのために前提となる文法を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、討論等の技術も身に付ける。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	中国語演習コミュニケーション基礎Ⅰ		この授業科目は、中国語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。ピンイン、声調、基本語順を中心に、基本文型を用いたパターン練習を重ねることにより、様々な日常会話に対応できる力を身に付ける。挨拶、自己紹介ができることを目標とする。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を身に付ける。同時に、適宜ビデオやCD等の視聴を通して、中国語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	中国語演習コミュニケーション基礎Ⅱ		この授業科目は、「中国語演習コミュニケーション基礎Ⅰ」の継続科目として、中国語の入門レベルの会話能力の養成を目指す。引き続き、声調感覚の養成を中心に、基本文型を身に付けながら、買い物など旅行の際に必要な表現を話せるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音およびリスニングの力を伸ばしつつ、ある程度まとまった内容の会話ができるようにする。CDやビデオ等の視聴を通じて中国語圏の多様な文化や生活習慣にも慣れ親しむ。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	中国語演習コミュニケーション		この授業科目は、「中国語演習コミュニケーション基礎II」の継続科目として、中国語の初級～中級程度の会話能力の養成を目指す。中華料理店で注文、会計、中国人店員に声掛けができるようペアやグループで練習を重ねる。原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、発音やリスニング、自然な言い回しにも重点を置く。また、中国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会とするため、ビデオやCD等の視聴を通して中国の伝統文化やポップカルチャーにも関心を向ける。	
				中国語演習言語と文化		この授業科目は、「中国語基礎AI」「中国語基礎AII」「中国語基礎BI」「中国語基礎BII」での学習をもとに、中国語の初級～中級レベルの文法の復習および総合的な運用力の向上を主要な目標とする。これまでに学習した基礎的な文法事項を復習しながら、未習の文法事項、特に方向補語、様態補語、結果補語等を学ぶ。さらに言語以外の内容、たとえば中国語圏の文化を扱ったコラムや、手紙等の読み書き、またその発表を通じて、「話す・聞く・書く・読む」能力をさらに高め、より豊かな表現法や語彙、文化的な内容を含んだ中国語能力を身に付ける。同時に、視聴覚教材の活用を通して中国語圏の文化や社会に対する理解を深め、多面的な視座から中国語圏を捉えることも目指す。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	中国語演習検定対策		この授業科目は、中国語のこれまでの学習を踏まえて、検定試験の受験を目指す学生を対象とする。中国語検定試験準4級をターゲットにし、6月または11月に行われる中国語検定準4級に合格できるよう目標設定をおこなった後、検定試験の特徴と傾向を分析し、目標レベルの合格に必要な実力を付ける。長文読解、聞き取りに対応できるよう様々な過去試験問題を含めた応用練習に取り組み、出題傾向に慣れていく。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	中国語演習プレゼンテーション		この授業科目は、初級～中級中国語の運用能力を基礎に中国語でプレゼンテーションができるようになることを目指す。日本国内での異文化交流や留学先での授業も視野に入れ、身の回りのことや中国語圏の文化や社会について発表できる能力および日本の文化、社会について積極的に発信する能力を養成する。よって、これまでに学習した文法事項を復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表に挑戦する。特にプレゼンテーションでも利用可能な文語的表現も身につける。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	韓国語演習コミュニケーション基礎Ⅰ		この授業科目は、韓国語の初学者を対象に、挨拶、自己紹介などの会話ができることを目標とする。初歩の日常会話でよく使われる基本的な表現を学び、ペアやグループで練習をおこなう。韓国語は日本語と類似点が多いため、より早く実践力を身につけるように繰り返し練習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音を学びながら特定の場面における会話を学習する。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	韓国語演習コミュニケーション基礎Ⅱ		この授業科目は、「韓国語演習コミュニケーション基礎Ⅰ」の継続科目として、旅行、買い物ができる程度の会話能力の養成をすることを目標とする。基礎会話と文法を復習しつつペアやグループで繰り返し練習をおこなう。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得することを旨とする。	

授業科目の概要							
(国際共創学部国際共創学科)							
科目区分				授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	韓国語演習コミュニケーション		この授業科目は、「韓国語演習コミュニケーション基礎II」の継続科目として、電話、注文などの状況で話せる程度の会話能力の養成することを目標とする。ペアやグループで練習しながら、日常生活でよく使う表現や語彙を学習する。韓国語圏の多様な文化や生活習慣にも触れる機会も設けるとともに、原則としてネイティブスピーカーの教員の指導の下、正確な発音や自然な言い回しを修得する。視聴覚教材を用いて特定の場所における定型の会話表現を身に付ける。	
				韓国語演習言語と文化		この授業科目は、「韓国語基礎AI」「韓国語基礎AII」「韓国語基礎BI」「韓国語基礎BII」での学習を受け、韓国語の準中級レベルの文法の修得および読む・書く・話す・聞くという言葉の基本的な機能を総合的に運用できる力を向上させることを目標とする。基礎文法を復習しながら、より高いレベルの文法を体系的に学ぶ。韓国の文化や社会に関する視聴覚教材などを活用することで、多様な文章の表現を学習するとともに多面的な分析を加えることを目指す。これにより、韓国語圏の多様な文化や生活習慣についても理解を深める。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	韓国語演習検定対策		この授業科目は、準中級レベルの検定試験の受験を目指す学生を対象とする。各自に合った検定試験の目標を設定し、これまでの試験問題の特徴と傾向を分析するとともに目標レベルの合格に必要な韓国語の実力を身に付ける。そのため、既習の文法を復習しながら、過去に出題された問題などを解いて出題傾向に慣れていく。読解、聞き取り、慣用句の表現、日本語と異なる表現などに対応できるよう様々な応用練習に取り組む。適宜、模擬試験もおこない実際の試験に備える。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	韓国語演習プレゼンテーション		この授業科目は、簡単なプレゼンテーションができる程度の語学力を養成することを目標とする。自国の文化や他の言語圏の文化について客観的かつ批判的な知識を獲得しながら、自分の考えや知識をより正確な韓国語で表現する能力を身に付ける。まだ、発展的・生産的に韓国語で対話できるようにする。そのために、前提となる文法と慣用句などを復習しつつ、プレゼンテーションに必要な表現や語彙を学び、個人やグループで発表を完成させていく。また、発表や質疑応答、議論等の技術も身に付ける。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	世界の言語（ロシア語Ⅰ）		この授業科目は、初学者を対象に、ロシア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、ロシア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	世界の言語（ロシア語Ⅱ）		この授業科目は、Ⅰに引き続き、ロシア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Ⅰで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的な語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目 区分				授業科目の名称	主要授業科目
				講義等の内容	備考
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	世界の言語（タイ語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、タイ語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、タイ語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
				世界の言語（タイ語Ⅱ）	この授業科目は、Iに引き続き、タイ語の基礎的語学力の養成を目的とする。Iで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	世界の言語（イタリア語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、イタリア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、イタリア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
				世界の言語（イタリア語Ⅱ）	この授業科目は、Iに引き続き、イタリア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Iで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
全学共通科目	コミュニケーション	外国語科目	初修外国語	世界の言語（ルーマニア語Ⅰ）	この授業科目は、初学者を対象に、ルーマニア語圏の基本的な文化や価値観に触れるための基礎的語学力の養成を目的とする。発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法構造および文章の構造に関する知識の修得を目指す。同時に、ルーマニア語圏の文化や生活習慣に触れながら、基礎的な語彙や表現を導入する。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。
				世界の言語（ルーマニア語Ⅱ）	この授業科目は、Iに引き続き、ルーマニア語の基礎的語学力の養成を目的とする。Iで学んだ発音の仕組み、文字と発音の関係、基本的な文法や文章構造に関する知識を復習しながら、未習の文法事項、基本的語彙および表現を修得することを目指す。同時にコミュニケーションに欠かせない言語の背景的な知識も学ぶ。また、口頭練習・筆記練習を通して話す・聞く・書く・読むの四技能をバランスよく伸ばす。簡単な文章読解や易しい単語を使った会話練習を実際におこなうことで、言語への理解を深めていく。

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	日 本 語 力 科 目	実践日本語表現		この授業科目は、大学生活・社会生活に必要な不可欠な文章作成力・語彙力を身につける科目である。具体的には、（１）日本語の文章にはさまざまなスタイルがあることを理解した上で、それぞれのスタイルにとって適切な文章を書けるようになること、（２）高度な日本語を読解し、また表現する上で必要な語彙力を身につけること、の2点を目標とする。各受講生の抱える文章表現上の問題点が解消できるよう、少人数の演習形式で行う。目標（１）を達成すべく、隔週以上の頻度で、受講生は課題の文章を作成、担当教員は提出された文章を次回までに添削して返却する。また、目標（２）を達成すべく、指定テキストに基づく語彙テストなどを行う。	
			実践話し方入門		この授業科目は、「話し言葉としての日本語」の特徴や、コミュニケーションにおける聞く力の重要性を理解し、相手に伝わるように話す力を身につける科目である。少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。実習としては、1分間程度のスピーチのほか、発声・滑舌・音読の練習などを行う。授業ではまず、話し手だけでなく聴き手にとっても興味深い内容を、すっきりとした構成にあてはめて、わかりやすい言葉ではきはきと話せるようになることを目指す。また、自分の内面を見つめて言語化したり、外からの情報を取捨選択し整理して伝えたりするなど、「内」と「外」をバランスよく題材にできるような習慣をつける。さらに、論理的に説明できる力や表現力をも身につけていく。	
			日本語表現講義		この授業科目は、日本語表現の諸ルールと文章作成上の留意点を学ぶ科目である。講義形式によるが、ほぼ毎回、語彙テストまたは課題提出があり、実践的に学ぶことができる。扱う内容は、敬語・敬意表現の使い方、主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係といった文の構造、文章要約のポイント、手紙・履歴書・事務的文書・意見文といった各種文書の作成法など。これらを学ぶことにより、大学生や社会人に必要不可欠な文章作成力・読解力・コミュニケーション力を身につける。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	日 本 語 力 科 目	古典に学ぶ日本語表現		この授業科目は、江戸時代以前の多様な文章を取りあげ、受講者にさまざまなワークを課すことにより、書く力と読む力を鍛える科目である。授業は少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。日本語の表現は、古代から脈々と受け継がれつつ、多様な変容を遂げてきた。その分厚い積み重ねの上に現代の日本語表現がある。「個体発生は系統発生を繰り返す」ように、受講生は能動的学修を通して、さまざまな時代の多様な日本語表現を追体験し内在化することにより、豊かな日本語力・表現力の獲得を目指す。	
			実践漢字講座		この授業科目は、実生活で役立つ漢字能力を高めるため、講義によって漢字に関する基礎知識を身につけるとともに、漢字を書く訓練も行う科目である。授業では、漢字の成り立ちの分類、部首や読みの注意点、「常用漢字表」と「送り仮名の付け方」等に関する解説を行い、現代表記のきまりを理解してもらう。これらの知識を身につけながら、毎時間、漢字練習を行う。解説と実習によって、全ての常用漢字を正しく読み、書くことができるようになることを一つの目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	日 本 語 力 科 目	語彙・読解講座		この授業科目は、語彙力および読解力を養う科目である。具体的には、語彙・読解力検定2級程度の力をつけることを目標とする。授業は、講義と実習を織り交ぜながら進める。講義では、身近なトピックを取り上げ、それに関連する語彙を学びながら理解を深めることを目指す。社会常識を身につけつつ、言葉にかんする感覚を磨いていく。実習では、上記トピックにかんする読解問題に取り組むことで、講義で学んだ関連語彙の定着をはかるとともに、読解力を涵養する。	
			文章表現を磨く		この授業科目は、ある程度の文章表現力のある学生を対象として、より高度なレベルで文章表現を磨くための科目である。授業は少人数で、講義を織り交ぜつつ、演習形式で行う。受講生の提出作文を無記名で全員に配布、互いに意見を言い、教員が批評・評価する。こうした合評会、および添削指導を通して、明確なだけでなく味わいのある文章を書くためのトレーニングを行う。また随時、名文鑑賞を行い、プロの書き手の用いている日本語表現のテクニックと発想法を学ぶとともに、読解力を伸ばす。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	日 本 語 力 科 目	話し方を磨く		この授業科目は、話す力を鍛える科目である。「実践話し方入門」が初級編とすると、上級編にあたる。「実践話し方入門」を受講した学生からの、話し方を継続的に学び一層の向上を目指したいので上級編を設置してほしい、という要望をもとに誕生した科目である。「実践話し方入門」と同様に、少人数で、講義と実習を織り交ぜながら進める。相手の話を傾聴する体験を通じて多様な価値観を学ぶとともに、周囲に配慮しながらも自身の主張を積極的に発信していく姿勢を身につける。また、聴衆や場に相応しい言葉遣いや効果的な声の出し方、さらには話の内容を豊かにするための着想力やストーリー構築力も実践を重ねることで磨いていく。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	日 本 語 力 科 目	実用文書の作り方・情報の伝え方		この授業科目は、客観的な情報を的確に伝達する情報コミュニケーションスキルを身につけるための科目である。大学生活において作成が求められるレポートや卒業論文、またエントリーシート等、さらに、企業やその他の組織に入ってから日常的に作成することになるビジネス文書や技術文書等を、わかりやすく読みやすい形で作成する基本スキルを習得すること、そうした文書を企画設計するうえでの基本的な考え方を身につけることなどを目標とする。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	日 本 語 力 科 目	創作実践A		この授業科目は、俳句を実際に作り、作品を互いに鑑賞しあうことを通して、完成度を高めていく科目である。表現と鑑賞は、俳句に限らず創作の両輪である。実作者として他者の作品に向き合い、表現力を高めることを目指す。授業は少人数の演習形式で行われ、主に、①吟行、②句会、③ディベート、④鑑賞文、から組み立てられる。④鑑賞文の作成と講評は1回のみであるが、①キャンパスを歩いて俳句を作る吟行、作品を鑑賞しあう②句会と③ディベートは、2～3セット行う。間に講義をはさみながら、第1ラウンド→第2ラウンド→第3ラウンド、という具合に進んでいく。	
全学 共通 科目	コ ミュ ニ ケー ション	日 本 語 力 科 目	創作実践B		この授業科目は、創作を行う科目である。好きな本や作家、映画や演劇などについて語りあうことから始め、各自が創作したものを発表、互いに感想を述べあうことにより、文学が友達のように感じられる、またはその第一歩を踏み出すことを目指す。授業は演習形式で行うが、「エッセイを読む」、「文学、演劇、映画へのアプローチ」といったテーマの講義を挟んでいく。創作は、短い小説や短歌、現代詩などはもちろん、エッセイや書評でも可とする。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	コ ミ ュ ニ ケー ション	日 本 語 力 科 目	文学作品の表現		この授業科目は、文学作品の文章表現を学ぶことにより、日本語表現の豊かな可能性を知り、言葉に敏感になることを目指す科目である。授業は講義形式で進めるが、随時、課題を投げかけ、受講者に考えてもらう。たとえば『源氏物語』を取り上げ、会話、心内語、敬語、視点、語り手、和歌などの文章表現に注目しながら丁寧に読んでいくことで、言葉に対して濃やかに神経を配る紫式部の姿勢を学ぶとともに、教養の一つとして、『源氏物語』の概要の理解も目指す。	
			情報基礎B		この授業科目は、情報化社会の一員として重要な情報倫理についての理解を深めた上で、大学での学習や成果発表の手段として必要不可欠である情報基盤技術の習得を目指す。PCを利用する上での注意事項やセキュリティ対策、情報収集やレポート作成時に留意すべき著作権や関連法規などを学修した上で、文書作成ソフトによるレポート作成、表計算ソフトによるデータ処理、プレゼンテーションソフトの活用、初歩的なプログラミング等の基本的な技能を、講義とコンピュータを用いた実習により習得する。	
全学 共通 科目		情 報 リ テ ラ シー	情報技術活用概論		この授業科目は、情報技術（IT）を利活用する上で必要な基礎知識を習得することを目的とし、コンピュータシステムやネットワーク、データベースなどの基礎理論の他、情報セキュリティや情報モラル、社会やビジネスにおけるIT活用の基本的な考え方など、幅広い知識を体系的に学ぶ。ITサービスやシステムの技術要素を理解し、業務の効率化や課題解決に向けて、AIやビッグデータ、IoTなどの技術の概要に関する知識を深め、ITリテラシーの向上を目指す。	
全学 共通 科目		情 報 リ テ ラ シー	Python入門		この授業科目は、AI開発やデータ分析、Webアプリケーション開発など様々な分野で世界的に広く普及しているプログラミング言語であるPythonを利用して、基礎的なプログラミングスキルを習得することを目的とする。プログラムの記述ルールやプログラムの基本構造である順次、選択、反復の基本文法、リストによる複数のデータの処理などを学修する。最終的には基本構造を組み合わせて自分の意図した処理をプログラムに実装できる力を身につけることを目指す。	
全学 共通 科目		情 報 リ テ ラ シー	オフィスソフトの活用 と実践		この授業科目は、社会に出てから業務において活用場面の多いMicrosoft Office（Word、Excel、PowerPoint）の実践的な活用法を学修し、身につけたスキルを大学生活や社会において実践できるようになることを目的とする。それぞれのソフトウェアの特性や機能を理解し、論文やビジネス文書の作成、業務でのデータ処理、動画を組み込んだ自動スライドショーの作成など、オフィスソフトを必要な場面で適切に活用するための、より発展的・応用的な技能を習得することを目指す。	
全学 共通 科目		情 報 リ テ ラ シー	Web サイト作成入門		この授業科目は、Webサイト作成を通じて、適正で効果的な情報発信のための基本的な知識・技能を習得することを目的とする。Webページ記述のためのHTML、レイアウトやデザインを適用するためのCSS、動的コンテンツ作成のためのJavaScriptの基本文法等を学ぶ。また、情報を発信する側としてWebによる情報発信の影響、責任、著作権等についても学び、情報を理解し表現する力、発信する力を身につけることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	情報	情報リテラシー	Excel VBA 入門		この授業科目は、Microsoft Excel操作を自動化するプログラムをVBA (Visual Basic for Applications) というプログラミング言語を用いて作成するスキルの習得を目的とする。Excel VBAの基本的な概念や用語、VBAで作成されたプログラムの処理内容を理解し、繰り返し処理や条件分岐処理を含めてExcel操作を自動化するプログラムを作成することを目指す。課題プログラムの作成を通じて、アルゴリズムの構築ができる論理的思考を身につけるとともに、Excel操作そのものについてもより深く理解することを目指す。	
			Java入門		この授業科目は、大規模なシステム開発からスマートフォンのアプリケーション開発まで、汎用性が高く様々な分野で需要のあるプログラミング言語であるJavaを利用して、基礎的なプログラミングスキルを習得することを目的とする。プログラムの記述ルールやプログラムの基本構造である順次、選択、反復の基本文法、配列による複数のデータの処理などを学修する。最終的には基本構造を組み合わせて自分の意図した処理をプログラムに実装できる力を身につけることを目指す。	
全学 共通 科目	情報	データサイエンス	データサイエンス入門		この授業科目は、データサイエンスが社会の各分野でどのように活用され、そこからどのように有益な情報や価値が生み出されているのかについて、様々な分野におけるデータサイエンスの研究や活用事例を通して、データサイエンスの目的や意義、現代社会との関わりを理解することを目的とする。ビッグデータやAIの理解を深めるとともに、データを活用する上で必要な倫理やデータの適切な扱い方についての基本を学修し、データ分析のための基礎的な知識やスキルを習得することを目指す。	
全学 共通 科目	情報	データサイエンス	データサイエンスのための基礎数学		この授業科目は、データサイエンスを学ぶために最低限必要な数学の基本事項を学ぶ入門的科目である。データサイエンスと数理統計との関連を理解し、数学的な手法に基づきデータを俯瞰し分析を行うために必要な基礎的な理論を学ぶ。情報科学において基本となる微分積分や線形代数、統計学の基礎概念を習得する。身近な題材を例とした問題を解くことで、数式の意味を理解し、データの把握や分析・解釈に必要な数学的素養を身につけることを目指す。	
全学 共通 科目	情報	データサイエンス	Excelによるデータ分析入門		この授業科目は、社会で広く活用されている身近なツールである表計算ソフトMicrosoft Excelを使って、データから知見を見出すためのデータ分析の基本を学ぶ入門的科目である。データ分析は、ビジネスの現場においてもデータに基づく意思決定や課題解決に欠かせない手段の一つとなっていることを理解し、データの整理や可視化、統計学に基づく分析手法、分析結果の解釈について、基礎的な知識とスキルを身につけることを目指す。	
全学 共通 科目	情報	データサイエンス	データベース入門		この授業科目は、情報化社会において大量のデータを効率よく収集・管理するための基盤技術の1つであるデータベースについて、その基本概念を理解し、データベースの操作、活用、構築について習得することを目的とする。まず、表計算ソフトのデータベース機能を用いたデータの抽出操作の基本事項を習得した後、代表的なデータベース言語であるSQLを用いて現在最も普及しているリレーショナルデータベースの操作や制御を実践する。また、ビッグデータ解析において近年注目されている技術であるNoSQLにも触れ、データベースの構造と活用について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全 学 共 通 科 目	情 報	デ ー タ サイ エ ン ス	AI入門		この授業科目は、近年著しい進化と浸透を遂げるAIの基本概念や原理について学修するとともに、AI技術の代表的な手法である機械学習プログラミングの基礎的な技能を習得することを目的とする。教師あり学習である分類と回帰、教師なし学習である次元削減とクラスタリングの理論を学び、機械学習ライブラリを用いて各手法のアルゴリズムを適用したAIモデルの作成を実践する。さらにニューラルネットワークを用いた画像認識の実習を通して、深層学習の原理について理解を深める。	
			統計分析入門		この授業科目は、大量データを取り扱う上で重要となる統計的なものの見方や分析手法に必要な統計学の理論および基礎概念を学修し、基本的な統計分析手法をプログラミングを通して実践的に理解することを目的とする。統計理論の理解を深めるため、プログラミングを用いて実データの分析を実施し、分析結果を定量的に解釈し考察できる力を身につける。さらに、標本データから母集団を推測する推測統計の考え方を理解し、確率に基づく推定や検定から問題解決につなげる力を身につけることを目指す。	
全 学 共 通 科 目	ラ イ フ デ ザ イ ン	キ ャ リ ア 教 育 科 目	キャリアプランニング		この授業科目は、大学生として自己と社会を認識し、大学生活や進路選択に向けて有意義な行動計画（プランニング）を立てられるようになることを目的としている。そのため、進路・雇用・企業に関する基礎知識や自己理解の手法を学び、併せてキャリア形成のために必要かつ基本的なスキルが習得できるような講義内容になっている。「社会人基礎力」、「ワークライフバランスと働き方改革」、「キャリアデザイン概念」、「日本の産業構造の現状」など、今日的なテーマに触れながらキャリア形成についての理解を深める導入型キャリア教育の授業を行う。	
全 学 共 通 科 目	ラ イ フ デ ザ イ ン	キ ャ リ ア 教 育 科 目	桃李キャリア入門		この授業科目は、社会の諸分野で活躍されている卒業生を講師に招き、大学生活というキャリアを卒業後のキャリアに接続するヒントを、講師の経験を踏まえ講義するものである。自己のキャリア形成について低学年時から意識するとともに、成蹊大学での学びのモチベーションを向上させることを目的とする。受講生は、各回にそこで何を学んだか、また、自分のキャリア形成にその知識をどう生かすべきかに関してレポートを提出することが求められる。	
全 学 共 通 科 目	ラ イ フ デ ザ イ ン	キ ャ リ ア 教 育 科 目	イノベーション人材		この授業科目は、アントレプレナーシップにつながる基本的な考え方を養うことを目的とする。学生はイノベーションの基礎理論や実際の事例を数多く学び、新しいアイデアや事業機会を見つけるための手法やアイデアがどのように生み出されてきたのかを学習する。授業では、ケーススタディ、ディスカッションなどを通じて、より実践的な理解を促進することを主眼とし、イノベーションマインドの本質、イノベーションプロセスの知識などの理解を深めていく。学生は授業を通して、現代社会において、社会課題を解決したいという情熱を持ち、自らのアイデアを実現するための戦略を立て、それを自らの力で実行に移すということの重要性を認識していくことを狙いとするものである。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	ライフ デザ イン	キャ リア 教育 科目	ビジネストレーニング セミナー		この授業科目は、他者と協力しながら目標を掲げ、チームで成果を出す能力を実践的に修得することを目的としている。具体的には、実際の企業からゲスト講師を招き、その企業のビジネス課題を提示いただく。それに対し、小グループに分かれディスカッションを行い、課題解決提案をまとめ上げ、ゲスト講師の前で発表し、講評をいただく。これらの実践的なプロセスの中でビジネスの基本知識を学び、チームで他者と「協働する力」を身につける。	
全学 共通 科目	ライフ デザ イン	キャ リア 教育 科目	キャリアセミナー		この授業科目は、卒業後の進路選択に向けてより実践的に考えていくために、グループワークを通じて社会、業界、企業、職業について詳しく調べ、理解を深めていく。同時に、自己理解を深め、自分に合った進路とはどのようなものかを考えていくことを目的としている。授業では講義を聴いて学ぶだけでなく、グループワーク中心で主体的に進路を考える時間を持ち、また他者のキャリアに対する考え方を聞くことで視野を広げ、進路選択をより現実的に考えていく。	
全学 共通 科目	ライフ デザ イン	キャ リア 教育 科目	実践キャリアセミナー		この授業科目は、自分自身の将来のキャリアをより実践的な視点から考えることを目的に、社会・企業に実際にあるようなビジネス課題をテーマとして挙げ、それに対してグループワークで課題解決のための提案を考え、発表を行う。ビジネス課題について自ら調査、解決策検討をすることを通して実社会を知り、将来の仕事の方向性を考えるとともに、グループワークにより他者と協力しながら目標を掲げ、ディスカッションやプレゼンテーションを通じてチームで成果を出す能力を実践的に修得していく。	
全学 共通 科目	ライフ デザ イン	キャ リア 教育 科目	キャリア発展講義		この授業科目は、将来のキャリアを考える上でのいくつかの特化したテーマを掲げ、そのテーマごとに深く掘り下げて学修することを目的としている。各科目においては、業界・企業研究などのキャリア形成の基盤となる中心的テーマに関する発展的な知識や技能の修得に加えて、雇用の仕組みやライフプランニングなど働く人に不可欠なテーマや、ワークライフバランスやキャリア形成の国際化・情報化など社会的な変革に関する適時的なテーマをそれぞれ講義展開していく。	
全学 共通 科目	ライフ デザ イン	キャ リア 教育 科目	日本企業の現状と展望		この授業科目は、現代の日本企業が直面している課題を深く理解し、将来のビジネス環境に適応するための知識や分析手法などを学生に提供することを目的とする。授業では、経済、技術、社会的動向を通じて日本企業の現状を分析し、さまざまな業界の特徴と将来性を考察していく。また、グローバル化、テクノロジーの進展、持続可能性など、企業運営に影響を与える要因などを踏まえた業界動向についても紹介する。なるべく実践的なビジネス感覚を養うために、実務家の話を含めることもあり得る。授業全体を通して、学生は日本のビジネス全体を総合的に考察するような広い視野を獲得し、ダイナミックな環境変化を乗り越えて将来の日本企業のリーダーに育っていくことが期待される。	
全学 共通 科目	ライフ デザ イン	キャ リア 教育 科目	丸の内ビジネス研修準備講座		この授業科目は、3年次に「丸の内ビジネス研修」に参加したい人のために、また社会に出て仕事をする上で必要となる「人と協働し、ビジネス課題解決をする基礎力」を身につけることを目的としている。オンデマンド型の自習学習によりビジネスの基本的な考え方、ビジネス課題の解決の手法を学び、チームでの協働の仕方、プレゼンテーションの基礎などについて学び、授業内では、毎回、小グループに分かれてワークを行い「実践力」を伸ばしていく。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	ライフデザイン	キャリア教育科目	インターンシップ準備セミナー		この授業科目は、就職活動を見据え、民間企業や公共部門等で行われるインターンシップに参加することを志望する学生が、円滑にインターンシップ実習に取り組めるように事前学習を行うことを目的としている。業界・業種について、また組織の仕組み・業務内容・ビジネス習慣などについての基礎知識を講義によって学ぶ一方で、インターンシップ実習で重視されるグループ討論やグループワークを多く取り入れ、実習の実践的な準備を行い、必要とされる知識や技能を修得する。	
全学共通科目	ライフデザイン	キャリア教育科目	丸の内ビジネス研修		この授業科目は成蹊大学が協力企業と産学連携で行うMBT (Marunouchi Business Training) 活動の実践として、ビジネススキルの修得、企業提供課題に対するグループワーク、企業提供課題に対するビジネス提案プレゼンテーション、協力企業でのインターンシップ、インターンシップの成果発表を通して、主体的な職業選択や職業意識の涵養に加えて、大学で学ぶ専門知識と現実社会との繋がりを体験的に理解し、新たな学習意欲を生みさせることを目的とした科目である。実習の成果は協力企業が一堂に会す成果発表会で発表することで、学生個々が成長を実感するプログラムとなっている。	
全学共通科目	ライフデザイン	キャリア教育科目	実践キャリアデザイン		この授業科目は、インターンシップに実際に参加した学生がその体験を活用し、進路決定に向けて、また就職活動に向けて、必要な「業界研究」「企業研究」「職業研究」を深めていくこと、また就職活動に際して必要な知識・スキルを習得することを目的としている。授業はグループワークを中心として、自ら必要な情報を調べ、自ら考え、またグループでの意見交換を行って人の意見も参考にし、自分自身の将来の進路を決め、また就職活動を進めていくための実践的なスキルを磨いていく。	
全学共通科目	ライフデザイン	キャリア教育科目	事業課題演習		この授業科目は、グループ学習によって演習形式で社会課題やビジネス課題の発見、およびその解決方法に関する議論を通じて、課題発見・解決のための論理的思考力や創造性を育むことを目的とする。この授業は2年次前期に配置される演習形式の授業であり、成蹊アントレプレナーシッププログラム (SEP) の起点に位置付けられるものである。各グループで学生が社会場や経済状況に関する情報やデータを収集し、本質的な課題を検討抽出し、それを解決するにはどうしたらよいかを議論するという一連のプロセスを通じて、社会課題を解決するために自発的な行動を計画する素地を固めていくことを狙いとするものである。	
全学共通科目	ライフデザイン	キャリア教育科目	事業創造演習		この授業科目は、グループ学習によって演習形式で社会課題やビジネス課題の中から具体的に選んだ課題に対して、それを実際に解決するための事業を考案していくという議論を通じて、課題解決のための論理的思考力や創造性を育むことを目的とする。この授業は2年次後期に配置される演習形式の授業であり、2年次前期に配置されている「事業課題演習」の後継科目として位置付けられるものである。課題を定式化し、ブレインストーミング等を通じてそれを効率的に解決するためのアイデア出しを行い、そのアイデアがどうしたら採算がとれる事業計画に落とし込めるかという一連の議論のプロセスを通じて、事業計画に関する基本事項を学生自身が身をもって体感することを狙いとするものである。	
全学共通科目	ライフデザイン	キャリア教育科目	事業企画入門		この授業科目は、事業計画を立案するために必要な基本的知識の修得を目的とする。ビジネスモデルに関する基礎知識、収益構造や採算性に関する基本的な考え方、法的・倫理的にクリアしなければならない諸制約、などに関する概要の説明を中心にして講義を行う。さらに学生は、個人またはグループでの演習等を通じて、実際に自分自身で事業計画書を作成するというプロセスを通じて、事業計画の将来性・成長性やアピールポイントなどに関する気付きを得ることになる。実際に起業等を行わないとしても、将来社会人として社会課題解決やビジネス課題解決のための計画を策定するために必要となる基盤を形成していくことを狙いとするものである。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	ライフデザイン	キャリア教育科目	起業実務入門		この授業科目は、実際に起業する際に必要となる種々の制度的、手続き的な知識を習得することを目的とする。アイデアを現実の課題解決にむずびつけていくためには、会社等の法人の設立が必要になる場合が多いため、起業に関する必要最小限度の知識を習得しておくことは、学生の将来にとって極めて有益なものである。授業では、講義と演習を通して、組織の諸形態（株式会社、合同会社、社団法人等）に関する法的・経済的な特徴、定款や就業規則の作成に必要な法務的事項、源泉徴収や消費税等の税務的事項、その他企業に必要な諸手続き等に関する基本的な事項を学習していく。	
			マネタイズ戦略入門		この授業科目は、種々のアイデアやデータ、テクノロジーなどをどのようにして「収益」にむずびつけていくことができるのかについて、基本的な構造や考え方を習得することを目的とする。講義において実際にビジネスや公共事業において行われている収益化モデルを数多く紹介することにより、まだ収益化されていないテクノロジーやアイデアの収益化の機会を学生自身が探求していくための一助となることを狙いとしている。とくにデジタルテクノロジーやデータ・AIサイエンスに関する収益化の事例を数多く扱うことによって、文系と理系の知識の融合を促進していくことが期待される。	
			SEP発展講義		この授業科目は、その時々々の社会状況を踏まえて最もふさわしいテーマや学生の大きな関心を集めているようなテーマを設定し、適切な実務家教員等によってなるべくタイムリーな現状把握や将来性等に関する知識を学生に伝えることを目的とするものである。Society 5.0と呼ばれる変化の激しい時代において、あらかじめテーマを定めずにその時々々の社会状況に応じて相応しいテーマを柔軟に選定できる科目の存在は、学生が実際の問題に応用可能な知識を身に付けていくために必要不可欠なものであり、多くの学生の興味・関心を喚起することが期待されるものである。	
全学共通科目	ライフデザイン	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習 A		この授業科目は、自己の探究および集団での協働に、身体活動を切り口としてアプローチする。すべてのクラスにおいて体組成や体力の測定データを用いた科学的分析をおこない、自己の身体への気づきを高めるとともに、健康の維持増進に向けた運動・スポーツ実践と自己マネジメントの方法論を修得する。また、競技種目の特性を活かした多様なグループ学習および受講生間のコミュニケーションを重視した集団マネジメントの活動を通じて、経験の有無や技能・体力のレベルを問わずすべての参加者が運動・スポーツの達成感や楽しみを享受する場をつくるための方法論を、スポーツ科学の知見とともに修得する。上記の中でも特に、安全管理をベースとしたマネジメントについて、方法および評価と修正の視点を重点的に学修する。以上の学修内容は、運動・スポーツの実践領域にとどまらず、大学での多様な学修や生活に好影響をもたらすよう構成されている。	
全学共通科目	ライフデザイン	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習 B		この授業科目は、自己の探究および集団での協働に、身体活動を切り口としてアプローチする。すべてのクラスにおいて体組成や体力の測定データを用いた科学的分析をおこない、自己の身体への気づきを高めるとともに、健康の維持増進に向けた運動・スポーツ実践と自己マネジメントの方法論を修得する。また、競技種目の特性を活かした多様なグループ学習および受講生間のコミュニケーションを重視した集団マネジメントの活動を通じて、経験の有無や技能・体力のレベルを問わずすべての参加者が運動・スポーツの達成感や楽しみを享受する場をつくるための方法論を、スポーツ科学の知見とともに修得する。上記の中でも特に、各種目の基本的な技術やマナーおよびそれらの文化的背景について、重点的に学修する。以上の学修内容は、運動・スポーツの実践領域にとどまらず、大学での多様な学修や生活に好影響をもたらすよう構成されている。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	ライフデザイン	健康・スポーツ科目	スポーツと科学		この授業科目は、「健康・スポーツ演習A」「健康・スポーツ演習B」で修得した内容を発展させ、特にスポーツ・パフォーマンス向上の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。科学技術の発展は、今日のスポーツを考える上で切り離せないものとなっているが、具体的にはどのように関わってくるのだろうか。また、スポーツ・パフォーマンスを構成する要素はスキル、フィットネス、モチベーションといわれ、日本でも古来「心技体」が重視される。さらに近年では、戦術・戦略が注目されてきた。こうした知識はどのようにスポーツ・パフォーマンスに反映されるのだろうか。講義ではこれらの問いを軸にして、科学に基づいたトレーニングやコンディショニングについての理解を深めていく。	
			スポーツと文化		この授業科目は、「健康・スポーツ演習A」「健康・スポーツ演習B」で修得した内容を発展させ、特にスポーツの文化的意義の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。共通ルールによる身体活動を通じて、世界中の多様な人びとが互いに高め合い、通じ合えるのはスポーツの特質であるが、国や地域によってスポーツ文化の受容や解釈あり方は多様かつ複雑でもある。また、スポーツは、歴史的にさまざまな側面において変化をくり返しており、現在もまた変化のただ中にあるといえる。以上の認識にもとづき、授業では多様な時代や地域における運動・スポーツの具体的な事例や議論を紹介し、そこに見られる文化的特質や課題について考えていく。	
			スポーツと社会		この授業科目は、「健康・スポーツ演習A」「健康・スポーツ演習B」で修得した内容を発展させ、特にスポーツの社会的経済的位置づけや機能の観点からスポーツ科学分野の学術的知見を取り上げる。人とスポーツとのかかわりには、「する・みる・ささえる」という様々な側面がある。そしてそれぞれにおいて、スポーツとのかかわりを支える社会的支援や経済活動が必要となる。授業では、日本社会を中心として、スポーツを「する・みる・ささえる」仕組みが社会・経済的にどのように成り立っているのか、そこにどのような課題があるのかということを、具体的な事例を紹介しながら考えていく。	
全学共通科目	ライフデザイン	健康・スポーツ科目	健康と科学		この授業科目は、「健康・スポーツ演習A」「健康・スポーツ演習B」で修得した内容を発展させ、特に大学生活と身体と心の健康維持増進の観点から、健康科学分野の学術的知見を取り上げる。現在社会において、日本人の死因として上位にあるのは、悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患である。これらはいずれも生活習慣病であり、日頃のライフスタイルがこれらの疾患の発症と大きく関わっている。こうした認識にもとづき、講義では、大学生活における身体と心の健康を考える。生活習慣病、感染症、身体の免疫機能、食生活、喫煙、飲酒、ストレス、ダイエット、睡眠などをテーマとし、具体的な事例やデータを用いながら問題にアプローチしていく。	
全学共通科目	ライフデザイン	健康・スポーツ科目	健康心理学		この授業科目は、健康心理学の基礎理論および最新の研究動向を学び、日常生活での応用を目指す。個人の健康や幸福と心理的要因との関連性について探求することが主なテーマである。具体的には、ストレングス・ベースド・アプローチやポジティブ心理学の観点を踏まえ、健康概念の変遷と心理学の歴史、健康を構成する心理学的要因、ストレスマネジメントや健康行動の維持／変容法、自己効力感やレジリエンスの獲得法、心理的幸福度の構成要素や探求方法、ポジティブ感情の種類や意義、睡眠や運動といった生活習慣とウェルビーイング、孤独感や人とのつながりの持つ意味、などについて学ぶことで、学生が健康や幸福に関する心理学的な知識を獲得するとともに、自分自身に合った実践的な活用法を模索し、身につける。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	教養 基礎	人文学	哲学の基礎		この授業科目は、西洋哲学の歴史を概観し、大きな世界観・全体像の中で育まれてきた哲学上の重要な基本概念を理解することを促す科目である。代表的な哲学者とその考え方を学習し、混沌とした現代社会を生き抜いていくための足場もしくは道標となるような考え方を発見できる、あるいは今日のわれわれが現代社会のうちにどのような問題を見て取らなければならないかを鋭く洞察するという哲学的な思索を行う態度や思考力を養うことを目的とする。	
			倫理学の基礎		この授業科目は、「良いもの」「正しいもの」「美しいもの」などの人間の価値判断は何を根拠に形成されているのか、また人間は何をよりどころに生きるのかといった根本課題に実践哲学の観点からアプローチしてきた倫理学の体系を概観し、代表的な考え方とその基本概念を理解することを通して、学生自身が現代社会の倫理的な問題（例えば、生命倫理、環境倫理、メディア倫理など）に対して倫理的思考を行えるようになることを目的とする。	
			現代社会と哲学		この授業科目は、時代や文明の矛盾に挑んだ近現代の哲学者の考え方を通して、学生自身が現代という時代を哲学的に深く見つめ直す機会を提供することを目的とする。「哲学の基礎」の延長上に主として20世紀の代表的な哲学者を取り上げ、アイデンティティの問題、大衆社会の問題、官僚制の問題、人類全体の持続可能性の問題等、近現代社会の問題を彼らがどのようにみつめてきたのかを知ることを手掛かりとして、これから21世紀の日本社会と向き合う学生がどのような思索を行えばよいかを学生自身に問いかけていく。	
全学 共通 科目	教養 基礎	人文学	現代社会と倫理学		この授業科目は、現代社会における生の意味や価値の根拠について考える科目である。「人間はいかにあるべきか」「いかに生きるべきか」という倫理学上の根本的な問いを考察の中心におき、近・現代の日本を代表する文学者や思想家の文章を読解することを通して、混迷状況から出発して歴史を先導した人物たちの思想や精神構造を理解し、同様に混迷の渦中にある現代社会における生の意味を考え、「今を生きる」指針を形成することを目的とする。	
全学 共通 科目	教養 基礎	人文学	文学への招待		この授業科目は、文学を専門にしない学生のための文学入門であり、実際の作品の読解を通じて、文学に触れる方法、楽しみ方を身につけていく。授業担当者によって、西洋の近代文学、日本の古典、日本の現代文学など、取り上げる素材はさまざまであるが、1) 文学作品の読解を通して、さまざまな時代の社会や制度のなかで、人間がおかれた状況を理解できること、2) 多様な文化に触れ、思想的な問いかけも行いつつ相互理解を深められること、3) 文学が提起する問題提起をもとに、新たな世界の可能性に向けて自己の意見を発信できることを共通の到達目標とする。	
全学 共通 科目	教養 基礎	人文学	芸術への招待		この授業科目では、音楽もしくは美術を対象に、芸術の基礎理論とさまざまな表現手法、様式・形式を概説するとともに、それらの歴史を概観し、代表的な作家や作品がどのように創造されてきたのかを講義する。これらを通じ、芸術作品は宗教、思想、時代背景などさまざまな人間の文化と相互作用を持って生み出されたことを理解するとともに、芸術をその背景を考えながら、より深く鑑賞する姿勢を身につけられることを到達目標とする。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	教養基礎	人文学	カルチュラル・スタディーズ		この授業科目は、大衆文学、映像、ポップミュージック、ファッション、アニメといった「大衆文化」（ポピュラー・カルチャー）を主たる対象として、私たちの日常生活との関わりの中で「文化」について学ぶ。「文化を特定の歴史や社会状況における構築物としてとらえる問題意識」の下、カルチュラル・スタディーズ、社会学、文化人類学、メディア論などの理論や概念を用いて、文化をめぐる諸問題や諸現象を多角的に分析していく。	
			心理学の基礎		この授業科目は、データや事実をもとにして、こころの性質や働きを科学的に探究する学問である心理学の各研究領域（知覚・記憶・言語と思考・学習・社会）において最も基礎となる事柄を概説するとともに、心理学の最先端の研究を紹介することによって、心理学が、日常生活にもたらした知見を明らかにする。心理学への期待と関心をもつ受講生に、基礎心理学の基本的な考え方と知識をわかりやすく講義する。心理学の基本的な知識や考え方を身につけ、自己理解および他者理解のために、心理学の知識を活用できるようになること、また、その限定性を知ること到達目標とする。	
全学共通科目	教養基礎	人文学	自己理解の心理学		この授業科目は、だれにでも起こり得るこころの問題に対し、臨床心理学の知見、つまり広い意味での心の科学に基づく知識からアプローチする。具体的には、大学生の発達課題、青年期にみられる精神医学的問題、大学生の過去とこれから（発達臨床心理学）の3点を盛り込んで講義する。青年期を生きる大学生が、自分の心を通して振り返り考えさせつつ、こころの成長、健康なこころ、他者に共感できる人間関係を身につけた大人として、社会の構成員となるための基礎づくりをねらいとする。	
全学共通科目	教養基礎	人文学	近現代日本史（明治・大正）		この授業科目は、現代の日本社会を考える基礎として、日本近現代史を学ぶ科目である。「明治・大正」では、19世紀半ばから20世紀初頭にかけての政治、外交、経済、文化、社会などの変容過程を概観し、「近代」という時代を多面的に考察することを目指している。その際、近世との連続や非連続、世界史における日本の位置づけについても留意する。日本の「近代化」の意義や特質について考察するとともに、日本近現代史の基礎的知識を修得することを目指す。	
全学共通科目	教養基礎	人文学	近現代日本史（昭和以降）		この授業科目は、現代の日本社会を考える基礎として、日本近現代史を学ぶ科目である。「昭和以降」では、20世紀以降の政治、外交、経済、文化、社会などの変容過程を概観し、現代社会が直面する諸問題を、歴史的視点から考察することを目指している。その際、「戦争の時代」としての昭和戦前期、「平和の時代」「経済成長の時代」とも言い得る昭和戦後期、そして平成・令和に至る現代史を連続的かつ立体的に考察するとともに、日本近現代史の基礎的知識を修得することを目指す。	
全学共通科目	教養基礎	社会科学	政治学の基礎		この授業科目では、政治学の基本的な概念や理論、現代日本の政治制度とその問題点、国際政治の現状について学ぶ。民主主義の歴史、権力分立、政治制度、官僚制、政党制、マスメディアと政治、日本の政治、選挙制度、地方自治、国際政治などを主な内容とする。政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐる自分なりの課題を発見し、主体的に判断することの出来る市民的教養を身につけることを目標としている。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	教養 基礎	社会 科学	経済学の基礎		この授業科目は、現代社会を理解するための重要な視角として「経済的なものの見方・考え方」をはぐくみ、様々な経済問題や経済事象に関する新聞報道や雑誌マスコミ等の記事を正しく読み取り、経済社会の動向に対する冷静な判断力を身につけることを目的とする。現代の経済は自由な市場取引を通じて各種の「資源配分」が決まっていくのが基本であるが、「市場経済」は決して万能ではなく、政府や中央銀行のような公共セクターがそれを補完するために大きな役割を果たしている。この授業では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の初級的な理論に立脚して、そのような現代経済を理解するための基礎的な見方・考え方を紹介する。	
			社会学と現代		この授業科目は、社会学の基本的枠組みを学ぶ。社会学とは、個人の認識のなかに、他者との相互作用のなかに、人々の集団のなかに、社会の存在を複眼的にみだし、探求していく営みである。本科目は現代の世界における社会学的問題を概観し、それが同時代的に私たちの身の回りにどのような形で存在するかを考える。これを通じて、社会で起きている諸問題にたいする社会学的な捉え方、および社会学理論を学び、その射程について理解を深める。	
全学 共通 科目	教養 基礎	社会 科学	日本国憲法		この授業科目は、日本国憲法を概観し、憲法上の諸問題について学生自身が考えていくための端緒を提供することを目的とする。平和主義、自由と平等、基本的人権、日本の統治機構など憲法上重要な概念を網羅的に取り扱うが、なるべく具体的な事件や判例などの学習を通して、学生が自分自身で考えていくための憲法上のテーマを提供する。1) 日本国憲法の個々の条文に記載された内容に関する知識を修得する、2) 憲法とは国家権力を制限し広く人権を保障する法であるという本質について説明できる、の2点を到達目標とする。	
全学 共通 科目	教養 基礎	社会 科学	市民生活と法A		この授業科目は、市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら概説する科目である。「A」では、卒業後の仕事や学生時代のアルバイトの中で生じる労働契約上の問題やハラスメント事例などを取り上げながら、契約・不法行為などの法律上の基本概念・基礎知識の理解を促すとともに、自分を守るために役立つ知識の習得を促す。なるべく分かりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。	
全学 共通 科目	教養 基礎	社会 科学	市民生活と法B		この授業科目は、市民生活において、いかなる法律が適用されているのか、実際に紛争が発生した場合に、どのような法律のルールが適用されて解決が図られるのか、具体的な事案を取り上げながら概説する科目である。「B」では、日本の競争政策と独占禁止法（独禁法）を題材に、国の政策とそれを取り巻く法が一般市民の生活にどのように作用しているのか、一般市民にとってこれらの政策と法がどのような意味を持っているのかを紹介する。なるべく分かりやすい事例の説明を盛り込みながら授業を進める。	
全学 共通 科目	教養 基礎	社会 科学	現代のマスメディア		この授業科目は、現代社会を語る上で欠かすことのできないマスメディアの現状と問題点を考察していく。わたしたちは、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされており、わたしたちは一見バラバラに存在しているかのように見えても、実は情報を共有することで相互に結びついている。本講義科目は、こうした社会学的視点からマスメディアを考察するとともに、急速に発展してきたソーシャルネットワークの展望についても扱う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	教養 基礎	社会科学	社会心理学入門		この授業科目は、社会心理学の基礎的な知識について紹介する。社会心理学とは、人間の感じ方や考え方、行動について、他者との関係の中で理解することを目指し、科学的に研究する学問である。本講義ではとくに社会的な影響によって作り出された心理状態が個人を拘束していくありさま、および人間の心理が社会的に波及していくときのメカニズムなどについて扱うこととし、具体的な事例などをひきながら、社会心理学の射程を理解することを目的とする。	
			企業と社会		本授業科目は、社会の中で企業の役割を理解できるようになることを目的とし、経営学の基礎的な知識について学びながら、社会における企業の役割や意義、働く場としての企業について考える力を身に付けることをめざす。具体的には、(1)社会の中での企業の役割について説明できること、(2)経営学の基礎的な概念を説明できること、(3)実際の企業の事例を書籍、新聞、インターネット等から情報収集することができることをめざす。	
全学 共通科目	教養 基礎	社会科学	現代社会の地理		この授業科目は、世界の南北格差、一国内における人口や産業の一極集中、一つの大都市内における社会的なモザイクなど、地球規模あるいは国際的な諸課題や、国外もしくは国内の地域課題について、地理（学）的な視点から理解を促す科目である。講義にあたっては、ローカルな地域にかかわる諸課題を理解するためには、グローバルな事象との相互作用に着目する必要があること、また、世界各地で生じている類似した課題でもその要因や過程には共通点とともに差異があることを認識させることに配慮する。	
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	物質の究極像		この授業科目は、いくつかのトピックスをとりあげて、物理学の歩みと基本的な考え方、方法を学ぶ。物質は何でできているのだろうか、物質を包んでいる宇宙は何からできているのだろうか、また、我々の住んでいる宇宙はいつ出現したのだろうか、こうした古典的な疑問に対する答えが、この30年間に実証的に得られてきた。こうしたことを理解するために、物質の素というものがそもそも何なのかという問題に立ち返って、物理学的な観点からレビューを行う。	
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	人間と進化		この授業科目は、生物人類学、すなわち生物学的観点に立つて人間を探究するものである。本講義では、まず、生物としてのヒトの特徴、すなわち人体の諸システム（運動、エネルギー、物流・調節、防御、情報等）を学び、ヒトの個体発生、人類の起源と進化といった順に授業を展開する。科学の究極の目的は自分自身を知ることであり、本科目でも、生物としての人間、すなわちヒトとはどのようなものか学ぶことによって、「自らを知ろう」という知的作業につながることが目標である。	
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	脳科学と心		この授業科目は、脳の動きを脳画像によって見ることができるほど飛躍的に発展している脳科学において、記憶や思考、感情などの心理学が扱ってきた心の諸側面について、あるいは、精神疾患・発達障害・認知症などの脳の病気のメカニズムを明らかにする研究など、最新の脳科学の研究成果をもとに、心と脳との関係を考えていく。脳神経科学の基礎的な知識を習得するとともに、それがわれわれの生活や社会にどんな影響を及ぼすかを考察する能力を身につけることを目標とする。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	天文学入門		この授業科目は、もっとも古い学問のひとつであり、また、20世紀後半以来急速な進展を見せた学問でもある天文学について、人工衛星などの飛翔体技術や電波・赤外線・X線などさまざまな波長域での観測手段次々と発見される新しい現象をとりあげながら、私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概観し、また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。	
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	薬はなぜ効くか		この授業科目は、病気の治療、予防に、そして診断に用いられ、人の健康の維持に無くてはならない薬について、歴史的な薬の始まり、最近の科学の発達・医学の急速な進歩のなかで多岐にわたる開発、かつ、作用の多様化、治療面の効果と副作用、結核菌などの病原細菌、ガン細胞にも薬に対する耐性といった点を中心に、薬の種類、作用機序（薬はなぜ効くか）、薬剤耐性（薬はなぜ効かなくなるか）など、“薬”全般について講義するものである。受講生が薬について正しい知識を取得し、それが健康的な生活の一助となることを目標とする。	
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	身の回りの科学		この授業科目は、科学について学ぶ機会の少ない文系学部の学生を対象に、サイエンスのエッセンスを伝えることを目指すものである。科学技術は、現代の人間生活の基本的な衣食住に深く関わっているのみならず、人間が限りなく豊かに生きてゆくことを力強く支えるものでもある。半導体を中心とする物質科学やデジタル技術等の具体的な科学技術の概観を通じて、科学技術のあるべき姿を考察し、その発展を正しく理解し、場合によっては、それに協力できる現代に生きる社会人を養成することを目的とする。	
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	科学史		この授業科目は、「科学」が歴史のなかで果たしてきた役割とその哲学的な意義について検討する。仙台の科学や科学技術では、専門細分化が高度に進み、全貌を捉えることが難しくなっている。それゆえに人間社会に対して科学がどのような役割を果たすべきであるのかを考える機会はどうしても少なくなっている。本科目の履修を通じて、知識の客観性をめぐる真相その他、科学に関する諸問題を、自ら哲学的に捉え直せるようになることを目標とする。	
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	科学技術の発展と歴史		この授業科目は、18世紀後半からはじまった産業革命以降のヨーロッパにおいて、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを、科学技術に関わるいくつかのエピソードを取り上げながら、具体的に論じる。産業革命以降のヨーロッパにおける科学技術の歴史的発展過程に関する講義を通して、科学技術と社会・経済・政治などとの関係、また科学技術の発展構造や方法に関する理解を深めることが本授業の目標である。	
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	サイエンス・トピックス（熱と光の科学）		この授業科目では、身近な現象から熱と光に関わるものを取りあげ、現象を理解すると同時に、さまざまなレベルでの「なぜ」について講義形式で考える。数式の使用は最小限にとどめ、文系の学生でも納得できるようなアプローチで解説する。熱については、温度と熱、エネルギーの保存法則、温度と分子、エントロピー、などの項目を取り上げ、物質の原子論的な観点を強調する。光の現象は波としての性質に注目して、虹、構造色、偏光、などの項目を取り上げる。また、光の粒子としての性質についても言及する。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	教養 基礎	自然科学	サイエンス・トピックス (物質の科学)		この授業科目は、多くの元素がどのように組み合わせられて、そしてどのような性質を示し、身の回りの材料として用いられているかを学ぶ。さらに、環境問題の本質を理解するために環境へ排出される化学物質の物性を理解し、排出削減やリサイクルについて学ぶ。また、この講義ではさまざまな物質の例を通して、科学的な直感を身につけることをも目的としている。さまざまな科学情報が氾濫する現代において、その中から正しいと思われるものを取捨選択する能力を身につけることを目標とする	
		自然科学	サイエンス・トピックス (数の世界)		この授業科目では、微積分をはじめとする解析学などの高度な数学を用いない「初等整数論」についての入門的講義を行い、数の世界のもつ不思議さや美しさの一端を紹介する。一方で、この一見「役に立たない」整数論も近年、現代の通信技術において不可欠な暗号理論に応用されることがわかってきた。最大公約数を求めるアルゴリズムや、べき乗の余りを計算する方法について紹介したのち、講義の後半では、RSA暗号、エルガマル暗号といわれる暗号を中心にその仕組みを解説する。	
		自然科学	サイエンス・トピックス (生命の科学)		この授業科目は、身体、行動や考え方、その基となる脳の構造などさまざまなところに違いのある男女の生物学的な違いを概観し、生命科学の考え方の理解を促す。具体的には、性の定義、性の進化、様々な動物の性、身体的性差の発達メカニズム、行動の性差、脳の性差、子育てと脳、など。男女の生物学的な差異について学ぶことで、違いと類似点を理解する。ひいては男女共同参画社会の実現において不可欠な異性の理解と尊重という態度を養うこともめざす。	
全学 共通科目	教養 基礎	総合	成蹊を知る		この授業科目は、自校史に関わる科目として、成蹊学園はどのようにして誕生しどのような経緯をたどって現在の姿になったのか、本学園の歴史を紐解きながら成蹊のアイデンティティについて考える。教育史における中村春二の業績、岩崎小彌太が成蹊において果たした役割、吉祥寺移転後の浅野成蹊高等学校校長（旧制）の教育理念、第二次世界大戦後の成蹊、成蹊から育った著名な人々、成蹊大学の現状などについて講義を行っていく。あわせて、成蹊学園の教育史におけるESD（持続可能な開発のための教育）の意義について学び、理解を深める。	
全学 共通科目	教養 基礎	総合	大学生活と相互理解		この授業科目は、青年期に生じるさまざまな悩みや課題について、あるいは大学生活で直面する可能性のある危機的な問題に対して、心理的メカニズムを理解するとともに、他人事であるとの認識を超えて向かい合い考えていく科目である。主として大学における学びの意義とアイデンティティ形成、親・友人との関係のとらえ直し、大学生とカルト問題、性の問題、犯罪の問題、依存症（携帯・ゲーム等）、精神医学的な問題、自殺予防、ひきこもり等を取り上げ、これらを通して、良識ある社会人としての人格の陶冶を目的とする。	
全学 共通科目	教養 基礎	総合	武蔵野市寄附講座		この授業科目は、包括的な連携協定を結んでいる武蔵野市から運営経費の補助を受けて開講する科目である。本学で設置している各学部の回り持ちで、担当となった学部が、当該学部の取り上げる専門領域、地域的または社会的トピックを取り上げてテーマを定め、本学教員をはじめ、外部からの有識者等をゲストスピーカーとして招いて講義をおこなう。講義の後の質疑応答も含めて、受講者は自分の専門領域、領域外にかかわらず、現代の地域課題、社会課題に関する知識と理解を養う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通 科目	教養 基礎	総合	総合セミナーA		この授業科目は、1年次以上の6学部の学生たちが協働して考え学ぶ、少人数のアクティブ・ラーニング科目である。ワンキャンパスである成蹊大学の利点を生かしつつ、「主体的・対話的で深い学び」を大学においても強化するために新設される科目である。この科目では特にコミュニケーション能力、ディスカッション能力、意思決定能力、ファシリテーション能力などチームやグループで活動するために必要な能力を、チームワーキングの実践を通して身につけられるようにする。	
			総合トピックス		この授業科目は、「人文学」「社会科学」「自然科学」の各分野を複合的横断的に扱うことが必要な事象や、科目区分「持続社会探究」の下位区分「環境・地域」「国際理解」「人権・共生」「実践」のうち1区分におさまりきらない現代的諸課題などを取り上げて講義をおこなうものである。たとえば、成蹊大学に設置されている各研究センター（アジア太平洋研究センター、サステナビリティ教育研究センター、Society 5.0研究所等）が主となり、各センターでの取り組みや研究成果を教育に反映させることで、本学における研究活動について学ぶながら、当該分野への理解を深めるようにする。	
全学 共通 科目	教養 基礎	総合	海外言語文化研修A		この授業科目は、比較的長期間（3～4週間程度）にわたり本学が協定を結ぶ海外の大学で留学する者を対象に、事前学習、現地研修、事後学習を通じ、英語による高度な言語運用能力やコミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化に対する深い理解と適応する力を確実なものにすることを主たる目的とする。 まず学内での事前学習では、海外研修に参加するにあたっての必要な準備や危機に対する心構え、安全対策、異文化理解の基礎的な概念などの準備学習を行う。 続く現地研修では、海外大学の機関が提供する英語・文化プログラムを受講し、異なる言語、文化背景、価値観等を持つ人々とのディスカッションやグループワーク等を通じて、多様な違いを理解し、尊重し、受容する力を涵養するとともに積極性や互いの違いを活かす協調性、自分の意見や考えを的確に発信できるより高度な言語運用能力、実践的なコミュニケーション能力を身につけること、留学先の社会や文化の理解を深める。 そして、留学による学習効果を最大限に高めるために、帰国後の事後学習で、現地研修で得た学びを振り返る作業を行う。	
			海外言語文化研修B		この授業科目は、2週間程度、本学が協定を結ぶ海外の大学で留学する者を対象に、事前学習、現地研修、事後学習を通じ、英語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 まず学内での事前学習では、海外研修に参加するにあたっての必要な準備や危機に対する心構え、安全対策、異文化理解の基礎的な概念などの準備学習を行う。 続く現地研修では、海外大学の機関が提供する英語・文化プログラムを受講し、異なる言語、文化背景、価値観等を持つ人々と共に学ぶことを通じて、多様な違いを理解し、尊重し、受容する力を涵養するとともに自分の意見や考えを的確に発信できる言語運用能力、実践的なコミュニケーション能力を身につけること、留学先の社会や文化の理解を深めることを目標とする。 そして、留学による学習効果を最大限に高めるために、帰国後の事後学習で、現地研修で得た学びを振り返る作業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	教養 基礎	総合	海外言語文化研修C		この授業科目は、本学が協定を結ぶ海外の大学（英語以外の外国語圏）で留学する者を対象に、事前学習、現地研修、事後学習を通じ、派遣先のプログラムの学習言語によるコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 まず学内での事前学習では、海外研修に参加するにあたっての必要な準備や危機に対する心構え、安全対策、異文化理解の基礎的な概念などの準備学習を行う。 続く現地研修では、海外大学の機関が提供する語学・文化プログラムを受講し、異なる言語、文化背景、価値観等を持つ人々と共に学ぶことを通じて、多様な違いを理解し、尊重し、受容する力を涵養するとともに自分の意見や考えを的確に発信できる言語運用能力、実践的なコミュニケーション能力を身につけること、留学先の社会や文化の理解を深めることを目標とする。 そして、留学による学習効果を最大限に高めるために、帰国後の事後学習で、現地研修で得た学びを振り返る作業を行う。	
			短期海外研修		この授業科目は、本学が指定するインターンシップやボランティア、フィールドワーク等の実習プログラムに参加する者を対象に、事前学習、現地研修、事後学習を通じ、実践的なコミュニケーション能力の向上ならびに異文化に対する理解力や適応力を養うことを主たる目的とする。 まず学内での事前学習では、海外研修に参加するにあたっての必要な準備や危機に対する心構え、安全対策、異文化理解の基礎的な概念などの準備学習を行う。 続く現地研修では、インターンシップやボランティア、フィールドワーク等の実習プログラムに参加し、異なる言語、文化背景、価値観等を持つ人々との協働を通じて、多様な違いを理解し、尊重し、受容する力を涵養するとともに積極性や実践的なコミュニケーション能力を身につけること、研修先の国・地域の社会や文化の理解を深める。 そして、留学による学習効果を最大限に高めるために、帰国後の事後学習で、現地研修で得た学びや成果を振り返る作業を行う。	
			総合セミナーB		この授業科目は、2年次以上の6学部の学生たちが協働して考え学ぶ、少人数のアクティブ・ラーニング科目である。ワンキャンパスである成蹊大学の利点を生かしつつ、「主体的・対話的で深い学び」を大学においても強化していくこととし、学生の関心の高い分野、本学で今後特に注力する分野などをピックアップして、少人数で実践的に学ぶことで、当該分野の深い知識を得て理解を深めるようにする。取り上げるテーマの例としては、カウンセリング、サステナビリティ、地域連携など様々なものが考えられるが、学生のニーズ等を勘案しながら適宜設定する。	
			地球と環境		この授業科目では、太陽系や地球環境のしくみを、地球科学的な視点から基礎的な事項を中心に学び、46億年前から現在までの間に、地球がどのような変化をとげてきたか、そして生物はその変化の中でどのように発生・進化してきたのかについて、理解を深めることを目的とする。具体的には、①地球の歴史と人類出現と近代化以降の急激な環境変化、および各種の地球環境問題とそれに対する国際的な動向について説明ができること、②身近な自然環境の見どころを理解し、自然に対する興味を維持・増進することができること、③健全な自然を後世へ伝承する大切さを理解し、これからの世界がどう進むべきかを、自らが考えることができることを目標とする。	
全学 共通科目	持続社会 探究	環境・ 地域				

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	気象と地球環境		この授業科目は、気象・気候および地球環境問題を理解するために、身近な大気の現象から、気象災害、地球規模で発生する現象や地球温暖化問題などをトピックとして取り上げ、気象学と気候学の基礎的な事項の理解を中心に学習する。具体的には、①大気の現象を物理的なメカニズムから理解し、説明できるようになること、②気象にとどまらず身近な環境に興味を持ち、さらに災害に備える意識を個々に持つこと、③地球規模で進む温暖化対策の国際的な動向について説明ができることを目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	エネルギーと環境		この授業科目は、私たちが生きていくために無くてはならない「エネルギー」の様々な形態と、私たちをとりまく「環境」から生み出されるエネルギーについて理解し、現在、「環境問題」や「エネルギー問題」と呼ばれている社会課題について考えることを目的とする。例えば、エネルギーには1次エネルギーと呼ばれる、石油、天然ガス、石炭、薪、水力、原子力、風力、潮力、地熱、太陽光など、自然から直接採取できるエネルギーがある。1次エネルギーを転換・加工することで得られる電力、都市ガス、ガソリンや灯油などを「2次エネルギー」と呼ぶ。どのようにエネルギーを得ることが望ましいかは、地球環境の保全といった観点からだけではなく、エネルギー自給率やエネルギー安全保障といった観点からも考える必要がある。本授業では、エネルギーに関する基本的な知識から、現在、未来のエネルギー利用などについて概説する。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	日本列島の歴史と災害		この授業科目は、日本列島が形成されたプロセスについて理解した上で、そのプロセスゆえの災害上のリスクについて考える。近年のウラン-鉛年代学の進歩により、これまで形成年代が不明だった地質体の位置づけが明らかになったことで約6億年にわたる日本列島形成史のデファクト・スタンダードが生まれつつある。こうした現状を踏まえて、本授業では最新の研究を踏まえた日本列島の特徴を多くの画像で理解し、その恩恵と表裏一体で発生する災害について考察することを目指す。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	日本の国土と社会		この授業科目は、グローバル化の進展によって、地球上で進行する地域秩序の再編、それに伴い変貌する地域の社会経済や人びとの暮らしの在り方を概観する。具体的には日本を対象にして、日本の産業活動の空間的構成の変容を講義するとともに、日本の地帯構成を念頭においた上で、標識的な地域の事例を踏まえつつ、それぞれの地帯における地域変容や地域問題の理解へとつなげていく。また、あわせて、地理学的なフレームワークや地図がグラフ類の表現法を学んでいく。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	自然環境と文明		この授業科目は、過去の自然環境と文明に起こった変化がどのように関連していたのかを考え、さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていく。これまで地球の自然環境が複雑なシステムがバランスをとりながら、うまく循環してきたものの、人間が文明的な活動を始めた時から、人間は環境に様々な影響を与え、近年はそのバランスが崩れ、様々な環境問題が生じている。このことをふまえ、本授業では現代文明がもたらした環境変化を理解することから始め、また世界の気候変動史を学んだ上で、農耕と文明、森林と文明、火山噴火と文明、歴史時代の気候と文明といったトピックスを扱う。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	外国の自然と社会（欧米）		この授業科目では、EU諸国およびアメリカ合衆国などの先進諸国における諸国土と社会について地誌学的見地から概説する。まず、対象地域における自然環境の多様性を踏まえた上で諸国土の成り立ちについて理解する。その上で、言語・民族・慣習の多様性、国民国家形成と国民統合のメカニズム、産業化と都市化の軌跡、EU、NAFTA等の経済統合とそれに伴う社会経済的諸課題、域内経済格差とそれを是正するための地域経済政策について考えていく。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	外国の自然と社会（アジア）		この授業科目では、モンスーンアジアの諸国土と社会について地誌学的な見地から概説する。東・東南アジア諸国における外資導入に基づく輸出指向工業化政策の進展によって、アジアは世界経済において大きな役割を担うようになっていく。その中で、アジアの諸地域は、急激な地域変容と社会変動を経験している。本科目では、グローバルな秩序の下に再編しつつあるアジア諸国を対象に、その空間像を理解させるとともに、具体的な事例を挙げつつ、アジアにおいて生起している地域変容および地域問題の理解へと結びつけたい。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	地域づくり論		この授業科目は、地域づくりを念頭に置いた地域調査の方法と地域活性化のための実際的な方法について考える。地域経済・地域社会の活性化の方法は、社会の変化に応じて変化するが、雇用の確保、人口の安定、社会・生活条件の整備から始まることに変わりはない。雇用、人口、生活の3つの視点に注目した地域づくりの調査方法と地域活性化の内容を考えていきたい。検討する地域としては、被災地域、大都市地域、地方圏都市地域、人口減少地域の4つを取り上げる。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	環境科学トピックス（生命と環境）		この授業科目では、生命の進化と環境への適応について、生物の視覚と体色の進化を中心に学習する。まず、生物と進化、光と色などの基礎的な知識を習得したうえで、物が見えるしくみや生物の体色について様々な事例をとりあげて理解を深める。具体的には、①生命の進化、適応について理解し、説明できるようになること、②光、色の特性と環境を理解し、説明できるようになること、そして③生物の形質についての論理的考察ができることをめざす。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	環境科学トピックス（食料と環境）		この授業科目は、人類が生存するために最も必要な食料および食料生産環境について、安心・安全な食料や健康・衛生環境と関連付けながら、グローバルな視点から理解を深めることを目的とする。具体的には、①世界や日本における環境問題について基本的な知識を習得すること、②白書や国際機関の報告書をもとに、現代の日本および世界の食料生産と需給状況を読み取り、説明できるようになること、③安心・安全な食料の確保に向けた取り組みについて、自らが考えることができることをめざす。	
全学共通科目	持続社会探究	環境・地域	環境科学トピックス（環境保全と住環境の現在・未来）		本授業科目では、「人類の生存/生活にとって大切な環境」について理解を深めることを目的とする。特に、私たちの身の回りの自然環境や、都市環境、水環境等について理解する。SDGs17の目標の中で、主に、目標11「住み続けられるまちづくりを」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標15「陸の豊かさを守ろう」に関連した話題を取り上げる。さらに、南極や宇宙での居住空間構築のための取り組みを知ることにより、未来の住環境について考える。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	戦後の日本と世界		この授業科目は、第2次世界大戦後の日本と世界の歴史を学ぶことで、国際化の時代に相応しい素養の一つを身につけ、あわせて専門科目学習の基盤を作ってもらいたいとしている。特徴は日本史、世界史（大学では西洋史、東洋史）という区分をせず一体のものとして、大きな歴史の転換点となった戦後について、国内政治史、国際情勢と日本外交史、戦後日本の復興と経済発展、日本企業と世界の関係、日本社会の変化など多彩な視点に基づき概説する。ビデオ教材を用い、映像によって理解をリアルなものにするようにする。この授業を通して、戦後の日本と世界に関する知識を修得し、現代社会がよって立つ背景を理解することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	持 続 社 会 探 究	国 際 理 解	近現代のアジア		この授業科目では、19世紀から20世紀までの東アジア（日本・中国・朝鮮・琉球・ベトナム等）を中心とする近現代史の概説を学ぶ。東アジア諸国は19世紀なかば以降、近代化・植民地化・冷戦・グローバル化などを通してつねに激動の渦中にあり、国際政治・国際経済からさまざまな影響を受けるのみならず、東アジア諸国から世界に向けて大きな影響を与えることもあった。東アジアを中心とする近現代史を学ぶことは、現代アジアの国際政治・国際関係・文化交流の前提を理解する上で必要不可欠である。	
全学 共通科目	持 続 社 会 探 究	国 際 理 解	近現代のヨーロッパ		この授業科目は、現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパ諸国の歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくることを目標とする。本講義では、主に 19 世紀以降のヨーロッパ（とくにイギリス、フランス、ドイツ）の歴史に関して、新大陸への移民、フランスの市民革命、産業資本主義の成立、帝国主義と第一次世界大戦、世界恐慌とファシズムといったトピックでたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。	
全学 共通科目	持 続 社 会 探 究	国 際 理 解	近現代のアメリカ		この授業科目は、現代世界を理解するうえで重要な近現代のアメリカ合衆国の歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくることを目標とする。本講義では、主に 19 世紀以降のアメリカ合衆国の歴史に関して、南北アメリカ大陸への移民、奴隷制と南北戦争、アメリカ西部開拓と先住民、二つの世界大戦と少数派集団、公民権運動と人種・ジェンダーといったトピックでたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。	
全学 共通科目	持 続 社 会 探 究	国 際 理 解	中東地域史		この授業科目は、現在においても、過去にさかのぼってみても、つねに国際政治、国際経済、そして文化交流の一大焦点でありつづけてきた中東地域（西アジア・北アフリカ）に関し、中東地域の「いま」を理解するためには、この地域の過去（歴史）を知らねばならないという観点から、「イスラーム史」の基本的な流れの確認から始めて、それを批判的に検討しながら「いま」に適用する中東地域史の総合的理解をめざすことを到達目標とする。	
全学 共通科目	持 続 社 会 探 究	国 際 理 解	近現代のアフリカ		この授業科目では近現代のアフリカを課題とともに可能性の観点で考察する。政治・経済・社会の課題を検討しつつ、これらを国連のSGDsとの関連で考える。しかし、現代のアフリカは貧困だけで論じられるものではなく、高い潜在性や、グローバル・サウスにおける発言力といった側面も見なければならない。本講義では植民地時代から21世紀にかけてのアフリカを概観するとともに、現在の世界におけるアフリカの役割を再検証することを目標とする。	
全学 共通科目	持 続 社 会 探 究	国 際 理 解	現代の国際政治		この授業科目は、国際関係の主に政治的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。ウクライナ戦争そしてイスラエル・ガザ戦争を典型として、世界は再び武力衝突の時代を迎えつつある。どうして戦争は起こるのだろうか、正しい戦争はあるのだろうか、国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうか、グローバリゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか、情報革命は私たちの国際社会へのかかわり方をどのように変えているのだろうか、グローバル化の中で各国の内政はなぜ不安定化するのだろうか、こうした課題に対し、本講義では、理論と歴史の両面から考えていく。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	グローバル経済論		この授業科目は、国際関係の主に経済的側面についての基礎知識を学ぶことを目的とする。日本経済は1990年代に急激なグローバル化の只中におかれるようになり、国民経済の枠を超えて国際経済のなかで自国経済をみつめる必要がこれまで以上に大きくなった。本講義では、現代的グローバル化というものがどういう特質をもつものなのかを理解した上で、リカードの比較生産費説をはじめとする自由貿易を推進する諸思想にふれ、ブレトンウッズ体制の形成と崩壊といった制度的側面の変遷を追う。また、直接投資と多国籍企業の理論と実際を学び、世界経済の3極化とさまざまな国際的な経済連携協定の意義と役割について考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	国際文化交流論		この科目では、21世紀の世界における共生と創造的発展のありかたを考える一環として、国際文化交流の意義と現状を概説する。人・モノ・情報の越境移動にともなって拡大する「現象としての文化交流」を視野にいれつつ、さまざまな主体がおこなう「事業や活動としての国際文化交流」を扱う。授業においては、国際文化交流の歴史的展開、各種交流の具体例、ジャンルや担い手別の特徴などを紹介するとともに、交流の目的や効果、企画や実施の体制、評価等を検討する。その過程で、文化の本質、新しい価値観の創造、広い意味での「国益」との関係などについても考察する。	
全学共通科目	持続社会探究	国際理解	異文化理解トピックス		この授業科目は、様々な言語圏の文化、社会、歴史、生活習慣や風習、地域ごとの特色（言語、歴史、風習、祭り、芸術、食文化等）に対する理解を深めることを目標とする。文化の多様性や文化の形成過程等を理解し、日本の状況と比較しながら、グローバル社会における多文化共生のあり方を考える。同時に、外国の文化や社会の様相、および日本との共通点・相違点について、客観的に考察する力を身に付ける。さらに、課題等を通じて、必要な資料を収集・整理し、自分なりの視点で分析する力も養う。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	裁判と社会		この授業科目は、日本や諸外国の裁判制度の概要を理解し、それが社会に及ぼしている影響を考察することを目的とする講義である。裁判員制度の創設により、法律の専門家ではない一般の市民も裁判に関わる可能性が生じている。裁判員制度は重大な刑事事件のみを対象とするものであるが、現代社会における法の役割の高まり（さらに、セクハラ訴訟や知的財産権をめぐる訴訟など、企業が裁判に巻き込まれるケースの増加）をも考えるならば、社会人になろうとするすべての学生は、広く民事・刑事の両分野の裁判について一定の知識を持っていることが必要であることを認識してもらうことが目標である。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	人権とジェンダー		この授業科目は、ジェンダー学に関する基礎的な知識から学び、社会をより良くするため広い視野から思考し、判断する力の修得を目指す。ジェンダー関連の学術用語やジェンダー学説史を正しく理解し、日本の状況についての理解を深める。さらに、社会で働くうえで必要な実践的なコミュニケーション・スキルを身につける。さらに、世界のジェンダー問題から複眼的な視点で社会を見る力を養い、実学として「使える」ジェンダー論を学ぶ。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	福祉社会に生きる		この授業科目は、現代社会におけるさまざまな社会福祉政策について学ぶ。少子高齢化の進展は、ケアや支援を必要とする人の増加をもたらすが、社会福祉政策の対象は高齢者に限らない。授業では、どのような人たちに支援が必要なのか、なぜ必要なのかを考察する。具体的には、排除と包摂、ニーズと需要、資源の再分配、福祉の担い手、福祉国家の国家間比較といった切り口から「福祉社会」について学び、今後どのような社会像を描けばよいのかを考える。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	教育学概論		この授業科目は、教育に関する基本的事項を幅広く取り扱う。すなわち、人間の発達についての基本的な考え方や、人間の学習・動機付けといった教育場面における人の行動という心理的事項、6・3・3制といった教育目的を実現するための法制度という制度的事項、日本や世界において実践されてきた教育の実際や教育理念を支える思想といった歴史的、思想的事項、教育をめぐる様々な問題の現状や背景分析という社会学的事項、2か国以上の国の現在の教育のあり方を比較する比較学的側面などから幅広く学ぶことを通して、人間や社会に関する知見を広げ、今後の人間や社会のあり方について考察を深めることを目的とする。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	身体と教育		この授業科目は、「心身一如」をキーワードとするような、人間形成の在り方について取り扱うことで、中村春治の教育思想の現代的展開の一端に触れる。近代に始まった学校を中心とするような次世代育成の在り方＝教育の土台には、人間を人間たらしめるものは人間の精神であり、精神は身体に優越するとの考え方がある。それ故に、身体は精神に対立するものであり、身体を精神的に克服することが目指されてきた。こうした近代教育思想とは異なる、例えば、「身構える」という言葉に含意されている「身」や、コミュニケーションメディアとしての「身体」など、心身二元論とは異なる思想に基づく人間形成の在り方を学ぶことで、人間と社会のあり方について考察を深めることを目的とする。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	イノベーションの歴史と現代		この授業科目では、ビジネスや社会活動の発展に不可欠なイノベーションの歴史について考察する。イノベーションはいかにして起こり、どのように商用化や政策に組み込まれていったのか。技術革新が起きる現象を広く産業革命と捉えて、現実の多様な事例を見ながら産業革命の進展と世界経済の変遷について理解を深めていく。この授業では、以下の力を修得することを目指す。1) 技術革新を推進した社会的、文化的、環境的な要因、及びイノベーションが波及したプロセスについて知識を得る。2) 自分自身がイノベーションを生み出すための起業家精神のあり方について、理解を深める。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	生命倫理と法		この授業科目は、安楽死や人工妊娠中絶などの伝統的な問題だけでなく、遺伝子工学や医療技術の進歩によって、遺伝子検査と個別化医療の普及に伴う患者の「データ化」、ES細胞を用いた研究に特有の倫理的問題など、生命倫理に関する問題の急増、それをめぐる立場の対立といった現代社会の状況を踏まえ、法的にこれらの問題に対してどのように取り組んでいけばよいかを学生自身に考えさせることを目的とする講義である。現行法の解釈やこれからの法的枠組みの整備の方向性などについて、なるべく多くの具体的な事例を通して考えていく。	
全学共通科目	持続社会探究	人権・共生	地域福祉論		この授業科目は、地域社会を基盤として共助を進めることに関する基礎的な知識を学ぶ。日常生活で生きづらさを感じた時、「自分で何とかする（自助）」か「政府や地方自治体などに助けてもらう（公助）」の二択で考えられることが多いが、「人々がお互いに助け合う（共助）」ことは、今後さらに重要になってくると考えられる。授業では、地域福祉の理論と事例を学び、自分たちの住んでいる地域における地域福祉のあり方を構想する。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	持続 社会 探究	人権・ 共生	高齢者福祉論		この授業科目は、ディスアビリティ、家族・親族、人間関係、経済活動、世代間格差、自己決定といった切り口から「老い」について考察する。また、現代社会における「老い」と「福祉」について、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、様々な地域の実例から論じる。高齢化率が上昇していく社会を生きる私たちが、「老い」のもたらす社会問題に直面したときに参考になるような事例を知ることを通して、望ましい社会福祉のあり方とは何かをとともに考える。	
			こころの健康と臨床		この授業科目は、臨床心理学の知見から、福祉・教育・医療などのヒューマンサービスにかかわる活動（仕事）や対人的なボランティア活動などを視野に入れた、人への支援活動に必要な心理学的な知識とスキルを学ぶことを目的とする。具体的には、臨床心理専門活動の実際（スクールカウンセリング、災害・犯罪・虐待などの被害者支援、高齢者やH I V感染者への援助、子育て支援など）を紹介し、心理アセスメントと心理療法・コミュニティアプローチについて講じる。	
			共生社会トピックス （アートと社会）		この授業科目は、アートがそれ自体としてもつ価値に加えて、それが社会に及ぼす影響や効果についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていく。特に、「アーティスト」と、アートを「享受する人」（観客、愛好家、市民など）の間に立ち、アートと一般の人々をと「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域やさまざまな組織などにおいてどのような活動を展開しているのかを探る。	
全学 共通科目	持続 社会 探究	人権・ 共生	共生社会トピックス （日本女性史）		この授業科目は、日本史において女性がどのように活躍してきたかについて考えていく。これまでの歴史学は、文化の担い手を考えるうえで女性を取り上げられることがあったものの、こと政治・経済分野においては男性の活躍が描かれることが多かった。しかし近年、ジェンダーの視点を踏まえた研究が進展し、女性も政治や経済の分野で活躍していたことが明らかになっている。そこでこの授業では通史的な観点から、いかに女性が活躍し、また、女性が政治・経済・文化のなかでどのように位置づけられ、どのような役割を果たしたのかを、現存する各種史料に基づいて考察することを目標とする。	
全学 共通科目	持続 社会 探究	実践	情報保障とボランティア		この授業科目は、大学に学ぶ多くの障がい学生が直面する「情報取得」の困難について知り、それを軽減するための「情報保障」の考え方を学ぶ。障がい学生にとって学びやすい環境は、一般学生にとっても学びやすい環境だと言える。授業では、成蹊大学を含むいくつかの大学で行われている「情報保障」の実例（聴覚障がいを持つ人に対して行われるノートテイク、手話、視覚障がいを持つ人に対して行われる点字テキスト）をあげながら、障がいのある学生もいない学生も授業に積極的に参加できる情報保障、支援方法について、具体的に学ぶ。	
全学 共通科目	持続 社会 探究	実践	野外自然教育論		この授業科目は、多くの人が自然を感じ、それを共有するための方法について考察し、実践することを目指す。現代において、「自然災害に立ち向かう」という表現に見られるように、人間と自然を対置しようという意識は強い、しかし、本来、人間や人間社会も宇宙や地球のシステムの一部に内包されているものである。屋内の人工的な環境の中では、人間が自然のシステムの一部であることは分かりにくい、都市部でも野外に出ることで、少しの工夫で自然のシステムを実感することができるようにする。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	持続社会探究	実践	地元学実践演習		この授業科目では、地域を理解する＝地域の実態を把握するための手法を演習方式で学ぶことを目的とする。地域を知することは、社会の一員として、その地域の課題に気づき、解決のため行動したり、環境や災害などの観点から、持続可能な地域づくりに関わりをもつ主体になるためにも必要である。そこでこの授業では、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）を、わたしたちが生活する身近な地域や他の地域における、まちづくり、地域資源プロデュース、コミュニティ防災等を題材として具体的に学ぶ。	
			武蔵野地域研究		この授業科目は、成蹊大学の位置する武蔵野市やその周辺地域の地域社会について、複数のゲストスピーカーによる講演を交えて講義する科目である。まずは地域概要を理解することから始め、NPO、コミュニティ活動、公的機関、教育機関、商店街などの関係者の講演によって、地域の課題を理解し、どのような取り組みが行われているのかについて、学んでいく。授業担当者、ゲストスピーカー、受講者の間での積極的な意見交換をすることで、深い理解を促していく。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊グローバルセミナーA		この授業科目では、文化や言語の異なる海外からの留学生と日本人学生が一緒になって、どのように異なる文化の人間が理解し合い、共生できるかについて学ぶ。より良い仕事や教育を求めて、人が国家間を移動することが普通になり、移民先進国では、ルーツの異なる同僚や隣人が当たり前となった。「異文化間コミュニケーション」も、「外国人との英会話」に留まらない、多様な価値観との互惠関係の構築を意味するようになった。「成蹊グローバルセミナーA」では、その基本となる異文化間コミュニケーション論の基本概念をゲームやケース学習をしながら学ぶ。そうして受講者が、情報収集・発信スキル、異文化間協働スキル、グループの中で他メンバーの能力を引き出すファシリテーション・スキルを磨けるようになることを目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	成蹊グローバルセミナーB		この授業科目では、文化や言語の異なる海外からの留学生と日本人学生が一緒になって、どのように多文化の人間が支え合い、理解し合い、受入れ合えるかを学ぶ。より良い仕事や教育を求めて、人が国家間を移動することが普通になってきて、多くの国では、多人種からなる自国人が普通となり、肌の色が違うから外国人だと思い「どこから来たの?」と聞くことがmicroaggressionsとしてタブー視されるようになった。そのような状況に対応するためには、地域に関する正しい知識と理解を身に付けることが必要である。「成蹊グローバルセミナーB」では、フェイクニュースや戦争プロパガンダを含む、マスメディアが流す情報との付き合い方を主に学ぶ。メディア・リテラシーのスキルを学び、世界が共有する問題を正しく理解することによって、受講者が偏見や差別意識を持たずに国内の多文化共生社会や国外の国際社会に参加するための正しい意識や能力を養うきっかけをつくることを目標とする。	
全学共通科目	持続社会探究	実践	Global Seminar I		この授業科目は、国境を超えて平和的で持続可能な社会を維持するため、グローバル市民として必要な基礎知識・姿勢を育成することを目指す。「グローバル社会」とはいったい何を意味するのか、異なる背景を持つ他者とどう共存していくかという問いについて様々な角度（言語、文化、民族、宗教、政治、経済、ビジネス、環境など）から考える。こういったグローバルな思考力を養うために、英語によるディスカッションやライティングなどを通してアウトプット重視の訓練を行う。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学 共通科目	持 続 社 会 探 究	実 践	Global Seminar II		この授業科目は、グローバル社会において、多様な背景を持つ人々との相互理解を促進するため、自国の文化や社会事情などについての発信力を身につけることを目的とする。自国の文化は、身近であるがゆえにかえって説明できないことが多々あるが、日本文化論や、海外と比較した日本の姿などを通して、日本の文化・社会の特性についてより客観的に見つめ直し、理解を深める。こういったテーマを海外に向けて英語で発信できる力を身につけるために、英語によるプレゼンテーションやライティングなどを通してアウトプット重視の訓練を行う。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
			Global Seminar III		この授業科目は、Global Seminar I および IIにおいて学んだことを踏まえて、グループで身の回りの「課題」や「問い」を提起し、それを解決する方策を提案することを目指す。プロジェクト型の授業としてさらに能動的・実践的なアウトプット活動を目指し、チームで成果を出すために協働して課題解決のためのディスカッションを行い、最終提案のプレゼンテーションを行う。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専 門 科 目		ゼミ ナ ー ル 科 目	アカデミック・スキルズⅠ	○	この授業科目では、1年次学生が、今後の学修生活を有意義に送るために必要となる基本的なスキル(技法)等について学修する。今後の深い学修に至るための導入として、資料収集の方法やパソコンによる資料・データ管理、レポートの書き方など、実践的なスキルについて学修する。また、様々な大学施設(図書館、高等教育開発・支援センター、学生サポートセンター、大学保健室など)の利用方法や情報セキュリティ、情報・研究倫理、防災や安全・健康管理の基礎知識などについても学修する。	
			アカデミック・スキルズⅡ	○	本授業は、学生の自主性を尊重した少人数ゼミとして、多様な分野の教員によって担当される。受講する学生の興味や担当教員の専門性を考慮し、担当教員と受講学生によってゼミのテーマを決定する。テーマに応じた資料・データなどの検索、収集、整理、整理した資料・データの分析・解析等を随時行い、資料・データの内容や疑問点などについてディスカッションする。学生は各自の考えをレポート・論文としてまとめる。レポート・論文作成後、その内容に基づくプレゼンテーションを実施する。これらの一連の作業により、問題意識の整理、資料収集、分析、考察、まとめ(結論)へと至るプロセス、方法を学修する。	
専 門 科 目		ゼミ ナ ー ル 科 目	英語文献購読	○	この授業科目は、国際日本学や環境サステナビリティ学など専門分野に関する英語の学術論文や専門書などの基礎文献の読解し、基礎理論を学ぶ。専門用語やアカデミックな表現の理解、英語文献の要約・分析・批評のスキルを鍛え、英語による論理的思考や批判的な読解能力の修得を目的とする。またテキストの理解に必要な情報収集や調査方法を学び、専門分野の研究手法や論点の理解を深め、最先端の研究動向を把握する。さらにディスカッションやグループワークを取り入れ、異なる視点やアプローチを理解し、学際的な知識を構築することを目的とする。	

授業科目の概要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミナール科目	演習I	○	この授業科目は、専門分野における研究能力や批判的思考を養う科目である。学生は、個人またはグループの興味関心にもとづいて研究テーマを設定し、資料収集の方法や研究テーマの背景などを理解し、それに基づいて研究計画を策定するスキルを身に付けることを目的とする。具体的には、文献調査や資料収集を行い、研究方法や分析手法の選定にも取り組み、次年度に卒業研究を実施するための基礎力を養う。最終的に、文献調査の成果や研究計画に関する内容をレポートにまとめ、発表を行う。	
専門科目	ゼミナール科目	演習II	○	この授業科目は、専門分野における研究能力や批判的思考を養う科目である。演習Iで実施した文献調査や策定した研究計画にもとづいて、実験や調査、データ収集を行い、得られた結果から考察を深める。また、研究の中間・最終報告などを通じて、学生同士がフィードバックを行い、議論を通じて自己成長を促進する。最終的に、研究成果をレポートやポスターとしてまとめ、報告する。次年度に実施する卒業研究を見据えて、研究の倫理や学術的な論文の執筆方法、プロジェクト管理などのスキルも身につける。	
専門科目	ゼミナール科目	卒業研究I	○	この授業科目は、学生がこれまでに身に付けた専門的知識をもとに、独自の研究プロジェクトを計画し実行する科目である。演習I・II で修得したスキルをもとに、学生は自身の興味や専門分野に基づいてテーマを選び、関連する文献調査を行い、研究計画を立案する。指導教員からアドバイスを受けながら、研究の方向性や方法論、データの収集方法を検討し、卒業研究の枠組みを明確化する。定期的に学生同士で研究の進行状況をプレゼンテーション形式で共有して意見交換し、研究の進め方の参考にする。	
専門科目	ゼミナール科目	卒業研究II	○	この授業科目は、学生がこれまでに身に付けた専門的知識をもとに、独自の研究プロジェクトを計画し実行する科目である。卒業研究Iで策定した研究計画にもとづいて、データの収集・分析を行いながら課題に取り組み、必要に応じて調査や実験を行い、得られた結果を評価・解釈する。研究成果を論文やプレゼンテーションにまとめ、他者からのフィードバックを受けることにより考察をより深化させる。学生は研究成果を総括し、結論を導き出すとともに、自身の学びや成長を振り返る機会となる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	国際共創入門	基盤 科目	本授業科目は、本学部で学ぶための問題意識を身につけるための導入科目であり、基幹教員のうち14名がそれぞれの専門分野での研究トピックを紹介するオムニバス方式の講義科目である。また、オンデマンドの動画配信によるメディア授業として運営する。実施にあたっては、毎回の課題提出とそれに対する教員からのフィードバックを必須とする。扱う内容と担当者は、次の通りである。(オムニバス方式／全14回) (11 寺本敬子／1回)「異文化交流」に関する研究入門として、19世紀後半から20世紀前半にかけてのバリ万国博覧会を契機にした日仏文化交流が、ヨーロッパにおけるジャポニズムの形成について果たした役割を考察する。 (9 平山美樹子／1回)「日本美術」に関する研究入門として、近代期の日本において描かれた絵画作品のうち一つを取り上げ、その表現手法に、西洋美術や東洋美術の影響が読み取れるのかを考察する。 (17 BARANIAK-HIRATA Zuzanna Maria／1回)「日本のポップカルチャー」に関する研究入門として、宝塚歌劇団を扱い、同歌劇団がいかに夢を売り、夢を描くビジネスを確立してきたのか、また、その結果として、いかなる「ファン文化」がもたらされたのかを考察する。 (16 THOELN Saskia／1回)「日本の生活文化」に関する研究入門として、生活文化の中でも被服文化、とくに和装を取り上げて、着物が取り持つ文化交流とコミュニティ形成について考える。 (15 山下順子／1回)「日本の言語文化」に関する研究入門として、外国人の日本語学習者の増加の背景を考えた上で、日本語学習者に立ちほかかる困難、逆に日本語教育者が遭遇しがちな困難について考える。 (5 大槻茂実／1回)「共生社会」に関する研究入門として、東京の郊外地域における外国籍人口の流入に伴う社会変動と地域共生社会の実現に向けた取り組みを紹介する。 (8 高橋珠州彦／1回)「地域創生」に関する研究入門として、身近な地域における地域資源について考えていく。事例地域には、本学の位置する武蔵野市吉祥寺地区を取り上げる。 (6 小田宏信／1回)「グローバル経済空間論」に関する研究入門として、世界都市化に向けた都市開発戦略をとってきた東京の変容とそれに伴う諸問題について考える。 (10 小室謙／1回)「サステナブル観光論」の研究入門として、サステナブル・ツーリズムの基本的な考え方を概説するとともに、持続可能性という見地からの観光振興に取り組む国内外の地域事例を紹介する。 (18 三宅良尚／1回)「食と農の環境学」の研究入門として、国内外における有機農業や環境再生型農業の実践事例を紹介し、一方で現代の大量生産型の農畜産業の環境負荷の高さを考えていく。 (4 植木岳雪／1回)「地形地質・防災論」に関する研究入門として、地質図や土地条件図等を用いて東京の地形・地質環境の多様性を理解した上で、いかなる土地条件において自然災害上のリスクが高いのかを考える。 (2 財城真寿美／1回)「気候変動論」に関する研究入門として、成蹊気象観測所の約100年の観測データの分析に基づいて、ヒートアイランド現象と呼ばれるような都市気候の変動がいかにもたらされてきたのかを考える。 (1 藤原均／1回)「グローバル地球環境学」に関する研究入門として、極地および高緯度地方に出現するオーロラの観測が地球の歴史の解明や地球の将来の予測に果たす役割について考える。 (7 高瀬将道／1回)「情報環境学」に関する研究入門として、応用数学の一分野である位相幾何学(トポロジー)が自然界の理解や社会における諸種の空間的なネットワークの理解にどのように有用かを初歩的な事例を通じて考える。	オムニバス方式
共通 文理				

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	基 盤 科 目	共 通 文 理	Intercultural Communication	○	この授業科目は、英語コミュニケーション能力育成の一環として、異文化理解・コミュニケーションに関する基礎的な知識や具体例などを学ぶことを目標とする。海外留学や研修も視野に入れ、自分とは異なる背景を持った他者とのコミュニケーションにおいて、どのようなポイントに注意すべきなのか（ステレオタイプ、コミュニケーションスタイル、ノンバーバル・コミュニケーション、カルチャーショックなど）を、特に英語を媒体とした交流に主眼を置いて実践的に学んでいく。なお、この科目は原則として英語で授業を行う。	
専門 科目	基 盤 科 目	共 通 文 理	データサイエンス基礎	○	データサイエンスにおいて、膨大なデータ・複雑なシステムの記述や機械学習アルゴリズムの理解のために、線形代数は欠かせない。講義形式による本授業科目では、線形代数の入門的概念を学修する。主にベクトルや行列の演算と操作について学び、さらにそれらとデータサイエンスにおける諸概念や操作との関わりについて学修する。具体的には、ベクトルの内積や外積とそれらの幾何学的な意味、行列の和や積などの演算、転置や基本変形といった操作、逆行列、固有値、行列による連立方程式の解法などを理解し、各数学的概念と相関・分散・共分散・偏差といったデータサイエンスにおける基本概念との関係を知ることを目標とする。	
専門 科目	基 盤 科 目	共 通 文 理	統計学基礎	○	ビッグデータに代表されるように、膨大な情報があふれている現代社会において、その情報を分析する能力は様々な場面において必要とされる。本授業科目では、統計学の基礎を学修する。与えられたデータからその特徴を導き出す記述統計学の基礎事項として、ヒストグラムや度数分布表、そして平均、分散、標準偏差などの統計量の計算法、さらに相関関係について学修する。続いて、部分から全体を推測する推測統計学の考え方を学修する。正規分布の基礎事項ならびに、それを用いた検定、区間推定の基本的手法を学ぶ。	
専門 科目	基 盤 科 目	共 通 文 理	サステナビリティ概論	○	本授業科目では、主に地理学等の研究成果に立脚して。経済的グローバル化を伴った経済発展の中で、世界と国、地域の脆弱性と持続困難性が高まっていることを理解し、持続可能な未来に向けた方向性を考えていく。ローマクラブの『成長の限界』における「崩壊」の捉え方の理解から始め、気候変動、食料の大量生産に起因する持続困難性、グローバルサウスの貧困、経済のグローバル化とグローバル商品連鎖、世界の大都市問題と格差問題、商品連鎖の静脈部、エコロジカルフットプリント、サーキュラーエコノミーの実現、などのトピックを扱う。あわせて、人間環境宣言からミレニアム開発目標（MDGs）、持続可能な開発目標（SDGs）に至る国際連合の取り組みの歩みを理解する。	
専門 科目	基 盤 科 目	共 通 文 理	東京・武蔵野論		本授業科目では、主に地理学の成果・知見を踏まえて、江戸・東京および、その郊外たる多摩・武蔵野地域の地域的成り立ちや変容について理解し、これを通じて、地誌学の方法と考え方を修得することをねらいとする。まず、東京とそれを取り巻く地域の地形環境を扱った上で、江戸城下町の造営・拡充、近代都市・東京の形成と発展、郊外化の進展などに言及する。後半の多摩・武蔵野編では、明暦の大火以降、享保の改革期における武蔵野台地上の開発、都市化の受容に始まる近現代の地域変遷を読み解いていく。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目	共通文理	プログラミングの基礎		コンピュータやスマートフォンといった情報機器や、そこで用いられるソフトウェア(アプリ)は我々の生活に欠くことのできないものとなっている。本授業科目では、コンピュータソフトウェアを実際に作るために必要となるプログラミング技術の基礎を学ぶ。簡単なプログラミング言語を用いた実習などにより、コンピュータによる情報処理の基本的な考え方や方法(四則演算、条件分岐、繰り返し処理、ファイル操作など)を学ぶことを目的とする。今後、コンピュータ関連の専門性を身につけたいという人だけでなく、ユーザとして問題解決を図りたい人、技術者とユーザをつなぐ役割を果たしたい人(ビジネストランスレータ)など、幅広い目的を持った学生を対象とする。	
専門科目	基盤科目	共通文理	コンテンツ・デザイン		本授業科目では、日本文化や地域の情報発信における課題を解決するために、文章や画像、動画といったデジタルコンテンツの企画・制作に関する技術を学ぶ。まず、画像や動画をデザインするソフトウェアの基本的操作法を学んだ上で、そうしたデジタルコンテンツが流通するメディアとして、特にX(旧Twitter)やInstagramなどのソーシャルメディアに着目し、その性質について理解する。具体的には、ソーシャルメディア上の任意のアカウントを取り上げて、その拡散と受容を分析したり、コンテンツを企画・制作するといった活動を、ワークショップ形式で実施する。	
専門科目	基盤科目	人文学系	現代文化論		本授業は、現代における文化現象の特質を理解することを目指し、講義形式で実施する。従来、文化は特定の国家や地域、集団との結びつきが強調され、また、政治や経済と区別される固有性をもった領域とも見なされてきた。しかしながら、現代における文化はその越境性や他の社会領域との融合を大きな特徴としている。こうした変化について、(1)アメリカの映画やポップミュージック、日本のマンガやアニメ、韓国のアイドルやドラマなどに象徴される大衆文化が世界市場において生み出している莫大な収益や、(2)軍事力や経済力とは異なる国際的存在感の源泉として注目されている「文化や政治的価値観を通じた影響力(=ソフトパワー)」などに焦点をあてながら分析することで、現代文化の特質を総体的に考察する。	
専門科目	基盤科目	人文学系	グローバル・ヒストリーと日本		この授業科目は、グローバル・ヒストリーという歴史学の方法論に基づき日本と諸外国のつながりを探究し、国境を超えてグローバルに展開されてきた歴史のダイナミズムを理解することを目的とする。とりわけ大航海時代から現代に至るアジアと欧米世界の展開に焦点を当て、日本の歴史と関連づけながら、異なる地域や文化との接点、外交関係、経済的結びつきなどを考察する。従来の日本史や世界史といった枠を超え、グローバル化した現代社会を俯瞰する能力および外交、政治、経済、社会、文化にまたがる複眼的な思考力を身につける。	
専門科目	基盤科目	人文学系	地域と暮らし		この授業科目は、世界の諸地域における人びとの暮らしに焦点を当て、その「衣食住」をはじめとする生活文化やライフスタイルの特徴を多角的に検討する。各々の地域の歴史、文化、伝統、経済、社会構造などを理解し、それらが生活様式に及ぼす影響を考察する。また地域間の相互作用や地域と都市の関係も考慮し、地域が抱える諸課題を論じる。これらを通じ、現代の文化多様性を理解し、地域社会のローカルな諸課題を、グローバルな視野で複眼的に考察する国際性を身につけることを目的とする。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目	人文学系	人文地理学		本授業科目は、地理学を専門的に学ぶ上で必要となる導入的な科目のうちの一つである。人文地理学は、人間の諸活動を空間という視点から考察し、その特性を解明しようとする学問分野である。本授業科目は、人文地理学の史的展開を紐解きつつ、位置、分布、地域、土地条件と人間活動、景観、空間的相互作用などの主要な概念ごとに、人文地理学における基本的な用語や概念を具体例とともに検討することで、人文地理学の見方・考え方を理解することを目標とする。講義の展開にあたっては、地形図やさまざまな主題図を積極的に提示し、地理学的技能の理解を促す。	
専門科目	基盤科目	人文学系	日本語学入門A		この授業科目は、日本語学をはじめて学ぶ学生を想定し、日本語の音の側面、文字の側面、意味の側面に関わる身近なトピックを題材にして、日本語学という学問がどのような方法でどのような対象を扱っているのか平易に解説するとともに基本的な分析ができるようになることを目的とする。音の側面から言語を扱う「音声学」「音韻論」、文字の側面から言語を扱う「文字論」、意味とそれを表す単位の側面から言語を扱う「意味論・語彙論」のそれぞれの基本概念と具体的な言語データの分析方法を修得できるよう授業内容は構成される。	
専門科目	基盤科目	人文学系	日本語学入門B		この授業科目は、日本語学をはじめて学ぶ学生を想定し、日本語の文法的側面に関わる身近なトピックを題材にして、日本語学という学問がどのような方法でどのような対象を扱っているのか平易に解説するとともに基本的な分析ができるようになることを目的とする。品詞、受身・使役・時制・叙法・敬語などの文法的なカテゴリー、理由節、目的節、条件節、連体節などさまざまな種類の節から構成される複文の構造などが主な対象になり、また、日本語文法を外国人学習者に教える上でどのような点を留意しなくてはならないか教育文法的な観点からの解説も行う。	
専門科目	基盤科目	人文学系	ことばと文化		この授業科目は、日本語と英語を主とし、さまざまな言語において文化との関わりを探究するものである。言語の文化への影響を捉えたサピアとウォーフの仮説の現代的意義をはじめとし、文学作品にみられる言語の特質の反映、ことわざ・慣用句といったその言語固有の言い回しの文化的な側面、それぞれの文化におけるジェンダー観の言語への反映、社会的な役割、立場の言語への反映などのトピックについて理解を深めるとともに学生が基本的な分析ができるように導くものである。	
専門科目	基盤科目	人文学系	現代社会とアート		本授業は、現代社会において芸術が果たしている役割の重要性および多面性を理解することを目標とし、講義形式で実施する。文化芸術振興基本法の改正により2017年に成立した文化芸術基本法では、経済状況や障害の有無などにかかわらず、誰もが文化芸術を享受・創造することができるような環境の整備を謳うとともに、文化芸術に関する施策を推進するにあたっては、観光やまちづくり、国際交流、福祉などに関わる施策と有機的に連携させるよう求めている。かつては豊かな人たちのためのものと見なされていた芸術が、現代において万人のためのものと見なされるようになったのはなぜか。また、芸術と芸術以外の諸分野との連携において、何が期待され、実現されてきたのか。これらの問いに対し、文化芸術施策や各種文化施設の歴史的変化と現状、および近年活発におこなわれている環境分野でのアートプロジェクトの実践などを分析することで答えていく。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	基盤 科目	人文学系	国際社会学		本授業科目は、国家を超える社会現象をとらえる国際社会学のうち、最も主要な研究テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とするものである。特に日本やアメリカ合衆国における在留外国人の現状と課題を、教育や労働の観点から、またこれらを取り巻く移民政策の観点から把握する。本授業では、国境を越えた人口移動と生活の実態を総合的に理解すること、今日の世界に生起するトランスナショナルな事象について理解する視点を培うことを目標とする。	
専門 科目	基盤 科目	人文学系	現代地域論		本授業科目では、主に経済地理学や関連分野での研究成果に依拠して、主に現代日本の諸地域が抱える諸課題をさまざまな実証的データを踏まえて理解し、これを学問的に捉える見方・考え方を身につけることをねらいとする。日本の地域問題を念頭におき、経済のグローバル化と産業空洞化、流通革命の進行、少子高齢化、行財政改革といった社会経済プロセスの影響が、大都市と郊外、地方都市、中山間地域などにどのように表面化しているのかに重点をおき、持続可能な国土・地域運営のあり方を考えていく。	
専門 科目	基盤 科目	自然科学系	環境科学基礎		持続可能な開発とは、現在の生活水準を下げることなく、未来の世代が必要とする豊かで美しい地球環境を守りながら進められる開発である。本授業科目では、持続可能な開発や社会の実現のため、地球や自然そのものだけでなく、社会や都市環境など、私たちを取り巻くあらゆる環境について広く学修する。また、過去から現在までの環境問題とそれらを取りまく様々な科学的、社会的な背景を理解することも目的とする。環境科学の基礎として、主に、地球環境、大気環境、住環境、水環境、土壌環境、廃棄物、化学物質などについて学修する。さらに、私たちが生きていくうえで不可欠なエネルギーや資源、例えば、化石燃料、核燃料、再生可能エネルギー、水資源、鉱物資源などについて理解を深める。	
専門 科目	基盤 科目	自然科学系	自然科学基礎A (物理学・化学)		エネルギー問題や環境汚染物質などについて理解するためには、自然科学の基礎である物理学や化学の知識が必要となる。また、物理学や化学の魅力は、身の回りの現象や物質の性質、自然界の法則を科学的に解明し、その背後にあるメカニズムを理解することができる点にある。本授業科目では、自然科学への興味を育むとともに、エネルギーや物質の性質、身の回りの諸現象を科学的に理解する力を養うことを目標とする。主に「光・熱とエネルギー」「物体の運動」「物質のなりたち」「物質の反応」「電気と磁気」「エレクトロニクス技術」などについて学修する。	
専門 科目	基盤 科目	自然科学系	自然科学基礎B (地球・宇宙科学)		宇宙のはじまりは今から138億年前と言われている。また、地球の年齢は46億年とも言われている。なぜ宇宙や地球の年齢がわかるのだろうか？ 本授業科目では、宇宙や地球が誕生してから今日に至るまで、どのような出来事があったのか、私たちを取り巻く環境と自然の成り立ちを様々な理論や観測事実に基づいて理解することを目的とする。主に、現代の宇宙論(宇宙の始まりや構造)、太陽系形成論(太陽系の形成や地球・惑星の誕生)、太陽、地球や他惑星の大気環境、地球生命の誕生、海洋、地球内部構造や地震などに関連した内容や話題について学修する。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	基盤科目	自然科学系	自然科学基礎C (数理科学)		講義形式による本授業科目では、自然科学および社会科学の幅広い領域から数学に関わるテーマを選び、学修する。各テーマの数学的側面を掘り下げて学修することにより、数理的思考能力を養い、数式および数学概念の扱いに慣れていくことを目的とする。例えば、環境科学・生物学・物理学・意思決定・論理学・経済学など、幅広い分野から選んだ話題を題材として、方程式・指数関数・対数関数・複素数・微分・積分・連立方程式・行列・確率といった基礎的な数学概念の利用方法を学ぶ。	
専門科目	基盤科目	自然科学系	自然科学基礎D (地球生命科学)		生命科学の進展は、遺伝子を操る技術(遺伝子工学)を生み出すなど、私たちの生活や生命倫理に関することにまで大きな影響を与えている。また、ゲノムを解読し、その情報を用いることで進化の歴史や遺伝子による機能をより深く知ることが可能となってきた。この授業科目では、生命の基本的なプロセスと概念、生命の起源から現在に至るまでの地球生命変遷史、地球環境と生命の関係、生物多様性、また、それらの研究手法について学修する。地球上の生命に共通する仕組みや、生物同士の相互依存関係を知ることにより、生物多様性によって私たちが自然から多くの恵みを受け取っていることを理解することも本授業科目の大きな目的の一つである。	
専門科目	基盤科目	自然科学系	数学基礎		近年、社会における諸問題の解決のために必要とされる数学はより高度なものとなっており、またいわゆる文系分野においても一定の数学リテラシーが求められることが少くない。講義形式による本授業科目においては、この先の学修において必要となり、社会に出るまでに身につけておくことが望ましい基礎的な数学の修得を目的とする。式の展開、因数分解、剰余の計算などの多項式の扱い、それらと関連し、連立方程式や高次方程式の解法を学修する。関数は自然現象や社会現象の記述において重要な役割を果たしている。2次関数、3次関数のような多項式関数、指数関数・対数関数、三角関数などの初等関数の様々な性質やグラフについて理解を深める。さらには集合や論理など数学の持つ抽象的な側面や、数列や級数についても学修する。	
専門科目	基盤科目	自然科学系	線形代数学		社会科学で扱われる諸問題は、自然科学で典型的に扱われる問題に比べ、ずっと多くの変数を含んでいる。線形代数、特に行列論はこのような問題を記述するために有用である。講義形式による本授業科目においては、行列演算の技法と応用を学修する。まず行列演算について学び、続いて基本変形、逆行列、対角化、順列行列など線形代数の核となる考え方を学修する。さらに様々な具体的な現実の問題が如何に行列を用いて記述されるかについても触れる。	
専門科目	基盤科目	自然科学系	微分積分学		講義形式による本授業科目では、微積分やその応用について学修する。初等関数の導関数を求める手法(積商、合成関数の微分法など)を身につけ、さらには関数を多項式により近似するテイラーの定理について学修する。微分の逆演算である積分について、置換積分法、部分積分法のような基本的な手法を学び、1変数関数の不定積分や定積分が計算できるようになる。続いて2変数関数の微分法である偏微分法、2変数関数のテイラー展開へと進む。その応用として、2変数の関数の極値問題やラグランジュ未定乗数法を学び、簡単な最適化問題が解けるようにことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	基盤 科目	自然科学系	自然地理学		この授業科目は、地球の自然環境を理解するために、地形や地形変化、気候、生態系、水循環など、地球表面における自然現象やその相互関係について学ぶことを目的とする。具体的には、地形学の基本原理や地形の形成要因、風化・侵食のプロセス、地殻変動のメカニズムなどを修得する。また、気候の形成要因や気候変動、地球の気候システムの理解を深める。さらに、生態系の構造や機能、生物多様性の維持に関する生態学的な知識や水文学的なプロセスについても学ぶ。	
専門 科目	基盤 科目	自然科学系	環境史		この授業科目は、自然と人間の関係を歴史のおよび地球科学的な視点から紐解いていく科目である。地球形成から人類の登場までの地球環境の変化の歴史、産業革命以前から現代までの環境変化や人間の生活様式の影響、技術革新の環境への影響などを学ぶ。さらに、環境政策や保護活動が歴史的な文脈の中でどのように形成され、展開してきたのかについても探究する。森林伐採、土地利用の変化、気候変動、生物多様性の喪失などに焦点を当て、持続可能な未来に向けた教訓について考察を深める。	
専門 科目	基盤 科目	自然科学系	熱力学基礎		この授業科目は、環境科学の重要事項の1つである熱とエネルギーに関する基本概念や基礎事項を学修する。特に、熱力学の基礎的な原理・法則(熱力学の第一法則、第二法則、第三法則)、理想気体、熱と仕事の基本概念(熱を利用した様々な発電など、熱エネルギー変換システム)について理解することを目的とする。さらに、様々な熱現象(熱伝導、熱放射、対流、断熱膨張・圧縮)や、熱現象を利用/応用した身近な機器(例えば、様々な温度計の計測原理や冷蔵庫、熱機関の仕組みなど)について理解を深める。	
専門 科目	基盤 科目	自然科学系	統計学発展		本授業科目においては「統計学基礎」で学んだことを踏まえて、統計学のより進んだ内容について学修する。確率の基本的事項に触れたのち、さまざまな統計的推測の土台となる確率分布を扱う。二項分布などの離散型の確率分布からはじめ、連続型の確率分布としては最も重要である正規分布を通じて、これらの確率分布の特徴や統計量について学修する。さらに母集団や標本を確率論的に捉える方法を学び、区間推定や仮説検定へと進む。実際の統計データを用いて、母集団の統計量の推定、検定を行う手法を学修する。	
専門 科目	基盤 科目	自然科学系	データサイエンス発展		近年、理工・農・医療系分野だけでなく、経済、経営などあらゆる分野で大量のデータ（ビッグデータ）を処理・分析し、そこから必要な情報を抽出する「データサイエンティスト」の役割の重要性が指摘されている。また、ソーシャル・ネットワークやスマートフォンの急激な普及により、我々の生活の中にはすでに多くの情報技術が入り込んでいる。本講義では、データサイエンスやAIに関する知識・スキルを網羅的に学ぶとともに、実際にデータを使った統計処理、機械学習等の方法について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	グ ロー バル 科目	Japanese Art		この授業科目では、絵画（日本画、洋画、版画など）、彫刻（木彫、石彫など）、工芸（木工・金工・漆工・陶芸など）といった日本美術の分野を中心に、多様なトピックを扱う。日本美術の歴史的な流れを概観し、様々な時代や様式における代表的な作品や芸術家について学ぶ。また諸外国の美術様式などとも比較しながら日本美術の特性について学び、その背景にある東洋の思想や西洋美術との差異などを浮き彫りにする。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
		Japanese Contemporary Issues		この授業科目は、日本が世界で展開する外交を取り上げつつ、日本が直面する国際的な課題を考える。授業の目的は、世界における日本の立ち位置に加え、日本が世界に対して果たす役割を分析することで、日本外交の重要課題、さらには世界が直面する課題を読み解くことにある。「ルールに基づく国際秩序」が危機的な状況にあるなか、日本は外交努力を通じてその維持・強化に努めているところであり、その観点から日本外交のさまざまな展開事例を検証していく。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門 科目	グ ロー バル 科目	Japanese Economy		この授業科目は、日本経済の近年の歴史、現在の日本経済が抱えている課題について学び、今後の日本経済の動向について理解を深めることを目的とする。日本経済は長期的に見ると、少子高齢化のため経済成長の減退が懸念されている。バブル景気とその崩壊後の経済停滞、及び2000年代の世界的な金融危機によって日本経済が直面した問題を検討する。また、新聞や雑誌などで報道される経済記事を理解できるようになることを目的とする。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門 科目	グ ロー バル 科目	Global Career Design		この授業科目は、将来、グローバル環境で働くことを目指す学生が、どのようなキャリアの選択肢があるかを知り、自分の将来像を描いたり、そのために必要なことを学び成長するための行動計画を考えていく科目である。実際にグローバル環境で働くゲスト講師を招聘して、「グローバル環境で働くとはどのようなことか」を学ぶ。授業ではグループワーク、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、グローバル環境で必ず求められる思考力、コミュニケーション力を高めていく。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門 科目	グ ロー バル 科目	Topics in Political Studies		この授業科目は、政治学に関するさまざまなトピックについて、英語教材・資料を通じて学ぶことで、政治について多角的・複眼的に考察する力を養うことを目的とする。具体的には、世界における民主主義の現状を比較政治学的な観点から学んだり、近代化の諸相・課題を比較思想史的な観点から学んだりすること、また、欧米やアジアの特定の地域を取りあげ、その政治的状況について具体的に歴史的観点も踏まえながら学ぶことが、例としてあげられる。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門 科目	グ ロー バル 科目	Geography		この授業科目では、地球の表面で生じる様々な自然現象（地形、気候、植生、土壌など）と人間活動（都市、農村、文化、宗教、経済など）の空間分布や相互作用の特徴を学ぶ。また、地理学の歴史や理論的な枠組みについても解説する。さらに、現代における世界レベルの環境や社会問題を考え、地球環境の複雑さを認識し、持続可能な地域の発展や活性化についても議論を深める。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	グローバル科目	Japanese Popular Culture	この授業科目では、日本の現代文化及び大衆文化を対象に、マンガ、アニメ、アイドル、映画、音楽、ゲーム、ファッションなどについて、カルチュラル・スタディーズやメディア研究などに焦点を当て、これらの文化が誕生した経緯やその後の展開を多角的に学んでいく。またこれらの日本の現代文化が諸外国でどのように受け入れられているのかについても、Japan Expoなど海外の日本文化イベント、またCool Japan戦略など日本の官民による産業振興策を対象に、国内外の文化及び経済産業の視点からも検討し、日本のポピュラーカルチャーの特色を探究する。この他、日本と諸外国のポップ・カルチャーの比較研究も対象に扱う。なおこの授業は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	グローバル科目	Japanese Linguistics	この授業科目は、日本語の様々な側面について言語学的な枠組みから理解を深めることを目的とする。語彙・意味、音声・音韻、文字、文法など、日本語の構造や機能をより客観的に学び、他言語などとの違いなど対照的な側面を重視し、世界の言語の中での日本語の特徴について学んでいく。日本語の成り立ちや変容、地域差（方言）、日本語を取り巻く社会背景、また日本語教育についても適宜取り扱う。なおこの授業は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	グローバル科目	Phonetics and Phonology	この授業科目は、言語学の分野である音声学と音韻論の基礎と、それに関連する分野について学ぶことを目標とする。具体例として取り扱うのは日本語と英語が多くなるが、個別の言語を超えた人間の音声言語全般の仕組みを学ぶ。また、音声学と音韻論の基礎的知識にとどまらず、その他の関連分野（例えば言語修得など）も扱い、音声と社会との関わりについて考え、言語の音声面について幅広く学ぶ。なおこの授業は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	グローバル科目	Topics in Business	この授業科目は、経営学に関する様々なトピックを取り上げて授業を展開する。例えば「日本の経営」という視点から日本経営史について学んだ上で、日本企業が直面するグローバル化の問題について考察する。そして日本企業の経営のあり方についての見識を培う。あるいは企業の国際的な経営に焦点を当てて、経営戦略、製品開発、生産、マーケティング、人的資源管理、財務と会計、情報技術といった企業の諸機能の国際化について、現実の会社の事例を見ながら理解を深めていく。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	グローバル科目	Law in Society	この授業科目は、日本国内において実際に適用・施行されている法律及び政策を素材として、法が人々をどのように規律しているかを理解することを目的とする。例えば、事業者の事業活動を規律する独占禁止法という法律が我々一般市民の生活にどのように関わっているのかという切り口から、独占禁止法という実体法の個別具体的な規定の内容を理解していく。この具体的な法規の理解においては、その法の適用の背景にある政策（独占禁止法であれば競争政策）を踏まえた理解が必須であり、政策が我々の生活にどう関わっているのかも踏まえて解説を行う。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	グローバル科目	Science and Technology		この授業科目は、英語を媒体として我々に身近な、あるいは我々や地球の未来に大きくかかわる科学技術を popular science レベルで理解し、またその理解をわかりやすい英語で一般の人々に発信していく力をつけることを目的とする。毎回TED-Edなどの動画やその時々で話題のトピックにまつわるWeb記事などを素材として科学技術関連の事象を理解し、その理解に基づき何度かそれぞれのトピックに基づいて簡単な英語でのグループディスカッションや各自の情報収集や体験に基づいた英語での短いプレゼンテーションなども試みる。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	グローバル科目	Climate and Nature		この授業科目では、日本の気候とその風土、気候変動に対する理解を深めるために、気候学の基礎と地球および地域の環境問題を幅広く学ぶ。さらに、日本と比較しながら、世界各地の風土の特徴について理解を深める。学生は、環境保護活動や持続可能なライフスタイルについての具体的な取り組み、自らの役割や責任について、科学的な視点からだけでなく、社会的な側面も含めて議論する。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	グローバル科目	Topics in Japanese Culture		この授業科目は、日本文化に関わる幅広いトピックを扱い、各分野の基礎理論を理解することを目指す。日本研究、日本人論、日本の異文化交流史、比較文化論から、より身近な生活文化（衣食住）や伝統文化（例えば伝統行事、特定の地域の習慣、文化財など）まで、日本文化を対象に多様な側面から特定のトピックを取り上げて論じる。また、東洋学やオリエンタリズムの議論を含め、日本と諸外国の文化の相互作用や影響関係を検討し、グローバルな視野で日本文化の普遍性や特殊性を解明する。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	グローバル科目	Topics in History		この授業科目は、特定の地域・国の歴史について、グローバル・ヒストリーとして世界的視野で捉え、もしくは世界および日本の歴史について特定のテーマ（例えば産業革命、奴隷制、古代文明、世界遺産、宗教、近代史など）さまざまなトピック（例えば外交、政治、経済、産業、科学技術、医療、環境、宗教、文化、社会、ジェンダーなど）を設定して学んでいく。また取り扱う地域やテーマに関連するよって文化遺産や歴史的史跡、博物館などから歴史的資料を取り上げ、それらを分析の上、どのように文化財保護や歴史理解など、現代社会に生かしていくことができるかを考えるなど実践的な課題にも取り組む。さらに歴史をグローバルな視野で多角的に捉えることで振り返ることで、多様な価値観や観点尺度を学び、現代の諸問題に向き合う上で批判的思考力を伸ばすことを目的とする。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	グローバル科目	Language and Literature		この授業科目では、言語・文学に関連する分野の中から、特定のトピックもしくはテーマについて学んでいく。言語の分野には、言語の文化的・社会的役割、言語修得、言語の比較対照、特定の地域の言語事情など、文学の分野では、文学作品の文化的・社会的背景の理解、多様なジャンル、文体・表現方法、特定の文学作品の批評や分析などが含まれる。言語学的方法または文学的分析の手法を知り、ことばに関する感性を磨き、批判的思考力を養うことが目標である。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	

授 業 科 目 の 概 要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	グローバル科目	Regional Studies		この授業科目は、特定の地域・国に焦点を当て、その地域・国の歴史と文化を概観するとともに、世界との関わりを学ぶものである。取り上げた地域の特徴や文化がどのように形成されたのかについて、多様な側面（例えば政治、経済、産業、法制度、地理、社会、民族、宗教、言語など）から他の地域とも比較しつつ、理解を深めていく。また、学びの過程で自身の考えを積極的に発信できる力や批判的思考力を養成することを目標とする。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
		Special Seminar		この授業科目では、法律と政治、経済・経営、国際関係、言語と文化、生活文化、美術、社会、環境、科学技術など、の多様な分野から特定のトピックについて学ぶ。既存の学問領域・体系の枠組を超えてのみにとらわれず、刻々と変化する現代社会のトピックも含め、今日の世界及び地球規模において課題となる意義のある主題を柔軟に設定するし、提供していく。授業では、教員による解説、ディスカッション、実践的な活動を組み合わせることにより、特定のトピックに関する知識と理解を深めるだけでなく、批判的思考力の育成やクラスメートと一緒に協働しながら発信力、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。なおこの科目は原則として英語で授業を行う。	
専門科目	発展科目	文化	国際日本文化論	この授業科目は、世界の中の日本という視点に立ち、「日本文化とは何か」という問いを、歴史、言語、芸術、思想、社会、政治、経済など、人文・社会科学にまたがるさまざまな観点から学際的に検討する。とりわけ、欧米諸国における東洋学や日本学の成立、オリエンタリズムの展開などの学説を踏まえつつ、日本及び諸外国で論じられてきた日本人論や日本文化論の代表的なテキストを対象に取り入れて分析する。日本と世界のつながりの中で「日本文化」の特徴を複眼的に理解することを目的とする。	
			日本の美学・美術史	この授業科目は、古代から現代に至るまでの日本の美術史を概観し、代表的な芸術家や作品、時代ごとの美術様式や技法について学ぶ。また、仏教や神道、武士文化など、宗教や社会が日本の美術に与えた影響を取り上げ、日本における美の理論や美意識の変遷を理解する。さらに東洋や西洋の美学からいかなる影響を受けてきたのか、日本の美学や美術の特徴や普遍性についても考察する。絵画、彫刻、工芸品などの多様なジャンルを通じて、日本の美術の多様性とその歴史を理解することを目標とする。	
専門科目	発展科目	文化	メディアと日本文化	本授業は、近現代の日本文化の形成においてメディアが果たしてきた役割を概観することを目標とし、講義形式で実施する。(1)印刷メディアの発達と近代的国民意識や生活様式の形成、(2)マス・メディアの発達と大衆文化・消費文化の成立および変容、(3)ラジオやテレビ、電話などの家族単位での利用から個人単位での利用への移行と、その背景となる社会変容、(4)活字メディア／音声メディア／映像メディアのデジタル技術による統合やインターネットの普及によって「いつでも、どこでも、どこでも」つながることができるメディア環境が実現されたことの社会的・文化的意味、(5)ソーシャル・メディアの登場による「マス・メディア／パーソナル・メディア」という対立軸の消失、などのトピックを取り上げながら、メディアと社会や文化が相互に影響をあたえ合いながら変容していく過程を、日本社会におけるその特質に注目しながら分析する。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	発展 科目	文化	多文化共生論		多文化共生とは、国籍や民族的バックグラウンドが異なる人々が、相互の文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことである。本授業科目では、現代における日本社会と滞日外国人の関係性を理解した上で、とくに大都市圏域の地域コミュニティに生じている社会変動とそれに伴う諸問題について理解を深める。民族的マイノリティを含む社会的弱者の個性を尊重し、活かす考え方をインクルージョン（社会包摂）と呼ぶが、地域でのインクルージョンの実際についても具体事例を通じて考えていく。	
専門 科目	発展 科目	文化	生活文化論		この授業科目は、日常生活の様々な側面を文化的視点から探究する。食文化、住居文化、服飾文化、娯楽文化など、「生活」に関わるさまざまなテーマを通じて、そうした習慣や価値観がいかに形成され、どのように規範化されていったのか、またいかなる社会的意味を得るにいたったのか、その変遷や要因について政治・経済・産業・文化・社会など多様な側面から理解を深める。さらに、異なる文化間の比較や生活様式の多様性に留意し、グローバル化した社会において生活文化が有する意味についても考察する。	
専門 科目	発展 科目	文化	ことばと認知		この授業科目は、人間の認知（ものの捉え方）がどのように言語に反映しているのかを探究する認知言語学の概説的な講義科目である。具体的には、カテゴリーの捉え方がどのように言語に関わるか、メタファー、メトニミー等の比喩にどのように人間の認知が関わっており、また、それがどのように言葉の創造性をもたらしているか、構文や語彙の多義性に人間の認知がどのように関わっているか、母語および第二言語修得のメカニズムと認知の関わりなどといったテーマを主に扱う。	
専門 科目	発展 科目	文化	異文化交流論		この授業科目は、文化に焦点を当て、比較研究というアプローチに基づいて、日本と異文化の相互関係を検討する。とりわけ、異なる文化がいかなる交流を行い、どのように相互に影響を与えてきたのか（または与えてこなかったのか）を、歴史、芸術、生活様式などに焦点を当て、比較検討する。また文化間の差異を生み出した要因について、外交、政治、経済、社会など、複合的な観点から分析することで、現代の文化多様性の背景を理解する。	
専門 科目	発展 科目	文化	比較美術		この授業科目は、複数の国・地域における美術様式や表現形式の比較を行い、異なる文化圏で美術作品がどのように生み出され、またどのような影響関係にあったかを理解することを目的とする。とりわけ日本美術と東洋美術、または日本美術と西洋美術の接点および差異に注目し、その文化的背景や社会的要因を踏まえて検討する。また、伝統美術だけでなく現代美術も視野にいれることで、現在のグローバル化社会において美術が果たす役割や多様性を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目	文化	映像文化論		本授業は、映画やテレビドラマ、アニメなどの映像文化が現代においてもつ意味を、(1)映像メディアの技術的基盤、(2)芸術表現としての映像文化の特質、(3)映像文化産業の発展とグローバル化などに焦点をあてながら総合的に理解することを目標とし、講義形式で実施する。最初に、映画やドラマ、アニメが相互に影響し合いながら現在の映像文化を形成してきた過程を、日本における特質を含めて概観する。さらに、映像文化をめぐる現代的課題として(1)サブスクリプションサービスの浸透が引き起こしつつある映像文化産業の構造的変化、(2)ディープフェイクや生成A Iなどの技術をめぐる諸問題、(3)YouTube上の膨大な数の解説動画が示すように近年さまざまな領域で進行している「知識の映像化」が社会や文化におよぼし得る影響などに注目し、考察を深めていく。	
専門科目	発展科目	文化	マンガ文化論		この授業科目は、日本と世界のマンガ文化を対象に、その歴史的背景、社会的影響、文化的意義を検討する。マンガ文化はどのように生まれ、時代ごとにいかなる作品が生み出され、どのように受容されてきたのか、またメディアや技術の発展とともにマンガ文化はいかなる変遷を経てきたのかを理解する。また国際規模の文化支援政策をはじめ、マンガ文化をめぐる国際市場、政治・経済的側面も考察する。以上により、現代社会においてマンガがもつ文化的および社会的意義について総合的に理解することを目標とする。	
専門科目	発展科目	文化	ファッション文化論		この授業科目は、グローバルな視野に立ち、日本と世界のファッション文化を総合的に検討する。とりわけ、ファッションの素材がどのように生産され、流通し、消費されてきたのか、またどのように使用・再利用されてきたのか等、ファッションの歴史的変遷を理解し、時代ごとにファッションが有した社会的・表象文化論的機能を考察する。また現代のサステナブルファッションをはじめ、ファッションと環境との関係にも留意し、持続可能なファッション産業の取り組みについても考察する。	
専門科目	発展科目	文化	多文化社会と言語政策		この授業科目は、日本の言語状況と言語政策を概観し、日本で行われてきた多文化化への歩みを言語政策という観点からマクロ的に分析するとともに、多文化化が進んでいる日本の諸地域における日本語教育の現状と課題を明らかにし、今後どのような取り組みが必要かについて検討する。また、移民先進国である欧州諸国をはじめとして海外諸国の近年の言語教育政策などの事例を検討するとともに日本の事例との比較を行い、その差異と共通性について考察する。	
専門科目	発展科目	文化	国際日本文化特殊講義		この授業科目は、グローバルな視野から日本文化の特定の側面に焦点を当てた特殊講義であり、担当教員の研究分野に基づき専門的な内容の講義が行われる。とりわけ、日本の言語、生活文化、美術、ポップ・カルチャーなどのテーマに関し、日本文化とその社会的背景、歴史的文脈を包括的に分析し、国際社会での日本文化の特徴や普遍性について議論する。講義に加えてディスカッションを取り入れ、日本文化の理解と異文化理解の両方を深め、国際的かつ学際的な視野の獲得を目的とする。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目	地理・地域	経済地理学		本授業科目は、人文地理学のなかでも、経済地理学の研究に必要な基礎知識について講述するものである。19世紀に成立した経済地理学には様々な系譜があるが、本授業では主に立地と地域経済に関わる内容を主眼に置き、古典的な産業立地論や産業集積論の理解に始まり、製造業のナショナルおよびトランスナショナルな立地展開の生産体系の理解、小売業の立地展開と商業集積、制度・文化と地域発展など、グローバル化した経済空間を解き明かす現代の経済地理学が扱う典型的研究課題について扱う。	
専門科目	発展科目	地理・地域	観光地理学		本授業科目は人文地理学のうち、特に観光・ツーリズムに関わる地理学を学ぶものである。観光は、人々の観光行動とそれを受け入れる観光地域とによって成立しており、また観光に関わる事象は、さまざまな空間的スケール、時間的スケールの中で捉える必要がある。この授業では、観光・ツーリズムの時間的・地域的展開に着目し、古くからの文化的伝統に根差しながらも経済・社会的背景などに影響されて変化する観光行動、またそれに対応して成長・衰退する観光地域の実態について、具体的事例を通じて理解できるようになることを目標とする。	
専門科目	発展科目	地理・地域	歴史地理学		歴史地理学は、過去の人間集団が地表空間をいかに組織してきたかを追究する学問分野であり、歴史学と地理学の接合領域として発展してきた。本授業科目は、歴史地理学研究を進めるにあたって必要となる基礎的知識を修得した上で、古文書・古地図等の史資料を用いて、歴史時代に生じた地理的事象を復原して把握する能力を修得することを目標とする。なお、授業の前半では古代条里制・条坊制、中近世の城下町形成などを含めて日本の歴史地理を通史的に学び、後半では研究法の実践として、近代期日本の都市群を重点的に扱うこととする。	
専門科目	発展科目	地理・地域	海外地域研究		この授業科目は、海外の様々な地域における社会、文化、経済、環境などを総合的に理解することを目的とする。特に、異なる国や地域の農業システム、農業政策、食文化、農村社会の構造などに焦点を当て、地域の特性や課題を探究する。さらに、国際協力や持続可能な農業開発の観点から、地域の問題解決や地域社会の発展に貢献するための戦略やアプローチについても学ぶ。学生は国際的な視野を拓けながら、農業が地域社会に与える影響や地域の持続可能な未来に向けた提言を行うスキルを身に付ける。	
専門科目	発展科目	地理・地域	国内地域研究		この授業科目は、日本国内の地域社会や地域経済、地域文化などについて探究する科目であり、地理、歴史、社会学、経済学などの視点から、日本の地域社会の特性や課題を理解し、解決策を模索する。具体的には、地域の人口動態、産業構造、地域経済の特性、地域間格差、地域振興策などに焦点を当て、さらには地域の歴史や文化についても深く掘り下げ、地域独自の文化や伝統、地域社会のアイデンティティについて考察する。この科目を通じて、学生は地域社会の複雑な構造や相互関係を理解し、地域振興や地域コミュニティの発展に貢献するための知識やスキルを修得修得する。	
専門科目	発展科目	地理・地域	地域創生論		地域創生とは、大都市圏への過度な人口集中の是正を視野に入れながら、政府、地方自治体や企業、「新たな公」と呼ばれる主体が連携して、主に非大都市圏の地域経済社会を活性化する取り組みの総称である。本授業科目では、人文地理学の立場から、近代期の町村運動に始まるような地域の内発的活性化に関わる思想的系譜・政策的系譜を紐解くとともに、今日の日本および諸外国における地域活性化の先進事例のいくつかを学び、履修者が身近な地域においていかなる実践をすることができるかという探究に結びつけていく。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	発展 科目	地理・ 地域	地域資源論		国内外の諸地域には諸種の地域資源ないし地域文化資源と呼ぶうものが賦存されており、こうした資源がいわばコモンズ（共有財産）として、当該地域への観光誘客、地域アイデンティティの形成、ひいては地域経済社会の持続的発展を支えている。本授業科目では、歴史地理学的な視点に立ち、古くは柳宗悦らの民藝運動、1970年に旧国鉄が唱導したディスカバージャパン運動とそれを一つの契機とした街並み保存運動といった、日本における地域資源の「発見」の歩み、また世界文化遺産や日本遺産といった取り組みの概要と意義を学んだ上で、現代の地方創生・地域創生の動きの中での地域資源の利活用について考えていく。	
専門 科目	発展 科目	地理・ 地域	地理情報科学		この授業科目は、近年デジタル化が進む地理情報を（コンピュータで）系統的に処理・表示・分析し、自然環境や人間活動の空間的な傾向や変化を学修する。はじめに地図やGIS（Geographic Information Science）について、概念や基礎的な知識を学修する。社会の様々な分野で整備されている空間データを、GISソフトで地図化するスキルを身につけ、作成した地図から、多様な自然環境や人間活動、自然と人間活動の相互関係を読み取るスキルを修得することを目指す。さらに、空間統計分析を行い、空間データからより詳細な特徴を抽出し、考察するスキルを修得することも目的とする。	
専門 科目	発展 科目	地理・ 地域	水文学		地球上の水は、あらゆる生命の源であり、人間社会にとっても必要不可欠なものである。本授業科目は、自然地理学の中でも特に陸地上の水循環に関わる分野である水文学を概説する。まず、地球上の水の分布を循環・変動を概観した上で、降水、積雪と融雪、蒸発散、土壌水、地下水、地表水の順に基礎事項を扱い、続いて、森林と水資源、川と水資源、地下水と水資源、農業と水資源、都市の水環境、地球温暖化と水環境など、流域を単位とした実際的な内容を学んでいく。なお、折に触れて、水系図作成、水温・水質測定、流量観測の方法など基本的なスキルについても解説する。	
専門 科目	発展 科目	地理・ 地域	地形学		この授業科目は、地形の形成要因やプロセス、地形の特徴、そして地球上の地形の多様性について学ぶ。具体的には、風化や侵食、地殻変動、氷河作用、河川作用、海洋作用など、地形を形成するさまざまな自然現象や力学に焦点を当てる。地形図、図表、写真、動画などの読み取りや作業を通じて、地域的な地形発達のメカニズムとヒストリーを理解する。この科目を通じて身に付けた知識は、地質資源の探査や利用、災害リスクの評価、土地利用計画など、さまざまな実践的応用に役立つ。	
専門 科目	発展 科目	地理・ 地域	都市防災学		この授業科目は、都市部における災害リスク管理と防災対策に焦点を当て、地震、洪水、台風、地滑りなどの自然災害に対する都市の脆弱性や被害のメカニズムについて理解を深めることを目的とする。地域の脆弱性分析や被害予測、避難計画の策定、災害情報の伝達方法など、都市防災に必要なスキルを身に付けることを目的とする。また、東京における自然の特徴と成り立ちを知り、東京で起こりうる災害を予測し、考えられ得る防災の方法を議論する。さらに、地域社会や国際社会における防災政策の動向や課題についても議論し、グローバルな視野を持った防災意識を醸成することを目的とする。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目	地理・地域	地理学・地域学特殊講義（持続観光開発論）		本授業科目は、地理学・地域学の応用研究として、サステナブル・ツーリズム論について観光地理学の立場からの検討を加えるものである。従来のマス・ツーリズムに対するアンチテーゼからさまざまなオルタナティブ・ツーリズムが模索されてきたが、サステナブル・ツーリズムはその一つで、国連世界観光機関（UNWTO）によると「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響に十分に配慮した観光」と定義される。この授業では、国内外でサステナブル・ツーリズムを実践する地域事例、企業事例を取り上げ、意義と課題について、履修者が主体となって考えていく。	
専門科目	発展科目	環境	環境学		この授業科目は、農業が環境に与える影響や持続可能な農業の実践を主軸に、持続可能な農業の概念や方法論、有機農業や循環型農業などの環境に配慮した農業の取り組みについて学ぶ。また、農業生産システムと地域の環境への影響に関するケーススタディや実地調査の結果を取り上げる。さらに、環境保全政策や農業の持続可能性に関する国際的な枠組みや取り組みについても議論する。学生は、農業の視点から環境学を学ぶことで、地球規模での環境課題に対処するための知識と能力を身につける。	
専門科目	発展科目	環境	地球資源科学		現代社会を支えている物質やエネルギーの多くは、石油や石炭、鉱物などのように地下深くに埋蔵されている「資源(地球物質)」を使って作り出されている。人間活動が活発になるにつれ、それらの資源を取り出す際に、環境破壊や二酸化炭素の排出などにより地球環境に大きな影響を与えるようになってきた。地球物質から現代社会を支えるために必要な物質やエネルギーを、持続可能な形で取り出すこと(資源科学)の重要性が以前にも増して認識されるようになってきた。本授業科目では、現代社会を支える様々な物質について地球科学的な理解を深めること、また、その探査方法等、資源科学の概要を理解することを目的とする。主に、資源探査・採掘、鉱物資源、都市鉱山、地球物質科学、有機エネルギー資源(石油、石炭、オイルシェール等)等について学修する。	
専門科目	発展科目	環境	地球環境保全学		この授業科目は、生物多様性の維持や生態系の保護、持続可能な資源利用など、自然環境の保全に関する理解を深めることを目的とする。また地質学、地形学、文化人類学、生態学などの知識を統合し、ジオパークの形成や管理、活用方法を通して、自然遺産と文化遺産が融合した地域の持続可能な発展と地域社会の活性化を促進することも探究する科目である。世界および日本各地のジオパークを事例に、地域資源の保護と活用を通じた地域の持続可能な発展に貢献する専門的知識を身につける家を育成することを目的とする。	
専門科目	発展科目	環境	環境問題と国際社会		この授業科目は、世界各地で起こっている環境問題に焦点を当て、それが国際社会に与える影響や関連する国際的な取り組みについて学ぶ科目である。具体的には、気候変動、生物多様性の減少、森林破壊、海洋汚染など、さまざまな環境課題の観点から、国際協力の必要性や持続可能な開発目標（SDGs）など、国際的な枠組みや政策について考察する。さらに、異なる国や地域の文化や価値観が環境問題への対応に与える影響にも注目し、国際社会における協働・共創の重要性を理解する。授業では、講義やいくつかのケーススタディに関連するディスカッションなどを通じて、学生が環境問題に対する洞察を深め、国際社会における積極的な役割を果たすための能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目 区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	発展 科目	環境	企業行動とサステナビ リティ		この授業科目は、企業が持続可能な社会や環境への貢献を理解し、実践する方法を考察する科目である。企業が持続可能なビジネスモデルを採用する方法や、サプライチェーンにおける環境や労働条件への影響について学ぶ。具体的なトピックとして、CSR（企業の社会的責任）、ESG（環境、社会、ガバナンス）指標の活用、グリーンビジネスの展開、サステナビリティ報告書などを取り上げる。さらに、国際的な企業行動の規範や、国際機関やNGOとの連携についても議論する。この科目を通じて、学生はビジネスパーソンとしての持続可能な視点を身につけ、社会的、環境的な価値を創造する能力を向上させることを目的とする。	
専門 科目	発展 科目	環境	気象学		この授業科目は、はじめて気象学を学ぶ学生を対象に、気象学の基礎事項(大気放射・大気力学・大気化学)について解説する。様々な気象現象は、基本的な自然法則を用いて理解することができる。例えば、地球の夕焼けは赤いけれど火星の夕焼けは青いこと、梅雨に雨が多いこと、オゾンホールはなぜ出来るのか、温室効果によって気温が上がる理由などである。天気が移り変わる仕組みや、代表的な気象現象を理解し、身近な気象から世界的な気象・気候変化などについて理解を深めることを目的とする。	
専門 科目	発展 科目	環境	気候変動論		この授業科目は、大気、海洋、陸地表面の相互作用に焦点を当て、気候変動や気候システムの理解を深めること、また地域によって異なる気候が人間活動・社会に与える影響について考察することを目的とする。気象学、地球科学、生態学、統計学などの学問分野と関連させて、地球温暖化、極端な気象現象、気候変動の影響などについて学ぶ。気候変動が地球上の生態系や人間社会に及ぼす影響、そしてそれに対処するための国際的な取り組みや政策についても議論する。地球規模で生じている気候危機に関連する諸問題の問題解決能力を養うことを目標とする。	
専門 科目	発展 科目	環境	環境数理科学		自然科学のみならず社会科学の諸問題の理解と解決のために数学が欠かせないことは常識となっている。工学、理学、医学、農学、経済学、法学、社会学など多くの領域と関わる環境科学においても数学は当然不可欠である。講義形式による本授業科目においては、主に環境科学における諸問題から本質を見出し数学の問題に読み替える方法（数理モデル化）とそこで使われる数学について学修する。具体的には「基礎数理科学」で学習した微分積分学の発展として基本的な型の常微分方程式を学び、それを実際の問題の記述と解決のために応用する方法を学修する。数学的な厳密さにはこだわらず、現実の問題への応用の可能性を論じることを目的とする。	
専門 科目	発展 科目	環境	環境データ解析		様々な地球環境の理解のためには、人工衛星等によるデータ利用が不可欠である。また、地球温暖化問題などを考える際には、100年以上にわたる長期データを利用する必要がある。現在の状況を理解し、将来の予測を行うためには、データの特性を正しく理解し有効な解析手法を用いることが重要である。本授業科目では、地球環境計測のための地上・衛星観測の原理、特にリモートセンシングの様々な手法について学修する。また、衛星・宇宙機データや気象再解析データなどについて、データの取得方法や性質などを理解するとともに、環境データの解析手法の基礎について学修する。	

授業科目の概要						
(国際共創学部国際共創学科)						
科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	発展科目	環境	科学シミュレーション		数値シミュレーションとは、いくつかの仮定のもとで、コンピュータの中で模擬的な実験を行うことである。通常の実験や観測、理論研究と同様に現代では欠くことのできない科学・技術の研究手法の1つでもある。また、シミュレーションは、気象予報に代表されるように、自然法則に基づいた未来予測を可能とする現在では唯一の方法である。この授業科目では、科学・技術計算の基礎となる数値微分や数値積分などの方法を学修するとともに、常微分方程式に基づく物理現象のシミュレーションや、モンテカルロ法による乱数を使った確率的シミュレーションなどの方法を学修する。	
専門科目	発展科目	環境	複雑系科学		米国の気象学者エドワード・ローレンツによって「カオス」が発見されて以来、自然界の現象の中には物理法則に基づく決定論的な未来予測が不可能なものが存在することが明らかとなった。その代表的なものが気象現象であり、長期の数値予報は不可能または困難と考えられている。この授業科目では、複雑系の概念、及び自然界における非線形システムや非線形現象のいくつかを理解することを目的とする。また、複雑系を数理的に解析、理解するうえで重要なカオスやフラクタル、また、簡単な数理モデルについて学修する。	
専門科目	発展科目	環境	情報セキュリティの理論		現代のような高度情報通信社会において、情報をどのように守るかは極めて重要な課題である。講義形式による本授業科目においては、情報セキュリティの要である現在利用されているいくつかの暗号技術について、その仕組みを理解することを目的とする。暗号の歴史を振り返ることから始めるが、これら古典的な暗号は「鍵配送問題」という根本的な問題を抱えている。この問題を解決すべく1970年代に公開鍵暗号という考え方が現れた。公開鍵暗号の例として有名なRSA暗号やエルガマル暗号は、初等整数論に基づく暗号であり、その数学的背景とともに暗号の仕組みを学修する。	
専門科目	発展科目	環境	地球環境学特殊講義 (グローバル気候学)		この授業科目は、地球温暖化の原因としての人為的な温室効果ガス排出や自然変動、そしてそれが引き起こす極端な気候現象に焦点を当てる。気候変動の科学的根拠やメカニズム、さらには地域ごとの影響とその対策について学ぶ。授業では、科学的なデータを使用して気候変動の予測や影響を分析し、対策を検討する。また、気候と人間社会との関係を、気候変動や気候変化の観点から取り上げ、地域社会への影響と影響緩和について考察し、自身の考えを提言することを目的とする。	
専門科目	発展科目	環境	地球環境学特殊講義 (地球・宇宙環境学)		この授業科目は、地球から宇宙に至る自然環境や現象、宇宙環境利用等に焦点をあてる。例えば、人間活動の影響(人為的な温室効果ガスの増加の影響)により高度80 - 90km に出現するようになった夜光雲と呼ばれる地球で最も高高度の雲や、太陽嵐とオーロラの関係、また太陽嵐(宇宙嵐/磁気嵐)が衛星通信などに及ぼす影響(宇宙天気)、スペースデブリ(宇宙ゴミ)の問題などについて学修する。授業では、地球・宇宙環境理解に不可欠な地上・宇宙機観測データの利用方法や、数値予報の方法などについて理解を深める。	

授業科目の概要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	フィールド・実践科目	フィールドワーク入門	○	この授業科目は、実地調査やフィールドワークの基礎的なスキルを身につけ、景観と人間の営みを結びつけて考察する力を養う科目である。フィールドワークの目的や意義、計画や準備の重要性について理解を深める。さらに実際の現地調査を通じて、データ収集、観察、測量、地図作成などの実践的なスキルを修得する。大学が立地する吉祥寺エリアを手始めに、新大久保のエスニックタウン、赤坂・六本木・麻布地区の多国籍エリアなどを対象に、実地調査を行い、その後調査結果の報告プレゼンテーションを実施する。	
	フィールド・実践科目	国内フィールドスタディ		本授業科目では、大学での講義と、教室をはなれた国内(地方の都市部や農村など)でのフィールドワークをあわせて実施する。国内におけるフィールドワークの意義や方法、実施場所となる地方の東京とは大きく異なる課題や特徴についての事前学習を実施した後、実際に現地での調査・実習を実施する。現在、地方が直面している課題の解決に向けた取り組みを実体験することにより、国内フィールドワークの手法や現場での様々な困難や制約などを理解する。また、事後学習により、社会課題の背景や解決方法についての理解を深める。	
専門科目	フィールド・実践科目	共創プロジェクト		本授業科目では、プロジェクトデザインの基礎力、及び情報・資料の収集と分析力、マネジメント力の涵養を目的とする。地域における社会課題や、地域のさまざまな特徴や価値を見出し、課題の解決や地域の魅力の発信等に取り組むプロジェクトを実施する。学生ひとりひとりが主体的に調査・実習に取り組むとともに、プロジェクトの企画、運営、実施を通じて他者(他の受講学生や自治体、企業、住民などの地域の方々など)と協働することにより、課題に取り組む手順、知識の活用方法、他者との合意形成の方法などを学修する。	
専門科目	フィールド・実践科目	海外フィールドスタディ		本授業科目では、大学での講義と、教室をはなれた海外でのフィールドワークをあわせて実施する。海外におけるフィールドワークの意義や方法、実施場所となる地域の課題や特徴についての事前学習の後、実際に現地での調査・実習を実施する。他国が直面している課題の解決に向けた取り組みや、そのための国際協力(支援活動)などを実体験することにより、海外フィールドワークの手法や現場での様々な困難や制約などを理解する。また、事後学習により、世界的な社会課題と実習先での体験とを結びつける。	
専門科目	フィールド・実践科目	人文フィールド調査法		本授業科目は、人文地理学的な地域調査法・地域研究法を身につけるための演習科目である。本授業は、インドアおよびアウトドア双方の演習を通じて、人文地理学での地域研究における現地調査の方法や調査結果の図表への表現の仕方などの技術を身につける。具体的には地図(地形図)の利用、景観および土地利用調査、統計や現地資料の収集、関係者への聞き取りなどを通して対象地域の人文的事象とその背景を把握し、分析して表現する手法を身につけ、活用できるようにする。	
専門科目	フィールド・実践科目	自然環境フィールド調査法		この授業科目は、自然環境を調査し理解するための方法や技術を学ぶ。具体的には、地質の分析、地形測量、水質調査、植生調査、気象観測などの方法を学び、実際に野外で測器を使って実習を行う。さらに、地域の生態系や環境に関する調査設計やサンプリング方法、データ収集と解析の手順について理解を深める。地域住民や関係者とのコミュニケーションや協力を図りながら、調査結果を地域社会や行政に提供する報告書やプレゼンテーションの作成方法にも触れる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	フ ィ ー ル ド ・ 実 践 科 目	理学基礎実験		本授業科目では、自然科学基礎A～Dで学ぶ広範な自然科学の内容に関連するものの中から、身近な自然法則・現象・物質などを選んで実験・実習を行い、自然現象や科学の基礎知識の修得と、我々の生活と科学との関りを理解することを目的とする。特に環境やエネルギーと関りの深いテーマを多く設定し、自然環境や環境計測の方法を理解することも目的とする。授業の前半で、実験・実習の原理や方法についての解説を行い、後半で実験・実習を行う。実験・実習を通して測定器具の使い方、実験データの取り扱い（整理の仕方や誤差の考え方など）、レポートの書き方（特にグラフや図表の書き方、レポートの構成）などを修得する。	共同
		環境科学実験		この授業科目では、地域の環境や地球科学に関連したフィールド調査や博物館見学・実習などの本物に触れる体験を通じて、地球46億年の歴史を実感しながら学ぶことを目的とする。授業は原則としてフィールド調査や博物館見学・実習をメインとし、事前事後の講義により構成される。この授業科目を通じて、野外調査に必要な観察力と、現場での考察力を身につける。また、博物館の見学・実習により、学術資料の整理や展示方法、サイエンスコミュニケーションについて学修する。	
専門 科目	フ ィ ー ル ド ・ 実 践 科 目	国際協力論		現在の国際社会において、環境問題、自然災害、感染症、経済格差、教育、貧困、人権問題など多くの課題がある。これらは、もはや国ごとの課題ではなく、地球規模の課題として解決すべきものと認識されている。日本でも、多くの方々が国際機関やNGOなどと協力して上記のような様々な課題の解決に向け国際協力に関わっている。本授業科目では、地球規模の課題の具体例と、現在行われている国際協力の取り組みについて理解することを目的とする。国際協力の現場に様々な立場で関わってきた方々(実務者)を学外からゲストスピーカーとしてお招きし、国際協力の最前線での取り組みと体験談を通して、今後の国際協力について考える。	
専門 科目	日 本 語 教 員 養 成 コ ー ス 科 目	日本語教育概論		この授業科目は、日本語教育の現場、学習者、仕事の内容を確認するところから始め、日本語教育の現状や目標についての知識を身に付け、学習者を取り巻く状況についての理解を深めることを目標とする。この過程を通して、日本語を母語としない学習者に新しい言語として日本語を教える日本語教師の役割を自覚し、日本語教師を目指す心構えを再確認する。同時に、外国語としての日本語の特徴などの知識の修得、および日本語教師に必要なコミュニケーション能力や対人スキルの向上も目的とする。	
専門 科目	日 本 語 教 員 養 成 コ ー ス 科 目	日本語教育事情		この授業科目では、学習者が面白いと感じる日本語授業の設計について取り上げる。日本語学校では、各教師が毎日数コマ同じ教室で日本語を教えるが、毎日同じ教え方を続けていると学習者は飽きてついてこなくなる。従って、学習者の意欲を保ち、楽しく授業ができる工夫をすることは教師の重要な任務となる。最近では、ゲーム性を授業に取り入れることを多くの教員が実践している。本科目では、履修生が「ゲームと教育」についての知識を得、日本語教育の現場で必要な用語や知識を修得し、自分が履修している授業を客観的に分析・評価できるようになることを目標とする。	

授業科目の概要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	日本語教員養成コース科目	言語学講義（言語と社会）		この授業科目では、言語に関わる諸問題を社会や認知との関わりで考えていく。言語を分析するさいには、それを音声や音韻、意味といった諸要素に分解して考察していく方法もあるが、この授業では、そのような諸要素に分解するのではなく、一つの言語現象として考察する方法を学ぶ。具体的には、社会言語学・認知言語学・語用論と呼ばれる分野について主に学ぶことになる。この過程を通して、言語現象を社会性に注目しながら分析的に捉える力の涵養を目標とする。	
専門科目	日本語教員養成コース科目	日本語の学習と習得		この授業科目では、言語の修得の認知面と情意面という2つの側面について理解を深めていく。日本語教師が効果的に日本語を教えるため、また学習者が効果的に外国語を学習するため、言語が修得され使われ理解される過程とメカニズムを知る必要がある。前者としては、記憶についてのモデル、言語処理モデル、母語獲得理論、モニターモデル、相互交渉仮説、アウトプット仮説等を紹介し、後者としては、学習ストラテジー、学習者の要因について紹介する。本授業は、履修者が効果的な言語の修得の仕方について知り、学習者と向き合う際に役立てられるようになることを目標とする。	
専門科目	日本語教員養成コース科目	日本語教授法		この授業科目では、日本語教育で用いられている様々な外国語教授法について学ぶ。日本語教育は、日本語を教えるという点においては国語教育と関連しているが、国語教育の学習者がすでに日本語を自由に操る母語話者であるのに対して、日本語教育では、他言語を母語とする学習者にゼロから日本語を教える。この点においては国内の外国語教育に類似するが、例えば国内の英語学習者が日本人であるのに対し、日本語教育は外国人学習者を対象とする。従って、日本語教員は、外国語教授法と多文化共生能力を兼ね備えておく必要がある。本科目は、過去と現代の主要外国語教授法を通じて、履修者が学習者の目的に適した教授法、教材を選び、効果的な授業を設計する知識とスキルを身に付けることを目標とする。	
専門科目	日本語教員養成コース科目	日本語教育理解と実践		この授業科目では、日本語教師に求められるファシリテーション（facilitation）について学ぶ。これまでの日本語教育では、知識を伝授する指導者を中心とした学びの形態が主流だったが、近年はペアワーク、グループワーク、ディスカッションを通じて、学習者同士が互いに関わり合いながら言語運用能力を獲得する主体的・協働的な学びが脚光を浴びている。日本語教師は、学習者に存在を意識させたり、心理的負担をかけることなく、脇役として学習者のペア・グループを効率的に動かすファシリテーターになることが求められる。この授業では、「どうすればいいファシリテーターになれるか」を一緒に考えていく。授業前半では講師が提供するアイスブレイキング（icebreaking）を体験し、ファシリテーターについて考える。後半では、学生がファシリテーターとなりクラスでアイスブレイキングを行う。また、これらの活動を通して、本授業は、日本語教師に必須の異文化間コミュニケーション能力についての基礎的な概念を教えることも目標とする。	
専門科目	日本語教員養成コース科目	日本語教育演習		この授業科目では、実践的な教案作成の仕方について学ぶ。日本語教育の現場で、初任の教師（経験の浅い先生）が練習を重ねなければならないのが教案の書き方だ。現場の主任教師から「動詞のグループ分けを教えてください」と言われたら、自分で参考書やネットなどを調べて教案を書き、主任に承認してもらわなければならない。実際の現場ではきちんとした教案を書けない先生は少なくない。そこで、本授業は、日本語教育でよく使われる教材について調べ、教案を書く練習を行うことを目的とする。教案は、通常一人一人が書くものだが、本授業では、ペアかグループになって楽しく教え合いながら教案を作成する。	

授業科目の概要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	日本語教員養成コース科目	日本語教育方法論		この授業科目は、日本語教育の指導現場で必ず使うことになるロールプレイを取り上げ、履修者が教材開発・作成、さらには学習者の日本語を分析する方法についての知識・技能を身に付けることを目標とする。はじめにロールカードの書き方について学び、自分で作成したロールプレイ会話を録音して音声データを作る。こうしたデータは、文法的な文が整然と並ぶ書き言語とは異なり、言い淀み、言い換え、話者の発話に重なる聞き手の相槌、話者交代時の発話の重なりで埋められた未完成文、非文の羅列である。本授業では、音声データの文字化規則について学び、さらに会話分析スクリプトの作成を通じて、学習者の日本語を分析し指導に役立てることを目標とする。	
専門科目	日本語教員養成コース科目	言語の構造		この授業科目では、ヒトの「コトバ」の仕組みについて学ぶ。コトバは、ヒトが進化の過程で獲得した生得的な「心的器官」と生後に獲得する諸規則の相互作用によって成り立っているとされる。コトバは、いくつかの独立した部門に分かれ、各部門には最小単位があり、それを結びつけて塊をつくる法則があり、塊を結びつけさらに上位の塊をつくる法則がある。本科目では、履修者が音声部門、音韻部門、形態部門、統語部門における構成素と構成素を組み合わせる法則の学習を通じて、日本語や他言語に関わる観察力、洞察力を身に付けることを目標とする。	
専門科目	日本語教員養成コース科目	対照言語学		この授業科目では、文法体系や音韻体系が著しく異なる他言語と比較することで、日本語の特徴と他言語との共通性について考察する。文法体系、音韻体系が著しく異なる日本語（語族不明）と英語（印欧語族ゲルマン語派）を中心に比較・対照を行う。本科目は言語科学にもとづいた対照を通じて、受講者が、日本語教員に求められる言語一般に関する洞察力、日本語が他言語と共有する普遍性と他言語と一線を画す特質についての説明能力、学習者の母語についての観察力を高めることを目標とする。	
専門科目	日本語教員養成コース科目	日本語教育実習		この授業科目では、受講者が日本語教師に必要な基礎的な技能・態度に含まれる教育実践のためのスキルと言語教育者としての態度、学習者・社会に対する態度を身に付けることを目標とする。本科目は、オリエンテーション・教壇実習・授業見学・授業準備・模擬授業・全体の振り返りの6項目から構成される「日本語教員養成コース実践研修」のオリエンテーションと教壇実習の部分で成す。本授業では、履修生（以下「実習生」）が、これまで学んだ知識を生かして、外国人学習者に実際に授業を行う。各実習生は、45分間の教壇実習を2回担当し、他の実習生による教壇授業に出席する他、マンツーマン指導実習を複数回担当することが求められる。本科目のクラスアワー以外にも、各教壇実習の前に、担当教員による教案作成指導（2回）と模擬授業（2回）、成蹊大学の留学生を対象とした日本語クラスの見学（1回）がある。	